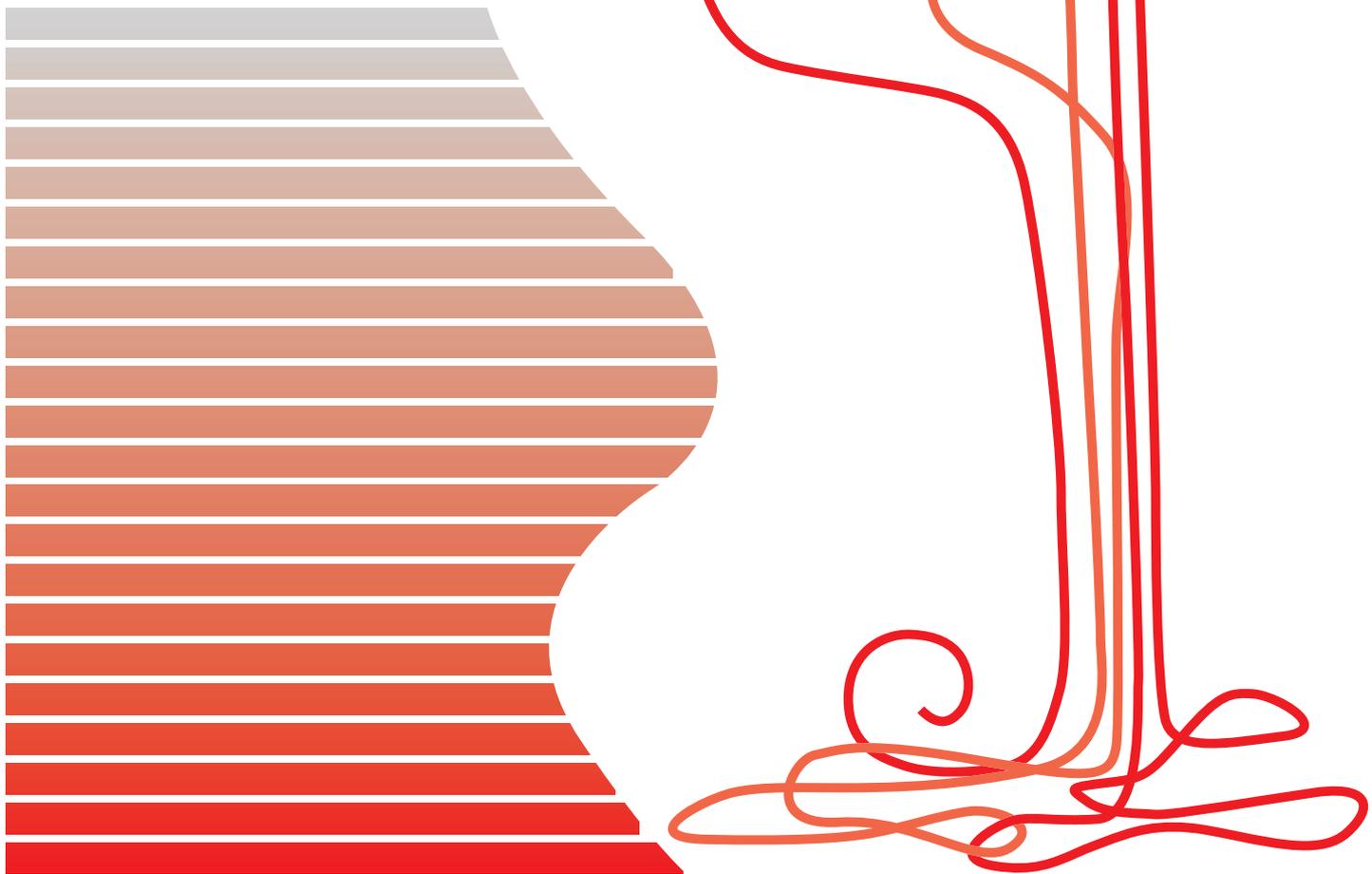


WINET 情報

ウイネット

No. 5

2000. 3



国立婦人教育会館

WINET情報 ● CONTENTS

第5号 平成12年3月

巻頭言 目黒 依子 1

会館事業情報

全国ボランティア情報提供・相談窓口事業 2

平成11年度海外婦人教育情報専門家

情報処理研修事業 6

男女共同参画学習フェスティバル

'99in又エック 10

婦人教育情報センターより

女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会 14

NWEC女性情報ニューシステム

「Winet CASS」(ウィネットキャス) 16

海外女性情報

隠された女性たちの素顔

- サウディ・アラビア見聞録 中野 洋恵 18

書誌情報

女性・家族関係雑誌記事インデックス 25

テーマ展示図書案内 44

新着図書案内 49

編集後記

WINET(ウィネット)とは...WINET(Women's Information NETWORK system)は、国立婦人教育会館が収集している女性及び家族に関する様々な情報のデータベース検索システムの総称です。

国連が1975年を「国際女性年」とし、第1回世界女性会議において平等・発展（開発）・平和を実現するための「世界行動計画」を採択して以来、4半世紀が経ちました。この間に、ある程度の目標達成にむけての進展がみられた反面、新しい問題も浮上してきました。特筆すべきは、女性の地位向上の捉え方が、地位の低い、問題を抱えた女性の向上という「女性問題」から、女性問題の解決のためには既存の「社会的・文化的に作られた」男女の関係性の変革を必要とするという「ジェンダー問題」に変化してきたことだといえます。それは、1985年の第3回世界女性会議において明確となり、女性のエンパワーメントが戦略概念として位置づけられ、10年後の第4回世界女性会議において採択された「北京行動綱領」のアジェンダとなったわけです。

1995年の北京会議以降、国連婦人の地位委員会では「北京行動綱領」に盛り込まれた重大領域における各国の実施状況について評価およびさらなる進展のための方策を討議してきました。このような作業の結果に基づいて、21世紀に向けてのさらなる戦略を確認することが、「女性2000年会議」の課題の中心となっています。各国における実施状況はまちまちで、特に、北京会議以降に生じた政治・経済における変化の影響を受けた国々では、その悪影響が女性により多くみられることが報告されています。しかし一般的にいえることは、制度的な面での男女平等はある程度進んできていること、そしてそれゆえに、性暴力や女性の人権などに関わるより見えにくい領域の問題が顕在化してきたということでしょう。また、制度面での整備も、名目的なレベルに留まり、実質的なところに到達していない状況があるといえます。

日本政府は「国内行動計画」の実施を主として啓発活動から制度改革へという形で進めてきた結果、ようやく「男女共同参画社会基本法」の実現という段階に至り、「基本計画」のまとめに向かっていくところです。小淵総理は、21世紀を人間の生存、生活、尊厳を、あらゆる脅威から守るというアプローチをとる人間中心の世紀にしようと呼びかけているのですが、ここには、女性・女兒があらゆる脅威の被害者となりやすい構造の下では、当然のことながらジェンダーの視点が不可欠であるという認識がなければなりません。

日本社会は、どちらかというと形式を整えることを重視し、中身をかためてその成果を確認するという作業に関心が少ない、という特徴を持っています。「基本法」の精神を活用して、実質的な男女平等を達成するのは、私たちの課題だと思います。

プロフィール

めぐろ・よりこ 1938年生まれ。高知県の高校を卒業後、米国の大学で学士号、東大大学院社会学研究科で修士号、米国ケイス・ウェスタン・リザーヴ大学大学院で博士号を取得。1983年から上智大学文学部社会学科教授。1993年から放送大学客員教授。1997年から国連婦人の地位委員会日本代表。

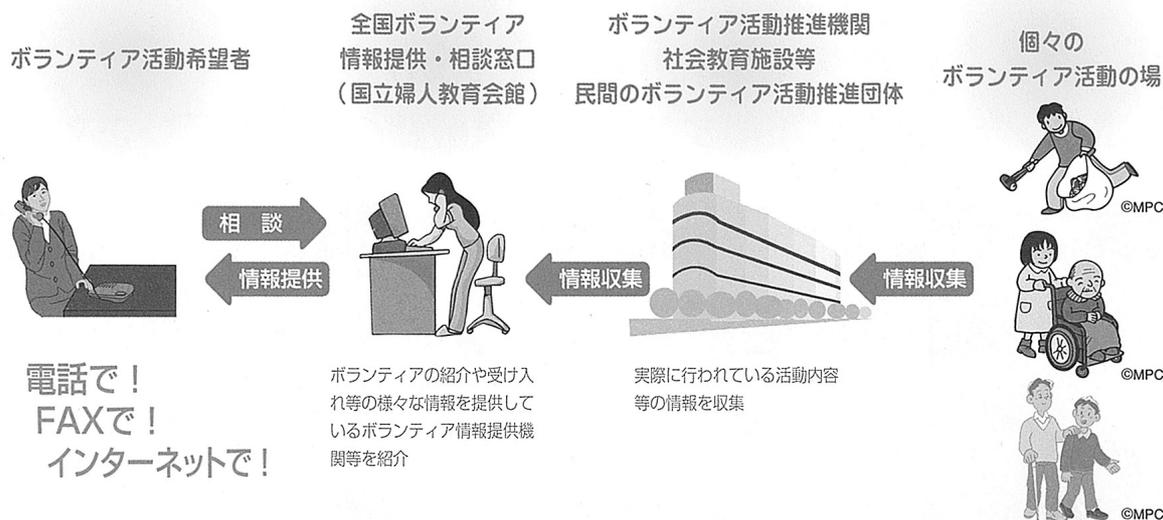
<著作> 『個人化する家族』、『ジェンダーの社会学』、『家族（講座社会学2）』ほか。

全国ボランティア情報提供・相談窓口事業

1. 概要

会館では文部省からの委嘱により「全国ボランティア情報提供・相談窓口事業」を平成12年2月22日(火)から実施しています。生涯学習の観点から、主としてこれからボランティア活動を始めようとする人々に対し、活動に参加する動機付けを促進し、希望に沿った活動に結びつける機会を提供するものです。どこに問い合わせれば希望するボランティア活動の情報が得られるかについて、ボランティア情報提供機関の紹介を電話、FAX及びインターネットにより行います。なお、インターネットによる情報提供は会館ホームページから24時間公開しています。

全国ボランティア情報提供・相談窓口の概要



電話番号：0493-62-1131 / FAX番号：0493-62-8185 / E-mail：vol@nwec.go.jp

ボランティアをやってみたいけれど
活動できる場を紹介してくれる窓口はないかなあ？

身近な窓口の紹介

- ・自分の住んでいる地域
- ・勤務先に近い地域
- ・その他、自分がボランティア活動をしたい地域

様々な活動の窓口の紹介

- ・どんな分野があるのかな？
- ・これまでの知識・経験を生かせることはないかな？

1. 電話による情報提供 0493-62-1131
2. FAXによる情報提供 0493-62-8185
3. E-mailによる情報提供 vol@nwec.go.jp
4. インターネットによる情報提供 <http://www.nwec.go.jp>
(国立婦人教育会館ホームページから検索できます)

2. 紹介できる情報提供機関等

生涯学習センター、生涯学習ボランティアセンター、ボランティア活動に関する相談窓口
首長部局の所管ボランティア活動推進機関
都道府県・政令指定都市社会福祉協議会ボランティアセンター
民間のボランティア活動推進団体
「広がれボランティアの輪」連絡会議への加入団体
中央青少年団体連絡協議会加盟団体
その他

3. 紹介できるボランティア活動分野等

ボランティア活動の分野は次の から までですが、それぞれの分野には()内に示したような活動があります。

教育(子育て、社会教育施設の活動、青少年指導、学習指導、いじめ、学校、人権等)
福祉(障害者介助、高齢者介助、点字、手話、病院、患者・家族の支援、助け合い等)
スポーツ・レクリエーション・趣味(野外活動、書道、絵画、園芸、料理、楽器、歌等)
自然保護・環境保全(生態系保護、野生動物保護、エコロジー、クリーンアップ活動等)
地域活動(祭礼、防災、地域づくり、交通安全、災害支援等)
国際協力(海外支援、災害支援、在日外国人支援、帰国者支援、難民支援、翻訳等)
医療、メンタルヘルス(献血、アイバンク、腎バンク、骨髄バンク、いのちの電話等)
収集(募金、寄附、はがき、切手、テレカ、コイン、ベルマーク、グリーンスタンプ等)
リサイクル(古紙、ごみ、衣料、ビン、缶、せっけん、フリーマーケット等)
その他

4. 全国ボランティア情報提供・相談窓口利用状況（平成12年2月22日～3月31日累計）

相談件数

電話	378
FAX	59
E-mail	57
計	494

*データベースアクセス数 15,719

相談者数（複数回答あり、データベースアクセス数は除く）

【個人】		【団体】			
学生	75	市民活動	19	マスコミ	4
勤労者	58	社会福祉協議会	12	企業	1
主婦	77	学校・教育	6	医療	1
シニア	22	福祉	1	その他	18
不明	188	行政	9		

相談分野別（複数回答あり、データベースアクセス数は除く）

A. 教育	37	E. 地域活動	5	I. リサイクル	17
B. 福祉	61	F. 国際協力	40	J. その他	73
C. スポーツ・レク・趣味	13	G. 医療	13	K. ボランティア全般	52
D. 自然保護	18	H. 収集	9	L. 不明	3

提供機関別（複数回答あり、データベースアクセス数は除く）

生涯学習センター	33
首長部局の所管に関する相談窓口	36
都道府県・政令指定都市社会福祉協議会ボランティアセンター	217
民間のボランティア活動推進団体	39
「広がれボランティアの輪」連絡会議への加入団体	0
中央青少年団体連絡協議会加盟団体	0
その他	76
不明	104

都道府県別相談件数

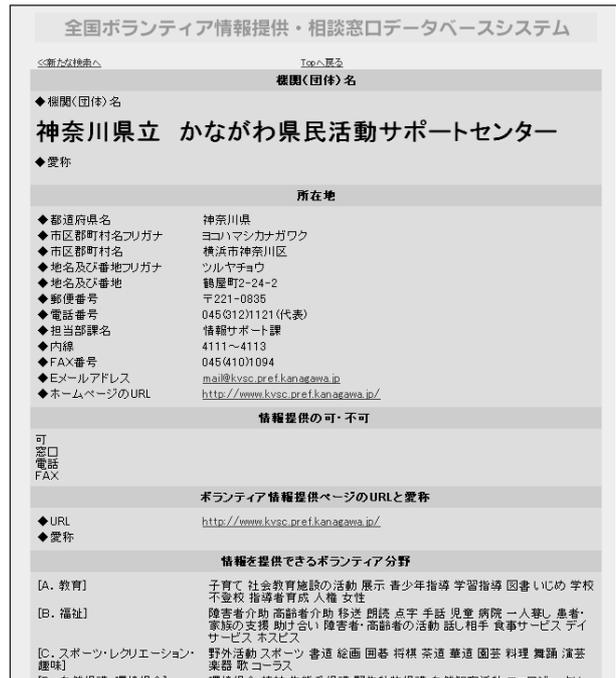
北海道	5	富山	0	千葉	40	和歌山	2	岡山	3	佐賀	1
青森	6	長野	3	栃木	10	滋賀	2	広島	0	長崎	2
岩手	1	石川	1	群馬	11	奈良	9	山口	1	熊本	2
秋田	4	福井	0	茨城	11	兵庫	13	徳島	6	大分	1
福島	5	山梨	3	岐阜	5	京都	3	香川	0	宮崎	1
宮城	3	神奈川	31	静岡	7	大阪	14	愛媛	1	鹿児島	3
山形	0	東京	90	愛知	4	鳥取	1	高知	1	沖縄	7
新潟	4	埼玉	33	三重	3	島根	3	福岡	9	不明	129

5. 全国ボランティア情報提供・相談窓口データベース

データベースは会館のホームページから検索できます。(アドレス <http://www.nwec.go.jp>) このデータベースは、ボランティア情報提供機関について、地域や分野を指定するだけで簡単に検索することができます。

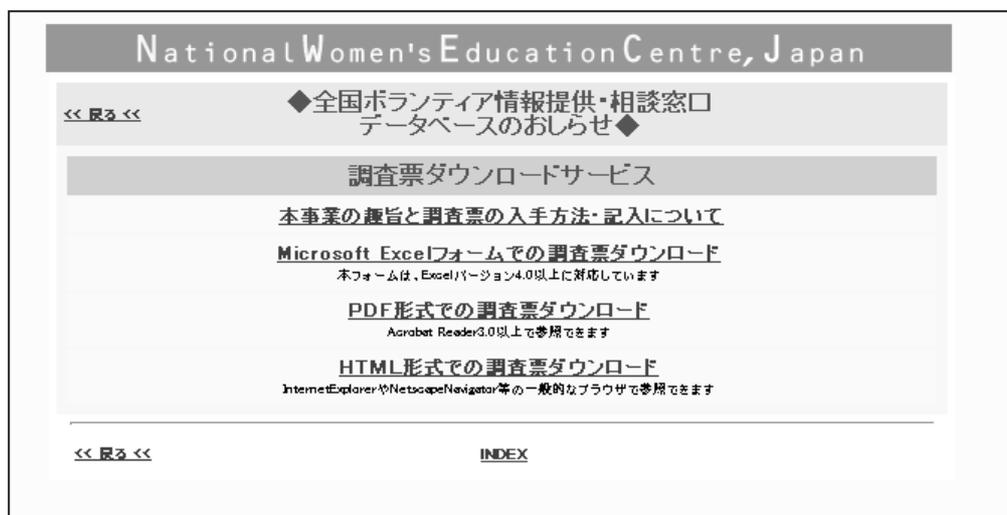


<データベースのトップページ>



<データベースによる検索結果例>

全国のボランティア情報提供機関の皆様へ
データの登録を随時受け付けておりますので御協力をよろしくお願いたします。
登録についてはデータベースから調査票を入手のうえご連絡ください。



<調査票ダウンロード画面>

ご利用お待ちしております。

平成11年度海外婦人教育情報専門家 情報処理研修事業

1. 概要

国立婦人教育会館では、平成11年7月25日から9月1日の40日間、アジア太平洋地域の6カ国から6名の研修生を迎えて、海外婦人教育情報専門家情報処理研修事業を行った。この事業は、政府開発援助（ODA）の一環として平成元年度から毎年実施しており、婦人教育、女性情報等の専門家をアジア太平洋地域から招致して、女性問題の意識啓発に関する分析・まとめの技術、及び情報メディアの活用を修得するとともに、アジア太平洋地域における女性問題に関して相互理解を深め、女性情報ネットワーク化の促進を図ることを目的としている。

今年度は会館電子計算機システムの新機種への更新に伴い、インターネット環境が整備されたため、婦人教育、女性情報について、情報技術を修得してホームページ作成等の実践に結びつけた力をつけることに重点を置いた研修プログラムを実施した。その研修成果について報告する。

2. 研修生紹介

研修生は以下の6カ国6名であった。

	Sainiana Vulagica Rokovucago (サイニアナ・ヴラニバ・ロウヴバゴ) フィジー (Fiji) 女性及び文化省女性のための情報担当官
	Aren Ueara Teannaki (アレン・ウィーラ・ティーンナキ) キリバス (Kiribati) 環境及び社会開発省女性開発担当官
	Faridah Zainal Abiddin (ファリダ・ザイナル・アビディン) マレーシア (Malaysia) 全国統一及び社会開発省女性局司書

	Khishigsuren Lkhagva (ヒシゲ・ハクワ) モンゴル (Mongolia) 健康及び社会保障省統計担当官
	Agnes Inocencio Dichoso (アグネス・イノセンシオ・ディチョソ) フィリピン (Philippines) 全国女性の役割委員会統計官II
	Firuza Bakhodiroba Kabulova (フィルザ・バハディオブナ・カプロバ) ウズベキスタン (Uzbekistan) 国連開発計画事務所財務部職員



開講式

3. 全体プログラム

(1) カントリーレポートの発表

研修生が事前に用意した自国の女性の現状に関するレポートをもとに情報交換を行い、研修生、講師及び会館職員との討議を行った。



(2) 講義

女性問題及び情報に関して、日本の教育における男女平等、女性行政から世界の女性の識字、女性の健康、開発と女性、女性学教育について幅広く学び、また女性情報ネットワークとして最新のネットワーク論、女性とメディアの関わりについて学ぶために以下の講義を行った。

- ・「日本の教育における男女平等」有松育子氏
(文部省男女共同参画課長)
- ・「日本の女性行政について」田河慶太氏
(総理府男女共同参画室企画官)
- ・「開発と女性」伊藤るり氏 (立教大学教授)
- ・「女性学教育」藤村ファンズロー久美子氏
(東洋英和女学院大学教授)
- ・「女性と識字」千葉泉弘氏
(日本基督教大学大学院教授)
- ・「女性とメディア」カレン・マー氏
(共同通信社海外部)
- ・「女性情報ネットワーク」橋本ヒロ子氏
(十文字学園大学助教授)
- ・「女性と健康」飯島愛子氏
(家族計画国際協力財団人材養成事業部長)



(3) 情報処理演習

情報処理演習は、本年度より新たな試みとしてインターネットによる情報発信を中心に行った。発信したいテーマを考え、インターネットによる情報やデジタルカメラを使って自分が見た日本の映像など様々なコンテンツを自らが収集し、ホームページ作成、イラストや写真の映像編集等を行い、ホームページを作成・発信した。また、美馬のゆり氏(埼玉大学教養学部助教授)、楠房子氏(多摩美術大学講師)によるコミュニケーションの重要性や情報デザイン、著作権等についての講義・ワークショップを段階的に組み込むことによりホームページの完成度が高まっていった。



題材をもとにホームページづくり

(4) プレゼンテーション

プレゼンテーションは、インターネットを用いて、自ら作成したホームページの紹介となった。「自国の女性の現状」「女性問題」「労働環境」「自分が見た日本」等、様々なテーマが取り組みられており、結果はすばらしいものであった。



(5) その他

その他に文部省関連施設(東京国立博物館、国立科学博物館)視察、会館ボランティアの受け入れによるホームビジット、地元嵐山町の中学校見学、町役場視察、学校PTAとの交流、夏祭りへの参加、また会館ボランティアによるお茶会等の日本の伝統文化体験も行った。

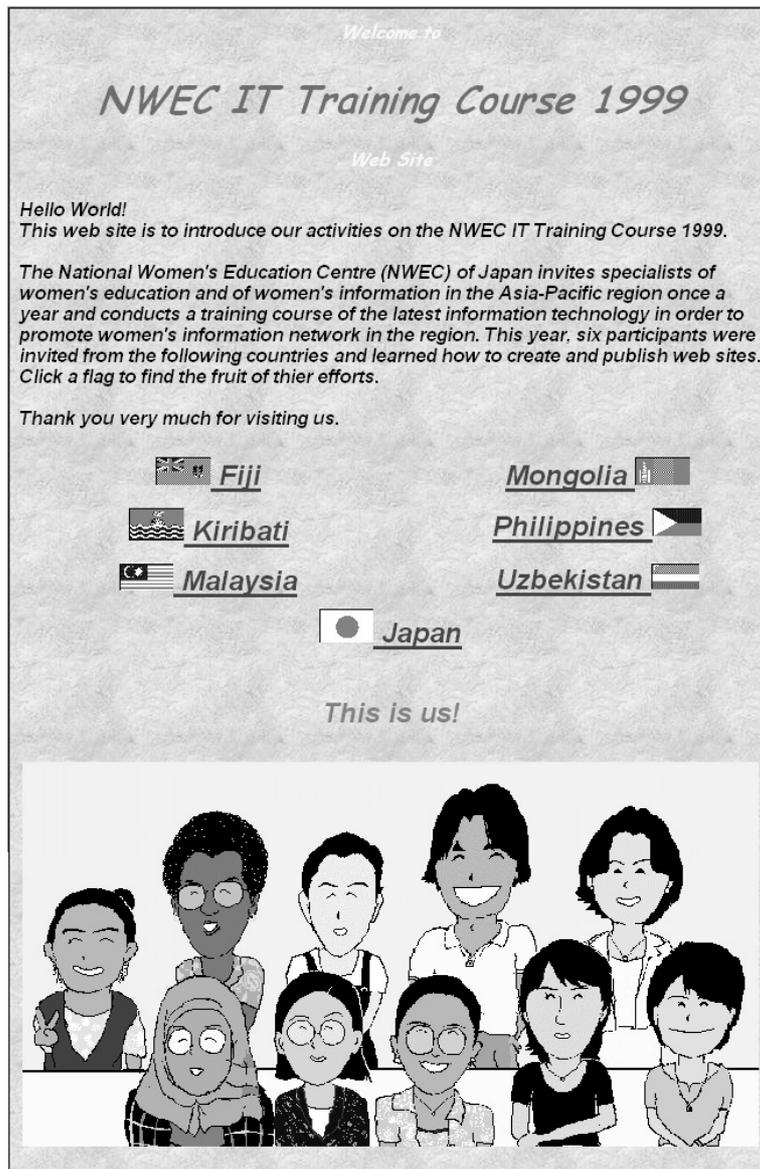


会館ボランティアによるお茶会

4. 研修生作成のホームページ紹介

今回の研修生が作成したホームページは以下のURLで見ることができる。

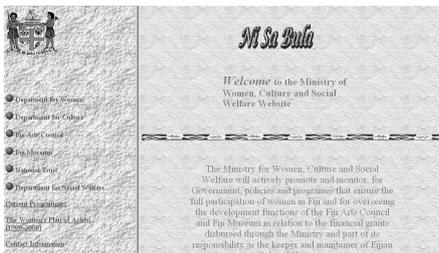
< 海外婦人教育情報専門家情報処理研修事業
1999 研修生作成ホームページのトップページ >
《URL <http://www.nwec.go.jp/itt/index.html>》



<イラスト>
6名の研修生と講師、
インストラクター

ホームページの見出しの和訳

「世界中の皆さん、このホームページは、国立婦人教育会館の平成11年度海外婦人教育情報専門家情報処理研修事業での私たちの活動を紹介するものです。会館は、アジア太平洋地域の女性情報ネットワークの推進を目的として、毎年同地域の女性の教育と情報の専門家を招いて、最新の情報技術の研修を行っています。今年は、次の6か国から6人が招かれ、ホームページの作成・公開の仕方学びました。国旗をクリックして、努力の結果を御覧ください。このページを見てくださって、ありがとうございます。」



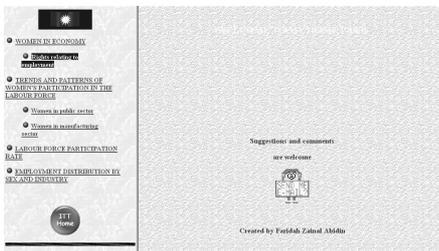
Sainiana(Fiji)

自国で所属する「Ministry of Women, Culture and social Welfare」がウェブサイトを持っていないため、自ら同サイトを作成。同省の紹介に加え、進行中のプログラムや同省発行の小冊子「Women's Plan of Action」などを紹介している。



Aren(Kiribati)

キリバスの紹介、本研修についてのレポート、「Situation of Women in Kiribati」の3部から構成される総合サイトを作成。「Situation of Women in Kiribati」については自らのオピニオンを前面に出し、ビジターとの意見交換ができるようにする予定とのこと。



Faridah(Malaysia)

自国の所属省のウェブサイトで未完成となっている部分を作成したいとの希望であった。今回は特に「Women in Economy」の部分に重点を置いて作成している。



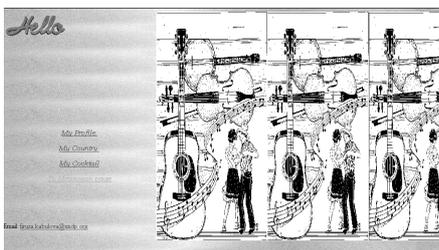
Khishigsuren(Mongolia)

自国の紹介、日本の中学校の学習風景、部活動の様子、学生との交流、ホームビジット、嵐山夏祭り等に参加し、デジタルカメラで自ら取材をした内容で構成されている。



Agnes(Philippines)

「Violence Against Women」の解説サイトをイラストを用いて分かり易く作成している。NVEC内のサーバから、外部プロバイダ(Geocities)のWebスペースを使って情報発信を行うことも試みている。



Firuza(Uzbekistan)

プロフィール、自国の紹介、日本人のライフスタイルの3部構成となっている。日本人の通勤風景、デパートのディスプレイ等、ユニークな内容となっている。

(国立婦人教育会館情報交流課専門職員 池田 淑子)

男女共同参画学習フェスティバル'99 in ヌエック

「エンパワーメントは21世紀への合言葉 - 新たなる共生をめざして - 」

国立婦人教育会館(以下「会館」という)は、平成11年度の新規事業として「男女共同参画学習フェスティバル」を開催した。このフェスティバルは、男女共同参画社会の形成に向けた学習・活動を行っている団体・グループを対象に、日頃の学習成果・実践活動の報告・発表、作品等の展示、交流の機会を提供し、ネットワークの充実を図ることを目的として実施したものである。

なお会館においては、地域で多様な学習活動・社会活動を行っている女性の全国的な交流の機会を作ることを目的として、昭和55年から平成8年まで「女性の国内交流集会」を開催し、また、平成9年は、会館20周年を記念して「女性の交流フェスティバル」を開催した。

1. 事業の特色

- (1) フェスティバルでは、より内容の充実を図るため、実行委員会(北海道・長野・石川・兵庫・岡山・沖縄の各都道府県教育委員会から推薦された6名及び国立婦人教育会館ボランティア2名の計8名)による企画・運営を行い、自主運営による2時間を限度としたプログラム(自由企画プログラム)を全国に募集し、40団体・グループが自由企画プログラムの運営を行った。
- (2) フェスティバル全体の参加者(公開講演会を含む)は、81団体・グループ570名、個人参加148名、計718名である。団体・グループは、都道府県・市町村教育委員会が企画した国内研修に関するグループが中心であった。
- (3) フェスティバルの内容は、公募による自由企画プログラムの他、女性・家族に関する今

日的課題についての「国立婦人教育会館研究紀要『第3号』入選論文報告会」、会館による家庭教育・婦人教育に関する情報提供、及び参加者相互の意見交換の場としての「テーマ別討論」、男女共同参画社会の形成に向けた有識者の公開講演会、交流を中心としたプログラム、会館ボランティアの案内による施設見学等で構成され、参加者それぞれが選択して参加できるよう工夫した。

2. 事業の概要

- (1) ジェンダーの視点を取り入れた女性や家族をめぐる様々な課題及び研究動向を探るため、また研究発表の場として「国立婦人教育会館研究紀要『第3号』入選論文報告会」を行った。

この報告会においては、紀要委員会委員長の天野正子氏(お茶の水女子大学教授)により、「ジェンダーと生涯学習」をテーマとして募集した「第3号」の寄稿論文についての講評、学びのプロセス・書くことと実践すること等についての講義の後、次の2名が入選論文の概要を報告した。

* 石川由香里(活水女子短期大学講師)
「アルコール依存症と女性の関わり - 妻のミーティング参加と『支え手』役割の変更」

* 加藤道代(東北大学講師)
「育児初期の母親の養育意識・行動とサポート資源」

- (2) 「テーマ別討論」においては、会館職員のコーディネートにより、家庭教育・婦人教育に関する今日的課題或いは課題解決に向けた

取組についての情報交換を行った。

テーマは、次のとおりである。

- ・日本の女性の現状について
- ・女性学教育 / 学習について
- ・ボランティア活動について
- ・地域活動ネットワークと団体・グループ活動について
- ・家庭・地域で担う子育て支援について
- ・インターネット体験 - 女性情報をインターネットで見よう



熱心に意見交換をする参加者

- (3) 全国から公募した40の自由企画プログラムの内容は、女性問題、男性問題、女性の教育 / 学習、女性政策、女性の労働、高齢者問題、女性への暴力などの25のワークショップの外、ミュージカル・演劇・コンサート等のパフォーマンス、和紙すき・切り絵・絵てがみ等の実技体験、写真・陶芸等の作品展示等多様な学習・活動について活発な情報交換・交流が行われた。



ワークショップ、
展示風景

- (4) 公開講演会においては、男女共同参画社会の形成に向け、「男女が対等な立場で責任を担う社会の実現をめざして」というテーマで、残間里江子氏（プロデューサー）と佐藤博樹氏（東京大学教授）による対談を行った。

対談では、男女はこれからどのような課題を担うのか、どう解決すればよいのか、男女のこれからの生き方、働き方についての討論の外、参加者との意見交換が行われ、「女性も変わり、男性も変わり、そして素晴らしい世の中にしていこう」と結ばれた。



公開講演会の残間氏、佐藤氏

- (5) 交流に関するプログラムとして、初日は夕食を兼ねた情報交換会が行われ、また2日目は、本館ロビーを会場として、地域色を出した踊り、歌、グループ紹介等、参加者による交歓会が行われた。

また、事前に連絡を取り合ったグループ相互の交流プログラムには、11グループが参加し、お互いの活動紹介、課題解決に向けての意見交換が行われた。



交歓会で踊りをとおして交流を楽しむ参加者

実施された自由企画プログラム一覧

No.	タイトル	実施主体	方法・内容
1	源氏物語から学ぶもの	源リウ会 埼玉	朗読・講義
2	本間栄子・語りの世界	本間栄子・語りの世界 東京	一人語り
3	人は歴史を創り人は未来を創る - 杉並の女性の活動の歴史	杉並女性団体連絡会 東京	ビデオ上映・冊子 展示
4	いま男性の自立意識を問う - 男性の職場・地域・生活から見えてくるもの	川崎の男女共同社会をすすめる会 神奈川	報告・討議
5	男女共同参画社会を実現するために不可欠な、男女の 相互理解を深めるための読書運動を展開しよう！	やませみ読書会 石川	読書会・討議
6	本音で語る ハンドブックづくりの喜怒哀楽!?兵庫県立女性センター・イーブン - 15冊のイーブンハンドブックの成果と課題	報告・井上はねこ 兵庫 さんとのトーク	
7	都市・農村女性会議 in さんだ	三田市立女性センターさんだ 兵庫	報告
8	平成11年利府町女性国内研修 - 自分の持てるものを生かすには	利府町公民館・ウーマンカレッジ 宮城	報告・ビデオ上映
9	甲府市女性市民会議活動報告	甲府市女性市民会議女性のつば さ研修グループ 山梨	報告
10	仮想条例を作ってみよう - 男女共同参画社会基本法 を私たちの「ことば」で(第4条を中心として)	ふえみわーど 神奈川	報告・討議
11	5年別居離婚・破綻離婚と女性	5年別居離婚に反対し、女性の 自立を考える会 愛知	ビデオフォーラム
12	'99 統一地方選を総括する - 女性議員が増えたわけ 増えないわけ	女性参画研究会・さが 佐賀	体験発表・討議
13	北アメリカ・シアトルの女性職人に会いに行こう!ツ アー報告会	トレーズウーマン 埼玉	ビデオフォーラム
14	高齢社会と女性の生き方を考える	'99しまねシンポビデオ制作委員 会 島根	報告・ビデオ上映・ 討議
15	写真展 - 国際高齢者年 - 今、なお生き生きと - 人のために、自分のために	婦人国際平和自由連盟日本支部 東京	写真展示
16	手作りミュージカル「おい、おい、行こか!」	ドラネコ座 岡山	ミュージカル
17	ビデオトーク 国際婦人デーのユニフェムビデオ会議 - 女性に対する暴力	国際婦人年連絡会ユニフェム委員 会 東京	ビデオフォーラム
18	スクール・セクシュアル・ハラスメントを考える	スクール・セクシュアル・ハラスメント 防止ネットワーク準備会 香川	報告・ロールプレ イ・討議
19	広がる情報社会の中で... 私達も情報社会へ...	電子レディースの会 石川	報告・展示
20	女性の目でみたまちづくり 「川のあるまちおっぱまよみがえれ鷹取川」	よこすか女性の連絡会・追浜ま ちづくり探検隊 神奈川	展示・活動報告
21	ハートフルたかまつ まちづくり、くらしづくり	高松市婦人団体連絡協議会 香川	報告・討議
22	肥後にわか 「あんたがたどこさ」	ぷらすONE 熊本	寸劇(20分) ・ワークショップ
23	震災から学び、自分の街を護りましょう	震災からまなぶボランティア あじさい千葉 千葉	パネル展示 ・被災者体験談
24	小平市女性のつどい20年のあゆみ - ネットワークを広げよう	小平市女性のつどい 東京	パネル展示
25	嵐山に奏でよう夢コンサート、報告	ゆかいな仲間 埼玉	報告・演奏

No.	タイトル	実施主体	方法・内容
26	切り絵作品展	小川町竹沢切り絵同好会 埼玉	展示・実技体験
27	和紙づくりに挑戦	和紙の会 埼玉	展示・実技体験
28	陶芸作品展	陶芸サークルせせらぎ 埼玉	作品展示
29	自然とのハーモニー	嵐山オカリーナ 埼玉	演奏（オカリナ、ケーナ等）
30	現代吟詠鶯風流波調会発表会	現代吟詠鶯風流波調会 東京	発表・入門講座
31	和紙づくりに挑戦	ペーパークラフト 埼玉	展示・実技体験
32	切り絵作品展	小川町切り絵同好会 埼玉	展示・実技体験

国立婦人教育会館ボランティアによる自由企画プログラム一覧

No.	タイトル	実施主体	方法・内容
	『なごみグループ』って?こんなグループでーす	又エックボランティア“なごみグループ” 埼玉	発表・展示・交流
	「寝たきり老人にならないために」 - 今、私達のできることに	香和会 埼玉	実技体験・展示
	和紙絵作品展	小川町和紙絵サークル 埼玉	展示・実技体験
	絵てがみを楽しもう	ら・ふーみ 埼玉	展示・実技体験
	七宝焼でアクセサリ作りましょう!!	七宝きらら 埼玉	展示・実技体験
	清坐一味友	清重会 埼玉	実技体験
	茶会	(社)茶道裏千家淡交会東京第二東西支部青年部 東京	実技体験
	野の花と語ろう	清心会 埼玉	実技体験

3. 今後の課題と展望

- (1) 学習・活動内容が多様な参加者の交流を図りながら男女共同参画社会の形成に関する学習を深めるためには、参加者が共に関心を持つ男女共同参画社会に関する話題が含まれた講演会等のプログラムを検討する必要がある。
- (2) 2000年6月には国連「女性2000年会議」が開催されることから、12年度においては、男女共同参画社会の形成に関する最新情報を、マルチメディア等の使用により、わかりやすく提供するプログラムの取り入れが必要である。

(3) フェスティバルの企画・運営に当たっては、実行委員会を組織して行ったが、その活動ぶりは参加者から評価されたところである。今後は、実行委員会の役割を再検討し、共催者として位置づけてフェスティバルの実施に当たることについても検討する必要がある。

(4) フェスティバルの実施に当たっては、多様な参加者層(男女・年代)の拡充を図るため、「フォーラム家庭教育」をプログラムの一部とする等の工夫を検討する必要がある。

(国立婦人教育会館事業課専門職員 土岐 都子)

女性関連施設等 情報ネットワーク研究協議会

昨年12月16日から17日に、男女共同参画社会における女性関連施設等の情報活用方法・情報機能の連携のあり方等について研究協議を行うとともに、情報ネットワークの形成・推進を図るために、女性関連施設等ネットワーク研究協議会が開催されました。

参加者は女性情報についてインターネットで情報発信を行っている女性関連施設等の情報担当者30名。常日頃疑問に思っていること、やりたいと思っていることを十分に話し合った協議会でした。

まず、十文字学園女子大学の安達先生から「生涯学習施設等における情報ネットワークと共通化」と題し、生涯学習に関する最近の動向、高等教育機関でのマルチメディア活用、そして生涯学習ネットワークの提供者としてどのようなコンテンツを作成するか、その際に利用者、学習者のニーズをどう捉え、掘り起こしていくかについて講義を受けました。

次に、〈研究協議I〉では、横浜女性フォーラム・フォーラムよこはま、兵庫県立女性センター、名古屋市女性会館、徳島県男女共同参画プラザ、NVECの5施設から実際に受けたレファレンスの事例を報告、女性情報の特性、提供のあり方、資料収集の工夫を協議しました。

レファレンスの際、質問者の意図を正確に汲み取るための工夫、当該施設だけではなく、他施設の情報を日頃把握しておくこと、施設同士のネットワークの重要性も確認されました。そしてそのネットワークの中で自分たちの施設の特色、独自性をどう打ち出していくか、そこが今後の検討課題の1つとされるでしょう。

また、提供する情報の中立性をどう確保するか、その際、明らかに女性施設の趣旨と反する情報の

取り扱いについてどうするかについても問題提起がなされました。

そのほか、レファレンスをきっかけに「展示」（情報事業）、相談事業、研修事業へと発展していった事例も紹介されました。

各施設の共通の問題として、収集資料の分類と著作権の問題があります。

いわゆる図書の十進分類法は女性情報を収集している施設にとって十分なものではありません。そこで、独自分類を採用している施設もあります。ただ、今後、各施設共通に検索することを考えた場合、その独自性をどこまで保てるのか、他施設との共通性をどう作っていくのか、中々難しい問題です。そこで、1つ発想の転換として、女性情報が市民権を得てきたことを背景に、図書の十進分類法そのものの見直しを要求していく方策もある旨の意見が出されました。今後の課題となるでしょう。

もう1つ話題となったのが、著作権です。各施設で扱う資料が文字情報だけではなく、ビデオやインターネット上での電子情報など広がってきたこと、また、著作権法の改正など変化に対応できるような研修の機会がなかなかないこと、地方の1施設だけでは対応が難しく、各施設の連携が望まれています。

〈研究協議II〉では、各女性関連施設等が試みているネットワークの方法を報告、今後のネットワークのあり方について研究協議を行いました。

まず、大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）の尼川洋子氏から「女性に関する情報及び各種専門情報の収集・提供事業を担当する職員のための情報活動専門研修」についてのビデオによる報告がありました。この事業は、情報の収集・加工・提供の方法について実践的な研修を行うと

ともに、専門情報提供機関のネットワークの形成を促進することを目標にしたもので、女性情報だけではなく、他の専門的な情報を提供する機関との交流もはかり、それぞれのスキルアップにもつながる事業です。ここでは、他の生涯学習施設とのネットワークの必要性や女性施設におけるマネージメントの重要性について述べられました。

次に、東京ウィメンズプラザの青木玲子氏から「女性センター情報ネットワーク」と「Asian Women's Electronic Network Training Workshop」への参加報告がありました。

「女性センター情報ネットワーク」は、女性情報の発信者、女性施設の利用者、女性情報に関心のある人たちとのネットワークで、女性をエンパワーする情報について情報交換と学習をする会です。この会を通してネットワークのダイナミズムを失わずに継続していくためには、視点の固定化を避けること、つまり、ネットワークすることで個人が力を持ち、その個人の力がまたネットワークの新しい方向性を打出すようなものにしていくべきではないかという意見が述べられました。

「Asian Women's Electronic Network Training Workshop」とは、「AWORC (Asian Women's Resource Exchange)」がオルガナイザーとなり、韓国のAPWINC (Asian Pacific Women's Information Network Center)の協力で、アジア各国のNGOや女性センター情報担当者のオンラインアクセスのための技術向上を図ること、2000年のニューヨーク会議に向けて、北京行動綱領のフォローアップについてアジアネットワークを作ることなどを目的とし開催されたワークショップです。5日間の合宿研修では、女性情報のWeb検索、ホームページの作成など、女性情報の収集から発信までを学ぶ、実践的なものだったそうです。このようにネットワークを「動かす情報の力」をアジアの女性たちが得たことの重要性について述べられました。また、AWORC Webサイトが行っている多言語検索システムについても紹介、いろいろな機関、団体がデータを提供し、それらを共通に検索するためには女性情報シソーラスが必要であるという意見が述べられました。

最後に、東京工業大学附属図書館の尾城孝一氏から東工大の附属図書館で使われているZ39.50による分散データベースの共通検索の説明がありました。Z39.50とは、まだ、国内で導入しているところは数か所しかありませんが、共通インターフ

ェースから複数データベースの検索が可能なシステムです。クライアントとサーバの双方にZ39.50の実装が必要ですが、高度な検索要求に対応できる国際規格だそうです。

<研究協議III>では、会館が検討している更新型の女性関連施設データベースについての説明がありました。これは、共通のフォーマットを使用し、各施設が自分たちのデータ(概要や事業計画)をWeb上から更新していくもので、データ提供者にとっては、データベース作成の労力を分散、公開するまでの時間を短縮でき、利用者にとっては、居ながらにして全国の女性関連施設の情報を一望できる画期的なものです。

このほかにも、データベースやホームページを共通検索するシステムについて検討中である旨の報告がありました。

<研究協議IV>では、今までの発表や報告等のまとめの後、「女性情報」とは何か、といった根源的な話から、日々のレファレンス上の技術的なノウハウなど、幅広い話題について討議が交わされました。

同じくインターネット上で情報発信をしている施設とはいえ、その規模、職員の体制、情報を専門に担当している職員の有無、ホームページの作成を施設内で行っているのか、外注なのか、他の部局と共通で作成するのか、独自で作成しているのかなど様々です。また、ネット上での情報発信がまだの施設もあります。

ここでは、そういう施設も含めたネットワークの必要性や、今後のネットワークづくりのためのメーリングリストの作成、次年度のネットワーク研究協議会への提案など貴重なご意見をいただきました。

まだまだ、第1歩の研究協議会でしたが、会館もここでの成果を踏まえ、他施設とのネットワークと個々の施設の独自性を大事にしながら、今後の情報事業にどのように活かしていくのか、さらに、まだネット環境の整っていない施設との協力、働きかけをどう行っていくか、重大な宿題をいただいたようです。

(国立婦人教育会館情報交流課システム管理係主任
宮澤 紀美)

NWEC女性情報ニューシステム 「WinetCASS」(ウィネットキャス)

はじめに

インターネットで情報を探し出すとき、どこに必要な情報があるかわからないから何回も検索を繰り返したり、いざ検索結果をみると必要のない情報がたくさんあってうんざりしたり……。こんな経験はないでしょうか？

あるいは、最近増えてきた女性に関するホームページ、女性関連施設独自のホームページ等、これらの分散している情報を何とか一緒に検索できないかな？とお考えになったことはないでしょうか？

今回、NWECが新しく始めた検索システム<WinetCASS*(ウィネットキャス)>は、そういった悩みを解決し、女性情報を効率よく的確に検索するための新しい横断検索システムです。

この検索システムは、次の3つの機能から成り立っています。順に紹介いたします。

* URL : <http://www.nwec.go.jp>

* Women's Information Network Systemと Cross Access Search Systemの略

<女性情報ホームページCASS>

これは、国内外の女性情報を持っているホームページを横断的に検索するシステムです。会館があらかじめ選択した女性施設などのホームページにある文字情報を収集、会館内のサーバにインデックスを作成し、それを検索するシステムです。検索結果にリンクが張られていますので、利用者は、ホームページの該当する部分を直接参照することができます。一定の範囲から検索することが可能なため女性情報とはかけ離れている事柄がヒットしてくることはありませんし、検索先がすでにセグメントされていますので、検索結果への信頼度も高くなります。

現在は、約80のホームページを女性関連施設、女性学関連研究所、国および関連機関、生涯学習センター、国連関係の5つに分けグルーピングしてあります。それぞれ1つ1つのグループだけでの検索も可能ですし、また、いくつかのグループを組み合わせての検索も可能です。このようにホームページをカテゴリー別に分けたことによりさらに、必要な情報だけを検索することが可能になるのです。

<女性情報ホームページCASS> 検索画面と検索結果画面

今後も国内、海外の女性関連NGOのホームページを順次追加、100件程度のホームページから検索が可能になる予定です。

< 女性情報CASS >

次に紹介する<女性情報CASS>は、女性関連のデータベースを検索する、最も包括的な横断検索システムで、女性情報の入り口を提供するものです。

会館作成の文献・調査データベース群、他の機関がWeb上で公開しているデータベース群(「学術情報センターWebcat」「女性と仕事の未来館ライブラリー」「横浜女性フォーラム・フォーラムよこはま情報ライブラリ」「大阪ドーンセンターライブラリー図書資料」の4件)そしてさきほど紹介した女性情報ホームページの3つのグループを合わせて10件ものデータベースを一挙に検索出来ます。

通常、検索条件やその入力方法などはデータベースによって様々です。検索結果の表示も然り。そこでこの女性情報CASSは、検索条件を相手先のデータベースに合うような検索式に変更、それを投げかけ検索自体は相手先データベースが行うというシステムになっています。検索条件の入力を女性情報CASSから1回行えばそれだけで済むという仕組みです。

そのため、検索結果は各データベース毎の結果になります。一覧表を別途作成することは出来ませんが、各データベース毎に画面が立ち上がりまますので、相互に比較することが簡単に出来ます。これで、欲しい情報を求めてネット上をウロウロ探しまわることはなくなります。

< 女性情報CASS > 検索画面

< Winet - DB >

こちらは、会館が独自に作成しているデータベース群で、会館所蔵の文献資料のデータベース、女性に関する統計データベース、女性関連施設の概要・実施事業のデータベース、高等教育機関における女性学関連科目のデータベースがあります。

これらのデータベースは、現在更新中です。統計データベースは順次新しいデータへと"お待ちかね"の更新中ですし、女性関連科目のデータベースは、現在調査中で、調査途中から順次データを公開していく予定です。施設関連データベースは現在公開している概要部分と実施事業部分のデータを関連付け1つのデータベースとする作業を行っています。

これら更新中のデータベースのうち、統計データベース、女性関連施設のデータベース、女性学関連科目のデータベースの3つは、会館が行っている調査の結果をデータベース化してきたものですが、これらは調査終了後にデータベース化するため、どうしても公開時にはデータが古くなってしまおうという欠点がありました。そこで、このうちの女性関連施設と女性学関連科目のデータベースについては、リアルタイムでデータ更新ができるシステムを構築中です。

例えばある女性センターが、女性関連施設データベースに登録してある事項を変更したい時に、今までですと次回の調査を待たなければなりませんでしたが、しかしこの更新機能ができると、自施設のデータは自分たちで更新することが出来るようになります。Web上の更新画面で訂正し、送信ボタンをクリックするだけで、会館担当者へ自動的にメールで送信され、ただちにデータベースに反映させることができるのです。

この更新機能を活かして、各施設の実施予定事業をデータ化していけば、どこの施設でどのような事業をこれからやるのか、新鮮な情報が1回の検索で居ながらにして分かるようになるわけです。

終わりに

以上のように、まだ更新中の部分もありますが、このWinetCASSから、有益な多くの女性情報が検索できます。何か疑問に思ったら、何か始めたいと思ったら、何か困ったことがあったら、このWinetCASSを入りに検索してみてください。きっと解決の糸口が見つかるはずです。

みなさまのご利用をお待ちしております。

(国立婦人教育会館情報交流課システム管理係主任 宮澤 紀美)

隠された女性たちの素顔

—サウディ・アラビア見聞録—

中野洋恵

1. サウディ・アラビアへの第一歩

1999年10月24日、私はクーラーのききすぎたクアラルンプールの空港待合室で毛布にくるまって寒さに震えていた。「サウディ・アラビア専門家要請背景調査団（女性人的資源開発分野）」の一員としてリヤドに行く機会を得た私は、クアラルンプール発リヤド行きの飛行機を待っていたのだ。搭乗予定のサウジエア815便は大幅に遅れ、係りの人に出発時間を聞いてもまったくちががかない。待合室には遅れを気にした乗客が次第に集まってきた。

中でも目をひいたのが、頭から足の先まで黒い衣装に身を包んだサウディ・アラビアの女性の姿だ。話には聞いていたし、これまでも国立婦人教育会館のODAの研修でイスラム圏からの女性を見ていたので特段気にかけてはいなかったが、これはショックだった。聞くと見るでは大違い、「アバヤ」と呼ばれる黒い衣装と黒のヴェールで頭も口も鼻も覆っていて、黒目がちの大きな目が見えるばかり。近づき難く、これから先の調査とセミナーがどうなるのだろうかという不安で震えがいっそう増してきた（結果的にこの感覚はまったく杞憂に過ぎなかったのだが）。

その後、飛行機は5時間遅れで出発。飛び立つとすぐにわけのわからない煎じ薬のような飲み物が配られた（これがサウジコーヒーだった）。機内では映画が始まったが出てくる女性の首から下すべてにモザイクがかかっている顔しかわからない、これは大変なところに来てしまったというカルチャーショックで私のサウディ・アラビアの日々が始まった。ここでは私が生まれて初めて足を踏み入れたイスラム国サウ

ディ・アラビアで見たこと聞いたことをもとにその印象を綴ってみたい。

2. サウディ・アラビア社会

(1) 女性と男性を分ける社会的慣行

サウディ・アラビアに行ったことのある人が口をそろえて言うのは、「サウディ・アラビアは男性と女性の生活空間を徹底的に隔離している国」ということだ。イスラムの教えでは「男女両性の本質にふさわしい分担を定め両性の本質に適したそれぞれの活動範囲を定めている。（中略）女性は正式には顔と手以外を覆うべきである。一方男性は目を下にして女性を凝視しないように努める。たとえば偶然に視線が女性にふれた場合は急いで目をそらさなければならない」ので、男性と女性が一緒にいる場所は家庭以外にあり得ない。サウディ・アラビアに行ったことのある日本人男性でもこの国の女性と話をしたことがある人はいないようだ。

今回訪問した学校も当然すべて男女別学だ。就学前の幼稚園までは男女共学だが、小学校、中学校、高校、大学に至るまで別学である。建物はすべて周りを高い塀に囲まれているので、中がどうなっているのかはわからない。学校の門を一步入ると、生徒も先生も受付の人も事務の人もお茶を入れてくれる人もすべて女性だった。女性が運転してはいけないため、父親が運転手が学校へ子どもを送ってくるのだが、父親とて学校には一步も入れない。

大学がどうなっているのか不思議に思ったので聞いてみると、サウジ大学にも女子学生がいるがキャンパスはまったく別とのこと。女子学生は女性教授の講義は直接受けられるが、男性

教授の講義は同時放映のテレビで受けるという。質問があれば学内のホットラインで話ができるシステムになっているということだ。その他、美術館も女性の日と男性の日に分けられている、病院の待合室も別々、バスは後ろ三分之一が女性で、前が男性、乗り降りの場所も違う、レストランもふつうの席は男性のみ、女性は家族用の席にしかいけないなど男女の空間の分離は徹底している。

(2) 衣・女性の服装

ここで私が最初にショックを受けた「アバヤ」について説明しておこう。イスラムのきまりでは「男は身体の膝から臍までの部分を見せず、女はどんなに近親な人であっても、夫以外のいかなる男にも顔と手を除く身体のいかなる部分をも見せてはならないと定められている。このことはイスラム用語でサットル（覆うこと）と呼ばれ、それらの身体の部分の覆っていることはあらゆる男と女の宗教上の義務である」と説かれている。

イスラム圏では、地域により色や形は異なるが、女性はヴェールをかぶっている。サウディ・アラビアでは黒のヴェールと「アバヤ」と呼ばれる黒の長いマントで全身を覆っている。移動はほとんど車ですするため、女性がひとりで街中を歩いている姿はあまり見かけない。外に出るときは必ずアバヤに身を包んでいる。家庭か女性だけの場所以外にヴェールを取るところはまったくないようだ。レストランで食事をするときも、ヴェールをしたままだった。食べにくいのではないかと心配してしまうが、それは慣れたもの。ヴェールの下へ器用にフォークを運んでいた。

ショッピングセンターには「アバヤ」の専門店がたくさんあり、入ってみるといろいろなアバヤが並んでいる。遠くから見るとみな同じように見える「アバヤ」も、目が慣れてくると細かい違いがわかるようになってくる。素材もシルクを使った高級品からポリエステルのお手ごろ価格のものまでさまざま。3千円くらいから、はては何万もするものまで幅広く揃っている。袖口がなかなかこっていて、細かいレースが施

してあったり、黒系で刺繍がしてあったり、黒いビーズがたくさんついていたりと細かいところにこだわりがみられる。

男性は「トウブ」という白いくるぶしまであるワンピース、頭には「ゴトウ」という白、または赤い系の縫い取りのあるスカーフをかけ、「イガール」という輪で押さえている。この国では女性のイメージカラーは黒で、男性は白だ。性によって色が固定されるという共通点があるものの、女の子はピンクで男の子はブルー、ランドセルは女の子が赤で男の子が黒という色イメージは万国共通のものではないことを改めて認識した。赤と黒の日本のトイレの表示では、サウディ・アラビアの女性が日本にきたら、男性用のトイレに入ってしまうのではないだろうか。ちなみにホテルや空港のトイレ表示は女性がヴェール、男性がスカーフを身につけた顔をイラストにしたものだった。しかし、これもイスラム以外の文化の人にはわからないかもしれない。

(3) 女性の素顔

さて「アバヤ」の下の女性たちの姿はどうなっているのだろう。素顔のサウジの女性に会った瞬間、クアラルンプールで感じた取っつきにくい冷たい印象はすぐに払拭された。門を入ればアバヤとヴェールをはずし、おしゃれな人ばかり。ロングスカートにブラウスカセーターが主流だが、カッコいいパンツスーツの女性もいる。色もカラフルで首や手首には見事な金のネックレスやブレスレットが揺れている（リヤドの中心部にある「ゴールドスーク」と呼ばれる



アバヤを着たサウディ・アラビア
専門家要請背景調査団のメンバー

金市場には金製品専門店が集中している)。笑顔の暖かさも心にしみた。滞在日数も限られていたので、すべての階層の女性に会ったわけではないが、少なくとも私が会った人たちは優秀で熱心、英語も堪能な魅力的な人たちで、彼女たちと話げできたことは何にもまして大きな収穫だった。「アバヤ」姿の外見からは想像もできないほど表情豊かで、どの学校に行っても握手からはじまり最後は「今日は話げできて良かった、嬉しかった」とまた握手。カレッジに行ったときには、カフェテリアにいた女子大生たちが人なつこく話しかけてきた。今回の滞在中すっかりお世話になったセミナーの苦楽を共にした女子教育庁のスタッフの女性たちとはすっかり仲良くなって、最後は抱き合って別れた。

今回のサウジ訪問の最大のイベントである日本側のメンバーによるセミナーの開催もなかなか大変だった。このようなセミナーが初めてだというサウジ側のスタッフと日本側のメンバーとで、前日に細かな打ち合わせをした。だが、進め方については喧喧諤諤、英語とアラビア語の通訳はどうか、時間配分はどうか、質問はどのような形で受けつけるか、司会進行、挨拶、コーランは誰がするか、お茶やスナックの手配はどうかなどみんなそれぞれ口々に意見を言う。会議室は元気さとパワーにあふれていた。あまりに多くの人が一時に話すので何がなんだかわからなくなって收拾がつかなくなり、司会者が何度となく「プリーズリッスン、プリーズ(聞いてください、お願い)」を連呼していた。

このような状況で、しかも英語やアラビア語の混じった会議だったので行き違いがないように、すべてを決めるのに時間はかかった。しかし、あふれる熱気は心地よく、私はとても楽しかった。セミナーは必ずしもスムーズに行っただと言えない部分もあったけれど、やったという達成感を感じることができたと思う。セミナーには100キロも離れた町から駆けつけた参加者もいた。日本の教育制度、教育方法、特殊教育、女性の進路や仕事などについての報告には、基本的な言葉の確認も含め、たくさんの質問が出て白熱した論議が展開した。おとなしくて何を

考えているのかわからないというのは的はずれもいいところ、自分の意見をはっきり言い、しかも思いやりや親切心にあふれている。アバヤの外見と素顔のギャップにとまどいを覚えるほどである。

(4) サウジコーヒー

イスラム社会というと豚肉は食べないなど食事にまつわる話はいろいろあるが、最も印象的だったサウジコーヒーを紹介しよう。サウディ・アラビアの生活を考えるとき忘れてならないのがサウジコーヒーである。サウジアアに乗ったとき、最初に出てきた「おちょこ」に入った薬のような飲み物がサウジコーヒーで、どこへ行っても真っ先に出てくる。ディスカッションや打ち合わせが始まるとまずサウジコーヒー。

サウジコーヒーは日本で飲むコーヒーとは味もにおいも色もまったく別で、生のコーヒー豆を軽く煎って挽いたものをカルダモンというスパイスと一緒に煮立てたものだ。薄い透明な緑色をしていて砂糖やミルクは入れないで飲む。カップを振るのがもういらぬという合図で、それまではなくなるとすぐに注いでくれる。このときに一緒に出されるのがナツメヤシの実を甘く煮たデザートだ。苦みのあるサウジコーヒーとの取り合わせは絶妙だ。サウジコーヒーが終わると次は「シャイ」という透明なガラスのデミタスカップに入った甘い紅茶。クッキーのような甘いお菓子やチーズ入りのパン、ほうれん草入りのパン、ブドウの葉で米と野菜を包んだもの、春巻きなどどれも一口サイズのスナックが大きなお盆に山のように積まれてサービスされる。

最初、これはなんだと思ったサウジコーヒーだったが、滞在しているうちに朝の一杯がなければ一日の仕事が始まらないような気分になってくるから不思議なものだ。すっきりした飲み口は目覚めには最高だ。余談になるが「おちょこ」のようだと思ったカップは、家庭用品のお店で見るとメイドインジャパンのものがたくさんあってびっくりした。店員に聞くと日本製は良質だと誉められてしまった。そういえば帰りの飛行機でカップをひっくり返してみたら日本の有名な陶器メーカーのものだった。

(5) 結婚

男女が小学校から別々の空間で生きているのだから、自分で結婚相手を見つけるとするのは不可能で、恋愛結婚などあり得ない。話を聞くと母親同士のネットワークで話が進み、お互いの家同士でまとめてしまうことが多いという。結婚式の日初めて夫や妻の顔を見るところもあるらしい。イスラム教では親戚同士の結びつきを大切にしているので、家族を結びつける結婚は重要な出来事だ。近親結婚は禁止されているが(結婚が禁じられている間柄は母と息子、父と娘、継母と継息子、継父と継娘、きょうだい、異母きょうだい、叔父と姪、叔母と甥、義理の母と義理の息子、義理の父と義理の娘)、血縁関係の結婚は薦められている。お互いに習慣や伝統を知り合っている両家の結婚は幸福だというのだ。

自由に結婚相手を選べないのはひどい話だと決めつけるのは早計だろう。結婚前も結婚後も他の男性や女性と知り合うことがまったくないので、既婚者に聞くと自分の夫や妻が最高だと答える人が多いという話も聞いた。サウディ・アラビアの男性は仕事が終わるとすぐ家へ帰る。イスラムの教えにしたがって完全な禁酒国だから居酒屋もなければパブもない。夜のネオン街とは無縁な世界である。仕事が終われば同僚や上司と飲みに行くこともなく、早く家に帰りイスラムの教えにしたがいお祈りをしたり、家族との団らんの時間を大事にする男性が多いのだそう。女性が車の運転をできないのは確かに不便だが、夫が妻や子どもの送り迎えを一手に引き受けているという。こういった話を聞くと、何がいいのか一概には言えないような気がした。私たちが宿泊していたホテルに家族用のレストランがあって、休日になるとバイキングをやっていたが、黒い「アバヤ」とヴェールに身を包んだ女性と白い「トウブ」の男性のカップルが何組も来て、楽しそうに話しながら食事をしている姿は実にほほえましい光景だった。

3. 女性のための教育機会

(1) サウディ・アラビアの教育制度

話題を教育に移そう。ここではサウディ・ア

ラビアの教育制度と女性の職業教育のためのカリキュラムを紹介したい。サウディ・アラビアの教育は日本と同じように6・3・3・4制をとっている(図1参照)。教育の所管は複雑で、教育省が一般教育(小中高校)、教員養成(教員養成短大)、特殊教育、成人教育及び非識字対策を、高等教育省が大学における教育を、労働・社会問題省の下にある技術教育・職業訓練公社が産業、農業、商業に関する評議会の政策に基づき人的資源の開発にそれぞれあたっている。

しかし、これは男性を対象としたもので、女性に関する教育については1960年に設立されたイスラム宗教指導省のもとにある女子教育庁が管轄している。所管事項は幼稚園、一般教育(小中高校)、教員養成(教員養成短大)、大学教育、特殊教育、成人教育、非識字対策、職業教育・訓練のすべての分野にわたる。女性のための教育を重視した政府は1960年女子教育のための国家プログラムを導入し、教育を受ける女性の数は年毎に著しい増加傾向を見せている(図2参照)。その結果、就学率は初等教育77%(男子79%、女子75%)、中等教育52%(男子57%、女子47%)、高等教育14%(男子15%、女子13%)となっている(いずれも1994年分で、当該年齢以外の在学者を含む。“UNESCO Statistical Yearbook 1996”より)。

(2) 女性の教育のためのカリキュラム

日本と同様に6・3・3・4制をとっているが、カリキュラムは異なっている。コーラン、コーラン解釈、教義、法学、ハディース(ムスリムとしての伝統及び文化)という宗教科目がカリキュラムに大きな位置を占めているが、音楽の授業はない。音楽といえばセミナーのときこんなことがあった。私のプレゼンテーションに国立婦人教育会館のビデオを使おうとしたときのことだ。始まる直前に試写したところ、音楽が入っているから使用しないでほしいというのだ。ボリュームをおとせばナレーションも聞こえなくなる、音楽だけ消してナレーションだけを残すことなど不可能だ。事情を説明して何とか使うことができたが、文化の違いを感じた出来事だった。

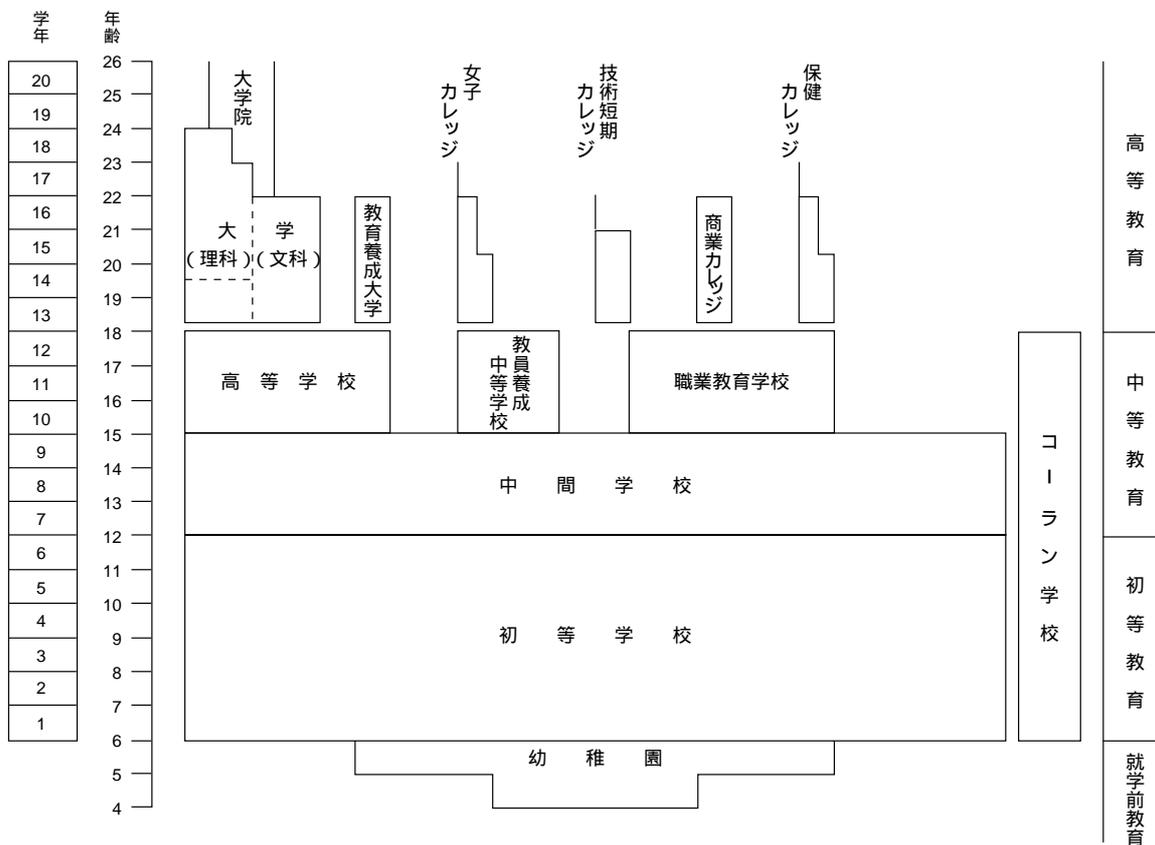
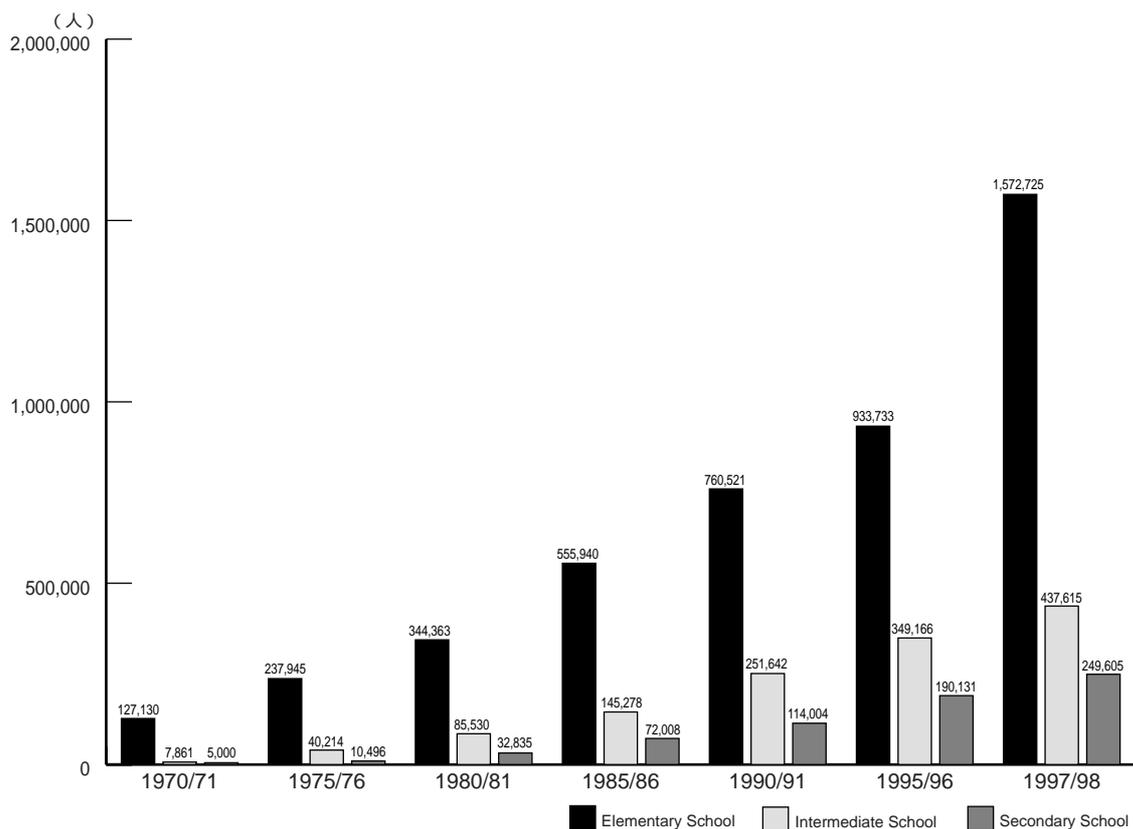


図1 サウディ・アラビアの教育



"Girls' Education in Saudi Arabia" 1998をもとに筆者が作成

図2 生徒数(女子)の推移

女子教育のカリキュラムに体育の授業がないのも特徴である。授業時間数は男女とも同じだが、男子の体育の授業時間は小中学校では芸術に、高等学校では裁縫及び家政の時間に充てられている。

女子の職業教育も日本と大きく違っていた。リヤドにある職業高校に行ったので、そのカリキュラムを紹介しよう。(下表参照) 女性のための職業教育といえば家政科で、2年次から被服コースと食物コースに分かれており、実用的な科目で、しかも実習が多い。卒業後の進路について質問したところ、カレッジへ行って教員になる生徒もいるが、しっかりと技術を身につけて自分の店を持つ生徒もいるという話だ。このような女性が自分で仕事をできるように、世界でも珍しい女性専用の銀行がある。もちろんここも例外にもれず、客も銀行員も女性だけだ。ファッション関係の仕事をしている女性の実業家もけっこういるらしい。知り合ったある女性もその一人、オーダーメイドの婦人服ブティックを運営していてとてもイキイキとしていた。高い教育を受けた女性たちがこれからどのように活躍していくのか楽しみである。

わずか10日間の滞在だったため、はたしてどれほどのことがわかったのか、はなはだ心許ない。もし誤解があればお許しいただきたいと思う。しかし、サウディ・アラビアというこれまで知らなかった社会にふれ、サウジ人との関わりをもつことで私自身、大きく啓発された。これまで当たり前だと思っていたものを問い直すきっかけになったことは間違いない。まだわからないことがいっぱい。「気づき」が学習を進めていく最初のプロセスだとしたら、私の学習は始まったばかり、これから理解を深めていきたいと思う。サウディ・アラビアに行った日本の女性はまだ数えるほどで、日本から女性のミッションがサウディ・アラビアに行ってセミナーを実施したというのは初めてのこと。その意味で画期的なことだといえよう。これを機にサウディ・アラビアの女性たちとの交流が進めば素晴らしいことだ。異文化理解というのは決して一筋縄ではいかない。でも、確かな一歩を踏み出したと実感している。

(国立婦人教育会館 主任研究官)

中等職業教育学校のカリキュラム

(時間/週)

1年			2年			3年(被服コース)			3年(食物コース)		
科目	講義	実技	科目	講義	実技	科目	講義	実技	科目	講義	実技
Quran&Recitation	1		Quran&Recitation	1		Quran&Recitation	1		Quran&Recitation	1	
Islamic Theology	1		Islamic Theology	1		Islamic Theology	1		Islamic Theology	1	
Hadith	1		Hadith	1		Hadith	1		Hadith	1	
Jurisprudence	1		Jurisprudence	1		Jurisprudence	1		Jurisprudence	1	
Grammar	2		Grammar	2		Grammar	2		Grammar	2	
Chemistry	2		Chemistry	2		English	3		English	3	
Mathematics	2		Mathematics	2		Vocational Psychology	1		Vocational Psychology	1	
English	2		English	2		Clothing Manufacturing		6	Biology	2	
Domestic Safety	1		Family Education	2	-	Clothes History	1		Food	3	3
Food	1	3	Food	1	3	Occasion Clothes		4	Delicious Food		3
Cut out & Tailoring Technology	1	3	Cutting out patterns	1	1	Coats		3	House Arrangement	1	2
Child Clothes	1	3	Horning Clothes	1	3	Clothes Accessories		2	Kitchen Arrangement	2	
Manual Embroidering & Texture		3	Clothes Manufacturing		4	Fashion Design		2	Food Industries		6
Food Education	2										
Household Management	1	1	Food Industries		4	Tailoring workshop Management	2				
Consuming Saving	1	1	Textiles	1	2	Textiles	1	1			
計	20	13	計	16	18	計	12	17	計	17	14
総計	33		総計	34		総計	29		総計	31	

女性・家族関係雑誌記事インデックス

当会館婦人教育情報センター所蔵の和雑誌のうち、1999年後半にデータベース化された記事・論文の中から、女性の学習・研究に役立つものを雑誌名の五十音順に掲載しています。

WINET (情報検索サービス) では全データが検索できますので、併せて御利用下さい。

凡例

雑誌名 [巻号] (発行年月日)

特集タイトル

No. 記事タイトル / 執筆者名 (ページ)

あごら [249] (1999.04)

1. 第五十三回国連総会と第三委員会の状況：世界人権宣言五十周年を迎えた第五十三回国連総会の特徴と課題 / 貝谷俊男 (p.85-90)
2. 第五十三回国連総会と第三委員会の状況：女性と人権：第三委員会(社会・人権・文化)の審議から / 西立野園子 (p.90-103)
3. 2000年世界女性会議はどのような：国連女性の地位委員会を傍聴して(2) / 小川椒子 (p.104-109)

あごら [250] (1999.06)

4. あごら25周年記念集会から：あごらとエロス：戦後フェミニズム雑誌の流れをみる / 船本恵美, 斎藤千代, 福田光子 (p.2-68)
5. 気になる英語：Transvestite(トランス・ベスタイト) / 奥川睦 (p.97-98)
6. 2000年世界女性会議はどのような：国連女性の地位委員会を傍聴して(3) / 小川椒子 (p.98-105)
7. 女性に対する暴力：クマラスワミ報告書の紹介(第九回) / 前田朗 (p.106-115)

あごら [251] (1999.07)

特集：使おう! 情報公開

8. 目からウロコ! 情報公開制度：憲法の活性化もあなた次第 / 新見みつ子 (p.4-24)
9. 使えばもっと知りたくなる：実践編 1福祉の分野 2教育の分野 (p.25-53)
10. 使って、わかって、さらなる追求、住民訴訟まで：活用編 (p.53-86)

あごら [252] (1999.08)

特集：自分を生きる平和をつくるかごしまの女

11. <県内の女性議員を100人にする会>の男女共同政治参画セミナーで想うこと：二千キロ応援の旅を終えて / 小川みさ子 (p.2-7)
12. 韓国・「ナムの家」への旅：おもいっきりソウル三日間 / 疋田京子 (p.30-43)

あごら [253] (1999.09)

特集：闇を照らす閃光：長谷川テルと娘・暁子

13. [年表]長谷川テル・暁子の足跡 (p.24-25)

14. 長谷川暁子さんの講演：私なりの平和への歩み：二つの祖国を持つ苦悩と喜び (p.80-93)

15. 長谷川暁子さんの文章から：知られざる「長谷川テル」 (p.94-99)

あごら [254] (1999.10)

特集：出したい女を議会に出した富山の女たち

16. 座談会：出したい女性を議員に出して：女性と政治とやま編 / 尾崎憲子「ほか」(p.2-23)
17. グループ紹介1：富山県婦翔会 / 福山すみ江 (p.56-57)
18. グループ紹介2：女性センターを考える会 / 登石知子 (p.58-59)
19. 女性に対する暴力：国連人権小委員会第51会期(上) / 前田朗 (p.76-89)

アジア女性研究 [8] (1999.03)

特集：ジェンダーの視点の主流化をめざして

20. 基調講演：アジアの経済危機と女性 / 堀内光子 (p.2-7)
21. 分科会1「地域開発への女性の開発」 / サイド・アズラ・バルヴィーン, 池田恵子, 李秀英 (p.8-13)
22. 分科会2「女性と教育」 / マーク・ナナシガモニー, タン・レン・レン, ホーン川嶋瑠子 (p.13-18)
23. 分科会3「女性の人権/女性に対する暴力」 / インディラ・コイララ, カンティ・ウイジェトウンガ (p.19-22)
24. 分科会4「意思決定における女性」 / パーマ・ラドゥナ, マリー・アン・フェルナンデス (p.22-26)
25. 分科会5「経済活動と女性」：大連の女性たちと経済活動 / 葛翠華 (p.26-27)
26. 西アジア諸国の女性の栄養について / 青山温子, 門脇崇 (p.38-46)
27. 北部インド・ウッタルプラデシュ州における酪農協同組合：シタプール県における女性酪農協同組合の活動を中心に / 齊川純子, 千年よしみ (p.47-55)
28. ジェンダーの主流化とWID/GADへの男性参入：その可能性と限界 / 梶房大峰 (p.56-62)
29. タンザニアにおける女子の就学状況と教育収益率 / 河野佐恵子 (p.63-70)

< アジア女性学の動向 >

30. スリランカにおける女性学の動向 / Indrani Sugathadasa; 古賀志保, 力武由美訳 (p.71-75)

< 調査・研究事業報告 >

31. 英領マラヤにおける女性と政治：ナショナリズムとジェンダー / 田村慶子 (p.76-87)
 32. 中国における社会福祉政策について / 李秀英 (p.88-95)
 33. シンガポールにおける『中間階層』の研究によせて / 和田幸子 (p.96-111)
 34. 女性起業支援プログラムの開発のために / 織田由紀子 (p.112-126)
 35. 第3回 東アジア女性フォーラムに参加して / 三隅佳子, 織田由紀子 (p.127-128)
 36. 東アジア女性フォーラム：その後：モンゴルの女性力 / 香川穂子 (p.129-130)

< アジア女性事情 >

37. 経済危機をジェンダーから考える：ジェンダー・パイアスを問う / 村松安子 (p.131-134)
 38. 女性に対する暴力を国の重要な政策課題にする：インドネシアの動き / Saparinah Sadli (p.135-138)
 39. 家庭内暴力法：マレーシアの女性と挑戦 / Lai Suat Yan; 安武里美, 力武由美訳 (p.139-141)
 40. 北京女性会議以降の韓国における女性政策：女性発展基本法の制定と女性政策基本計画 / Sun-Hye Kang; 安武里美, 力武由美訳 (p.142-144)
 41. 改革開放政策は中国内モンゴルの女性たちに何をもたらしたか：内モンゴルの教育と雇用に見られる変化 / 馬瑞萍 (p.145-148)

大原社会問題研究所雑誌 [485] (1999.04)

特集：福祉国家とジェンダー

42. 福祉国家のジェンダー化：1980年代以降の研究動向（欧米を中心として） / 深澤和子 (p.1-15)
 43. フィンランドの福祉国家と女性労働：その到達点と課題 / 高橋睦子 (p.16-31)

女たちの21世紀 [19] (1999.07)

特集：女性は政治を変えられるか

44. 地方選を振り返って：4月の統一地方選で何が変わったのか / 大賀美弥子 (p.7-8)
 45. ローカル・パーティで市民が政治構造を変える：又木京子さんに聞く神奈川ネットの戦略 (p.9-13)
 46. 国立市新市長上原公子さんに聞く：市民自治のまちづくりを国立から (p.14-18)
 47. 初の市民派女性区長実現を目指したが：文京区の市民たちが行った区長選挙 / 永井よし子 (p.19-21)
 48. せた選挙はおもしろい：茅ヶ崎市長選は変化の号砲 / 瀬田恵子 (p.22-24)
 49. 女性市長3期目を迎えた芦屋市 / 片山恵美子 (p.25-26)
 50. 統計で見る女性議員の現在と推移 (p.30-33)
 51. 市民が政治を変える：議会のそとから：虹と緑の500人リストのメンバーとして / 猪俣美恵 (p.41-43)
 52. 市民運動と政治運動：沖縄、名護市の女性組織を通して / 竹下美穂 (p.44-46)

53. 男女賃金差別をなくすために：政治の報告書に異議申立て / 正路怜子 (p.47-49)
 54. 女性の政治進出をサポートする：女性の連帯で政治を変えよう、社会を変えよう / 中西珠子 (p.50-52)
 55. 女性の政治進出をサポートする：女性の大量立候補・大量当選の背景には政治スクールがあった / 室田康子 (p.53-55)
 56. 女性の政治進出をサポートする：女性議員率30%をめざして：全国フェミニスト議員連盟の活動から / 中嶋里美 (p.56-58)
 57. 男性とフェミニズムを語る(13) 女性登用政策の先がけ：女性蔑視が根底にある状況を変えないと日本は変わらない / 大田昌秀, 松井やより (p.74-80)

女たちの21世紀 [20] (1999.10)

特集：女性と情報：インターネット時代へ

58. インターネットを女性の手には：電子情報社会の光と影を見きわめる / 松井やより (p.4-7)
 59. 新しい情報通信技術を活用してなにが変わるのか：女性の視点で使う情報通信技術(ICT)がシステムを変える / 松本幸花 (p.8-13)

< インターネットを女性運動に活かす取り組み：オンライン・フェミニズムの活動拠点づくり >

60. fem-net 日本初女性運動のための電子ネットワーク / 友政真知子 (p.14-15)
 61. VAWW-NET Japan：「戦争と女性への暴力」日本ネットワーク / 関典子 (p.18-19)
 62. 女性たちがインターネットで始めていること：クリスタルの会が開けてみた286のホームページから / 松浦さと子 (p.20)
 63. アジア女性のオンライン・ネットワーク：AWORC (アジア女性情報交流) / 松本幸花, 友政真知子 (p.21-23)
 64. アジア女性ネットワーク・ダイレクター / 友政真知子 (p.24-25)

< インターネットを女性運動に活かす取り組み：オンライン活動をホストするインフラをつくる >

65. JCA-NETの設立とその意義：原点としてのAPC体験 / 印鑰智哉 (p.26-27)

< インターネットを女性運動に活かす取り組み：活動のオンライン展開 >

66. シングルマザーの活動と情報：しんぐるまざーず・ふぉーらむ / 赤石千衣子 (p.28)
 67. キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク / 渡辺和子 (p.29)
 68. 移住労働者と連帯する全国ネットワークのメーリングリスト：migrant-J(マイグラントJ) / 小笠原公子 (p.30-31)

< 映像メディアの担い手を育てる試み >

69. 関西の映像作り養成の試み：ビデオ工房AKAME / 下之坊修子 (p.38-39)
 70. アジアにネットワークをもつジャーナリスト集団：ア

ジアップレス/慶淑顕 (p.40-41)

71. 女性の市民スタッフがつくるテレビ：ケーブルステーション北九州/池田真由美 (p.41-43)
72. 女性たちの自主製作映画の取り組み/高野史枝 (p.44-45)

< 伝統的通信メディアを活用する >

73. 私たちの声に耳を傾けてください：なぜラジオなのか/マヴィック・キャブレラ・パレッツァ (p.46-49)
74. DV防止にラジオを活用/アイビー・ジョシア (p.50-52)

< どのようにして情報にアクセスするか >

75. 女性情報URL一覧 (p.64)

< 広がる情報格差 >

76. ICT-情報通信技術にジェンダーの視点を/Victoria Tauli Corpuz (p.65-70)

< 日本の現状と情報化社会の危険な動き >

77. SOHOの落とし穴：発想の転換により状況は好転する/吉田智子 (p.73-75)
78. 国際電機通信連合(ITU)のジェンダー革命 (p.86-87)
79. 特別インタビュー：インターネット時代をどう見るか：福富忠和氏に聞く/松井やより (p.92-95)
80. アジア各国女性運動(ネパール：力をつけて貧困と差別に立ち向かう女性たち/サロニ・シン (p.98-100)

海外子女教育 [314](1999.04)

81. 相談室ファイル 13：松下電器産業国際人事センター海外子女教育相談室/榎原正美 (p.18)
82. 帰国子女 Who's Who：岡松佐知子さん/岡松佐知子, 古家淳 (p.36-37)

家庭科教育 [73-4](1999.04)

83. 社会変化に対応する「生活設計」教育を考える：家族ストレス論を取り入れて/黒川衣代 (p.6-11)
84. 若者の就業行動と生活設計/高梨千恵 (p.12-16)
85. 家庭科の教科書問題と家庭科教育 3：不合格指摘理由及び指摘箇所から見た文部省の家庭科観・教育観(3) 家族・保育領域を中心に その3/鶴田敦子 (p.22-30)
86. 神戸小六惨殺事件の実存的考察(18)：大阪中三生の刺傷・刺殺犯罪は「行為障害」によるものと診断すべきだ/阪井敏郎 (p.43-52)
87. 明治二十年代の近代的家族の姿：巖本嘉志子・義治を例として/武田京子 (p.53-57)
88. 体験学習を通して「生きる力」を育てる家庭クラブ作り：生徒の感想を交えて/香川実恵子 (p.63-69)
89. 高校：必修「家庭情報処理」の授業への取り組み/中谷ゆう子 (p.104-110)

家庭科教育 [73-5](1999.05)

90. 二十一世紀における生活経営の課題と家庭科教育/東珠実 (p.6-11)
91. 環境学諸学(3)：環境法学を考える/射場伸子

(p.12-16)

92. 子ども理解と「保育参加」/小川富士枝 (p.17-21)
93. 家庭科における職業の取り扱い：アメリカの家庭科教科書Skills for Life/片田江綾子 (p.22-25)
94. 社会の変化と女子労働力の重要性について/坂本美須子 (p.26-30)
95. 現代日本人の食生活と学校における食教育について/久木野睦子 (p.31-35)
96. いつまでも美しく装うために：高齢者の衣生活の現状を見る/小川秀子 (p.36-40)
97. ライフコース決定の要は中・高生時代にあり/古崎和代 (p.47-52)
98. 家庭科教育と子どもの遊び：子どもの遊びの記憶をたどる/齊藤美保子, 山岸美智子 (p.53-58)
99. 他者理解と自己理解を深める授業実践/永井敏美 (p.59-64)
100. 女子学生の商品購入動向の一現状：通信販売について/美馬朋子, 山本和枝 (p.71-77)

家庭科教育 [73-6](1999.06)

101. 家庭科教育と人格形成/福島由規子 (p.6-10)
102. 神戸小六惨殺事件の実存的考察(19)：少年の非合理的殺人には「快楽殺人」の理論をとり入れよ/阪井敏郎 (p.37-45)
103. 暮らしをデザインする/佐藤やす子 (p.46-49)
104. 情報化・メディア社会と家庭科教育(1)：メディアリテラシーとは何か/福留美奈子 (p.50-54)
105. スウェーデンと日本における出産・育児環境/宮原美奈子, 草野篤子 (p.55-61)
106. パンツ・ジーンズの社会心理/高岡朋子 (p.62-68)
107. 秘書教育についての一考察：秘書と書記について/江口玲子 (p.69-73)
108. 女子短大生の食生活の実態と意識/出雲悦子, 佐々木妙子 (p.80-89)

家庭科教育 [73-7](1999.07)

109. パートナーシップ型住まいづくりまちづくり学習への誘い：子どもと大人そして学校と地域の連携/曲田清維 (p.13-17)
110. 家庭科の教科書問題と家庭科教育 3：不合格指摘理由及び指摘箇所から見た文部省の家庭科観・教育観(4)：食物・環境を中心に/鶴田敦子 (p.31-36)
111. 神戸小六惨殺事件の実存的考察(20)：『五体不満足』の乙武君と少年Aの別れ道(上)/阪井敏郎 (p.43-52)
112. 食生活を左右する食嗜好の一側面/下川千代子 (p.53-58)
113. 共食を見直す：年中行事への取り組みの実態/赤澤典子 (p.59-63)
114. 家庭科の授業におけるマルチメディアの活用/香川実美子 (p.64-67)
115. 体験的学習を組み入れた総合的なまとめ学習：夢ある家族未来像と自己肯定イメージを/町田順子, 竹内美穂 (p.68-77)
116. 「とっちゃんの育休日記」(1)：育休取得までの経緯と育休初日/中西雪夫 (p.83-87)

家庭科教育 [73-8] (1999.08)

117. 少子化社会と自立した個人 / 堀智晴 (p.6-10)
 118. 「頑張る」から「共生」へ / 佐藤陽彦 (p.11-15)
 119. パリアフリーのデザインからユニバーサルなデザインへ : 「引き算のデザイン」から「足し算のデザイン」へ / 中野明 (p.16-21)
 120. 食生活の自立について考える / 小谷愛 (p.22-27)
 121. 農村女性の地位向上を目指して : 家庭科教育への期待 / 大木れい子 (p.28-33)
 122. 「循環型社会」作りに向けた動き : 衣生活を中心に / 平良美栄子 (p.34-41)
 123. 神戸小六惨殺事件の実存的考察 (21) : 『五体不満足』の乙武君と少年Aの分かれ道 (中) / 阪井敏郎 (p.47-57)
 124. 「とっちゃんの育休日記」(2) : 性別役割分業観・子ども向け番組 / 中西雪夫 (p.85-90)

家庭科教育 [73-9] (1999.09)

125. 大学における「いのち」を考える総合演習 / 鈴木真由子 (p.17-21)
 126. 神戸小六惨殺事件の実存的考察 (22) : 『五体不満足』の乙武君と少年Aの分かれ道 (下) / 阪井敏郎 (p.36-45)
 127. 家族は女性に「おんぶにだっこ」 : 「女性の病いと家族の意識調査」について / 渡辺美恵 (p.46-51)
 128. 主夫の家庭科の授業 : これからの家庭生活を考えよう : 性別役割分業意識からの脱却を目指して / 中嶋はるき (p.81-85)
 129. 「とっちゃんの育休日記」(3) : 小さな幸せ・おむつ騒動・ストレス解消法 / 中西雪夫 (p.86-90)

家庭科教育 [73-10] (1999.10)

130. 小学校家庭科指導に関する学生の不安とその理由 / 矢野由紀 (p.11-16)
 131. 情報化・メディア社会と家庭科教育 (2) : 家族学習の教材開発を目指して : テレビCMに見られる家族の中のジェンダー / 小川滋子, 福留美奈子 (p.17-22)
 132. 短期大学で住居・インテリア分野を担当して / 久保妙子 (p.37-41)
 133. 神戸小六惨殺事件の実存的考察 (23) : 親の「通常と見られる育て方」が、少年Aを「重症の行為障害者」にした / 阪井敏郎 (p.49-58)
 134. 生活環境教育のための教材研究 : 環境家計簿について / 多々良尊子 (p.59-64)
 135. 家庭科教育と服装史研究 / 馬場まみ (p.65-69)
 136. 食生活領域における「つながり」と「ひろがり」の授業構成モデル : 「ダイエット」を教材として / 古郡曜子 (p.75-81)
 137. 「とっちゃんの育休日記」(4) : 育児休業を終えて / 中西雪夫 (p.82-86)

かながわ女性ジャーナル [17] (1999.03)

- 特集 : 損害賠償から考える女性のいのちの値段
 138. 損害賠償のしくみ : 損害賠償の現状 : いのちの値段の男女格差 / 中野麻美 (p.5-71)

看護 [49-3] (1999.04)

139. 自立支援と成年後見制度 / 水野敏子 (p.78-81)
 140. 一歩踏み込む介護保険制度 4 : 介護認定とケアプラン作成のモデル事業の結果 / 太田加世 (p.82-85)
 141. 21世紀に向けた看護の国際協力 1 : 女性の健康と開発への看護の貢献 : 国を越えたパートナーシップ / Sally A. Bisch (p.111-116)

季刊女も男も : 自立・平等 [79] (1999.04)

- 特集 : 子ども・若ものの変容
 142. イメージできない「解放」の先の自分 : 子ども・若ものの現状と<ジェンダー> / 田代美江子 (p.14-16)
 143. 「若もの語録」の解説 (p.19)
 144. 漫画の中のジェンダー : 子ども自身によるジェンダーチェック / 池田美智子, 入江富美子 (p.20-23)
 145. いろいろな人がいて人間なんだ : 養護教諭ととりくんだ同性愛の授業 / 小島佐和子 (p.24-27)

146. メディアの現場から 5 : オヤジ復興需要 / 竹信三恵子 (p.28-29)

147. は・た・ら・く 5 : 豊かな国で安く使われる働く女性たち / 杉山由美子 (p.30-32)
 148. 不動産業界に風穴を! : 女性のための不動産屋「クアルト」の仕事 / 松永み子, 松谷優子 (p.33-36)
 149. 写真を読む 9 : 求職運動 / 岩尾光代 (p.40)
 140. パートナーシップ 5 : 自分の人生を生きることを手放したくない : 編集室ふたりからが発行する季刊誌『ひとりから』 / 金住典子, 原田奈翁雄, 古庄弘枝 (p.44-46)
 151. 女性解放思想史講座 68 : 女性社会学研究者・フランス : エヴリーヌ・シュルロ : 女性の変化が社会の深部における革命と説く『変革期の女性』 / 水田珠枝 (p.55-57)
 152. インタビュー『男の曼茶羅』5 : ダイエットの落とし穴 : 摂食障害をのりこえる / 豊田正義 (p.55-57)
 153. 子ども買春・子どもポルノ禁止へ / 宮本潤子 (p.60-63)

季刊女も男も : 自立・平等 [80] (1999.07)

- 特集 : 女の更年期・男の更年期
 154. 女の更年期 : セカンドステージの幕開けに / 宮淑子 (p.6-8)
 155. 男の更年期 : 「仕事漬け人間」量産システムの中で / 中村彰 (p.9-11)
 156. スウェーデンの更年期事情 : 女性の場合・男性の場合 / ピヤネール多美子 (p.12-13)
 157. 「メノポーズを考える会」 / 宮淑子 (p.16)
 158. ビル解禁に向けて : 効率よい一つの避妊法 / 堀口雅子 (p.17-18)
 159. ビル解禁に向けて : 残る「安全性」への疑問 / 武田玲子 (p.20)

<いま学校で : 小・中学校>

160. 「働くこと」を教える : 写真集で培うジェンダー・フリーの職業観 / 首藤久枝 (p.26-29)
 161. メディアの現場から& : 伝わらぬ理由 / 竹信三恵子 (p.30-31)

162. はたらく&女性の役員参画率を高めたい：組織労働者が一般の人々にいかにか手を差し延べられるかが大切：連合岐阜女性局長 中村征子さんに聞く / 藤田記子 (p.32-34)
163. ムーブメント：フェミニズム・アートの胎動：「女性のからだ・性」を表現するパフォーマンス・アーティスト / 松永み子 (p.35-38)
164. 写真を読む* 第九回のメーデー / 岩尾光代 (p.41)
165. パートナーシップ&サクセスフル・エイジングをめざして：介護も生き方レッスンの一つ：たけながかずこさん 竹永睦男さん / 古庄弘枝 (p.44-46)
166. 歴史をジェンダーで読む% 柴山恵美子さんに聞く：戦後女性労働運動！：敗戦の日から女性労働の問題、戦争と平和の問題を背負い込む / 柴山恵美子, 中島圭子 (p.47-51)
167. インタビュー『男の曼荼羅』&「痩せたい」を上回った生きる喜び：摂食障害をのりこえる / 豊田正義 (p.52-54)
168. 女偏の文字4 妻妾二等親 / 川田文子 (p.58-59)
169. 急がれる、実態把握と対策：男女共同参画審議会答申「女性に対する暴力のない社会を目指して」より (p.60-63)

季刊家計経済研究 [42](1999.04)

特集：暮らしと法律

170. 雇用の変容と労働関連の法整備 / 古郡鞆子 (p.34-40)

171. 高齢者の親子関係における情緒的依存と社会的ネットワーク / 水嶋陽子 (p.57-62)

季刊教育法 [119](1999.03)

172. 女子高校生の結婚観 最終回：家族法をどう教えるか / 望月由孝 (p.82-89)

教育 [49-4](1999.04)

特集：生徒の学校参加・地域参加

173. 生徒・父母が参加するフランスの学校自治：学校管理委で予算、選択科目、懲戒まで決定 / 田嶋義介 (p.24-32)

教育と医学 [47-4](1999.04)

特集：コミュニケーションを育む

174. 原初的コミュニケーションとその「発達」 / 鯨岡峻 (p.4-12)
175. 家族内コミュニケーション / 長谷川啓三 (p.13-21)
176. コミュニケーションの問題とLD / 森永良子 (p.22-30)
177. 聴覚障害者のコミュニケーション / 長谷川洋 (p.31-38)
178. 在宅ケアにおける高齢者とのコミュニケーション / 松村ちづか (p.39-44)
179. 自分の考え・気持ちを表現するためのスキル・態度とは / 平木典子 (p.53-58)
180. 話す子・話さない子・話せない子 / 杉原一昭 (p.59-64)
181. いじめをなくすには6：いじめによって起こった子どもの特異的心理反応 / 村田豊久 (p.65-70)

教育と情報 [493](1999.04)

特集：子どもは疲れている

182. 女子の方が疲れている? / 大沢稔 (p.10-15)

教育評論 [624](1999.04)

特集：21世紀の教育を創る：新採教職員へのメッセージ

183. こうして決まる教職員の賃金 / 板倉聡 (p.26-29)
184. セクハラ防止は勤務条件：今春から新法令がスタート / 小野寺和己 (p.30-33)
185. 生きる1：道なき道をゆく：37歳でジャズシンガーへ / 中村文江, 大啓文 (p.66)

京都婦研連だより [60](1998.10)

特集：「性差の科学」討論会

186. シュルロのシンポジウム「女性とは何か」以後の現代の課題：「性差の科学」を読んで / 西川祐子 (p.3-5)
187. 一瞬ではない性の決定 / 宇野賀津子 (p.5-7)
188. 「性差の科学」の今後に期待すること / 寛久美子 (p.7-10)
189. 性差の科学と学術のジェンダー構造 / 池内了 (p.10-12)
190. 「性差の科学」研究会での討論を終えて / 坂東昌子 (p.37-40)
191. ジェンダー論・フェミニズム論の最近の研究動向 / 荻野美穂 (p.40-42)

192. 女性研究者の生き方シリーズ：数学と私 / 小磯深幸 (p.42-53)

京都婦研連だより [61+62](1999.09)

193. 生殖技術の発展とその社会的影響：クローン談義その後 / 宇野加津子 (p.7-9)
194. 環境ホルモン研究の現状と課題 / 川合真一郎 (p.10-12)
195. 自然科学系大学院生交流会 (p.12-43)

くらしと教育をつなぐWe [7-9](1999.01)

特集：多様な表現をひらく

196. 女性の多様な表現をひらく：アートと言葉の間で：深澤純子さんと高畑早苗さんとのトークから / 稲邑恭子, 深澤純子, 高畑早苗 (p.4-12)
197. インタビュー：アートで心を遊ばせる：合志暎子さん (p.19-26)

198. 快刀乱麻! 宮台真司の世紀末講座 6：専業主婦廃止論 / 宮台真司 (p.46-49)

くらしと教育をつなぐWe [8-1](1999.04)

特集：居場所考 II

199. シンポジウム記録：<問題縁>でつながる：岡村聡子さんと鶴田桃江さんのお話から / 岡村聡子, 鶴田桃江, 稲邑恭子 (p.13-22)

200. 家庭科：風が変わる、匂いが変わる：多様な家族をめぐって / 石橋満里子 (p.28-33)

201. セックスをめぐる超!わがままなれーえっせい 第1回：セックスワークと三つの自立 / 中条きよし (p.50-

52)

- くらしと教育をつなぐWe [8-2](1999.05)
202. セックスをめぐる超!わがままなりれーえっせい 第2回:主に『ネオ・リベラリズムと性暴力』を巡って/渡辺克彦 (p.44-47)
203. 残された時間の中で 第1回:韓国人の「母」、日本人の「父」/坂本知壽子 (p.48-50)

- くらしと教育をつなぐWe [8-3](1999.06)
204. 家事神話:女性の貧困のかけにあるもの 第1回:知られざる素顔/竹信三恵子 (p.35-39)
205. 宮台真司の世紀末講座 第八回:匿名メディアの問題から何が見えてくるのか/宮台真司, 稲邑恭子 (p.46-50)
206. セックスをめぐる超!わがままなりれーえっせい 第3回:性、愛、結婚の「三位一体」は女だけの掟?/早乙女麗子 (p.51-55)

- くらしと教育をつなぐWe [8-4](1999.07)
207. セクシュアル・ハラスメント:自分自身を必要とすること/Ms.J (p.2-8)
208. セクシュアル・ハラスメント:キャンパスセクハラ防止対策の危うさ/高橋りりす (p.9-14)
209. セクシュアル・ハラスメント:セクハラ対策の充実に向けて/稲邑恭子 (p.15-22)
210. セクシュアル・ハラスメント:「守ろう 心とからだ」:暴力や性被害から身を守る方法を具体的に知る/向原恵子 (p.23-27)
211. 家事神話 第2回:女性の貧困のかけにあるもの/竹信三恵子 (p.40-43)

- くらしと教育をつなぐWe [8-5](1999.08)
212. ジェンダーに敏感な教育を:ノルウェー「男女平等の本」を翻訳・出版して/荒川ユリ子 (p.3-11)
213. ジェンダーに敏感な教育を:インタビュー ジェンダー・フリー教育のもつ豊かな可能性にひかれて:荒川ユリ子さん/荒川ユリ子, 稲邑恭子 (p.12-19)
214. 家事神話 第3回:女性の貧困のかけにあるもの# /竹信三恵子 (p.27-31)
215. セックスをめぐる超!わがままなりれーえっせい 第4回:セックスレス夫婦はクローン羊の夢を見るか?/菅井純子 (p.50-51)
216. 残された時間の中で 第2回:「慰安婦のおばさんでしょう?」/坂本知壽子 (p.57-60)

- くらしと教育をつなぐWe [8-6](1999.09)
217. ジェンダーフリーってなに?:インタビュー 誰もが自由に表現できる場を求めて:カムラアツコさん/カムラアツコ, 稲邑恭子 (p.2-11)
218. ジェンダーフリーってなに?:「ジェンダーフリー」のもつれをほどく:堀田碧 (p.14-20)
219. 家事神話 第4回:女性の貧困のかけにあるもの\$ /竹信三恵子 (p.24-27)
220. 残された時間の中で 第3回:タイム・スリップ/坂本知壽子 (p.46-49)

- 月刊オルタ [262](1999.04)
- 特集:いま、戦後補償を考える
221. 菅沼友子さんに聞く:フィリピン「従軍慰安婦」裁判:被害者の声に耳を傾けて/菅沼友子 (p.4-7)
222. 石田米子さんに聞く:山西省性暴力被害:なぜ戦時性暴力が起きるのか/石田米子 (p.8-9)
223. 元気な人に会いに行く:表現は人に力を与えるもの/石原みき子 (p.28-29)

- 月刊家庭科研究 [172](1999.04)
- 特集:新学習指導要領で家庭科はどうなる 中学校
224. 中学校新学習指導要領の検討/勝俣順子 (p.10-21)
225. 教科「技術・家庭」瓦解への予測/斉藤弘子 (p.28-31)
226. 高校実践『生活情報の活用』の授業/石引公美 (p.56-63)
227. 共働きの夫婦のストレス調査 (p.74-75)

- 月刊公民館 [503](1999.04)
- 特集:公民館奮闘記 その2
228. 女性セミナー エイジレス 芳賀:群馬県前橋市芳賀公民館/竹澤泰子 (p.37-41)

- 月刊国民生活 [29-4](1999.04)
- 特集:NPOの社会的役割を考える:法施行後の状況と今後の運営
229. NPOの現状と社会的意義:海外と日本の比較から/星野昌子 (p.8-15)
230. 特定非営利活動法人の申請状況と所轄庁の取り組み/小林裕幸 (p.16-21)
231. NPO法人格取得の意義と組織運営/中西正司 (p.22-27)
232. NPO運営の課題と方策/世古一穂 (p.28-33)
233. 自治体における市民活動への支援/井丸朝代 (p.34-39)

- 月刊社会教育 [522](1999.04)
- 特集:新・社会教育入門
234. 社会教育で学ぶ:地域を見直すきっかけとなった外国人との学習/五十嵐京子 (p.58-63)

- 月刊女性&運動 [199](1999.04)
- 特集:「子どもと教育」はいま
235. 家庭科教育からみた男女平等/和田典子 (p.24-26)
236. 小学校低学年からの学級崩壊/広中真由美 (p.27-29)
237. 国連への「行動綱領」実施状況の報告に盛り込む内容についての意見/新日本婦人の会 (p.39-43)
238. 世界の女性情報 26:パキスタンの平和運動/平野恵美子 (p.44-45)
239. 子育てはあたたかく やわらかく ゆったりと/増山均 (p.46-47)

- 月刊世論調査 [31-4](1999.04)
240. 地球環境とライフスタイル/総理府 (p.2-50)

月刊婦人展望 [504] (1999.05)

241. 座談会 男女共同参画社会基本法案をめぐって / 石橋源六郎, 中下裕子, 縫田暉子 (p.5-11)

特集: 第14回統一地方選特集 4

242. 女性候補の選挙結果: 前半戦を中心に (p.12-13)

243. 対談 第43回国連婦地委に出席して / 目黒依子, 橋本ヒロ子 (p.14-17)

月刊ロアジール [23-9] (1999.03)

244. 日本余暇通史・戦後編 5: 第二期・高度成長期: 国の総合行政としてスタート / 瀬沼克彰 (p.20-30)

245. 推理作家の「裏読み」レジャー白書 6: 「余暇動機」変化へのもう一つの不安 / 野村正樹 (p.31-35)

246. 日本余暇学会レポート: 余暇へ: 男たちの再生空間: 「おやじの会」の地域活動をめぐって / 大下勝巳 (p.40-45)

月刊ロアジール [23-10] (1999.04)

247. 日本余暇通史・戦後編 6: 第二期・高度成長期: 格差が見られた自治体の余暇行政 / 瀬沼克彰 (p.30-39)

健康管理 [538] (1999.04)

特集: 健康管理における家族と企業

248. 家族と介護の現状 / 藤本末美 (p.13-24)

現代思想 [27-4] (1999.04)

249. デリダ: Decidevenement, du texte (承前) / 港道隆 (p.20-31)

特集: システム論: 内部観測とオートポイエーシス

250. 現象学的・人間学的見地からの「自己」・関係性への考察 / ヴォルフガング・ブランケンブルク; 飯野由美子訳 (p.174-192)

現代性教育研究月報 [17-4] (1999.04)

251. セクシュアリティの授業に必要なもの: 性の多様性への気づき: 二者択一的な「わかりやすさ」に要注意 / 木谷麦子 (p.1-5)

252. 伏見憲明が聞く / 現代「性の倫理学」4: 援助交際はよくないと言える「唯一の理由」 / 宮台真司, 伏見憲明 (p.6-11)

253. 連載 9・性教育の授業法: ブランドを用いた多重構造ロールプレイ / 疋田哲也 (p.12-13)

現代のエスプリ別冊 (1999.04)

特集: ストレス研究の基礎と臨床

254. ストレスとホメオスターシス / 原信一郎 (p.125-138)

255. ストレスの臨床研究の現状と展望 / 石川俊男 (p.139-150)

256. ストレス評価・測定の研究 / 夏目誠 (p.151-162)

257. ストレス・マネジメントと対処についての研究 / 島井哲志 (p.173-181)

258. ストレスと内分泌・代謝疾患についての研究 / 玉井一, 河合啓介 (p.231-245)

259. ストレスと免疫疾患についての研究 / 村上正人

(p.246-257)

厚生 [54-4] (1999.04)

260. 平成11年度厚生省予算の概要: 平成11年度予算トピックス: 各局予算の概要 / 大臣官房会計課 (p.11-28)

厚生指標 [46-4] (1999.04)

特集: 健康余命を考える

261. (総説) 健康余命を考える: 複合健康指標 (COMPOSITE HEALTH MEASURE) をめぐって / 瀬上清貴 (p.3-11)

262. 健康余命の算定方法の比較: Sullivan法、Katz法、Rogers法 / 橋本修二, 宮下光令, 辻一郎 (p.12-16)

263. 健康余命の現状と国際比較: 仙台データ / 辻一郎 [ほか] (p.17-22)

264. Katz法による活動的平均余命の推定: 佐久市コホート研究の結果より / 石崎達郎, 甲斐一郎, 小林廉毅 (p.23-27)

265. 標準早死損失年 (PYLLSR) と区間死亡率 (LSMR) の概念分析と健康政策への応用 / 長谷川敏彦, 高本和彦, 福田吉治 (p.34-39)

266. 健康効用指標による住民の健康的な生活の評価: The Health Utilities Index (Mark III) について / 久繁哲徳, 三笠洋明 (p.50-54)

更生保護 [50-4] (1999.04)

特集: 保護司法改正

267. 現場からのレポート: “社会を明るくする運動”の地平を拓く: フィリピン文化交流協会との連携 / 上原文一 (p.32-35)

268. 社会資源シリーズ 13: 母子生活支援施設 / 厚生省児童家庭局家庭福祉課 (p.44-45)

国際問題 [469] (1999.04)

特集: 南アジアの現況

269. 政党再編とインド政治 / 竹中千春 (p.34-48)

こころの科学 [84] (1999.03)

特集: 心療内科

270. 摂食障害 / 山口直美 (p.50-54)

271. 更年期障害 / 赤松達也 (p.63-67)

272. 転換型ヒステリー / 平島奈津子 (p.68-71)

273. ルポ・ニッポン人 4: 援助交際: 買う父と売る娘 / 林雅行 (p.113-119)

274. “母性愛神話”を問いなおす 8: 母親の就労は本当に子どもに悪影響を与えるか / 大日向雅美 (p.128-135)

子どもの文化 [30-5] (1998.05)

特集: 子育て支援とNPO

275. 子育て・子育て支援とNPO活動: 乳幼児から中・高校生まで支援する活動を! / 小木美代子 (p.6-11)

276. 子育て新時代を切り開く: 親と専門家がつくるNGOのボランティア団体『こころの子育てインターネット関西』の活動 / 原田正文 (p.12-15)

277. 柏市における子育てサークルの現状：平均的子育てサークルの活動 / 新藤一壽 (p.16-19)
278. 自然とくらしと子どもを育てる：休・廃校舎を地域の文化センターへ / 山下正寿 (p.20-23)
279. 子ども文化オピニオン：子どもとテレビとメディア・リテラシー：二〇年の歩みのなかから / 宮崎寿子 (p.29-23)

子どもの文化 [30-6](1998.06)

特集：子どもと考えるゴミ問題

280. ゴミ問題は今の時代を正直に映す鏡 / 高橋泰子 (p.2-9)

281. 広島からの文化発信：子育てオープンスペース：「0123」(ゼロ・イチ・ニ・サン) / 金子留里 (p.36-37)
282. 子どもの文化ホットライブ：「子どもの本の日って？」各国の多彩な催し / 川西美沙 (p.48-51)

子どもの文化 [31-4](1999.04)

283. 21世紀の保育・幼児教育をどのようにデザインするか(中)：保育・幼児教育制度改革議論の背景にあるもの / 加藤繁美 (p.31-37)

子ども未来 [320](1998.05)

284. 女性の視座：少子化への対応は、多様な価値を認めることから / 島田京子 (p.3)

特集：『子ども未来賞エッセイ』『働く人の子育てレポート』入選者決まる

285. 子育ての楽しさ・喜び・工夫の数々：「育児日記のススメ」 / 北原尚美 (p.4-6)
286. こども未来賞応募作品を審査して / 土井豊 (p.7-11)

287. 男の子育て体験記：仕事のスケジュールも子どもも優先に：一緒にいる時間を大切にしたいから / 布川敏和 (p.15)

288. 地方からの報告：市立児童館運営の民間委託が好評：将来構想は既設・新設ほとんどを民営化：群馬県太田市 (p.26-28)

子ども未来 [321](1998.06)

289. 女性の視座：女性の転職復帰を容易にする再雇用制度の充実を / 長谷山律子 (p.3)

290. 地方からの報告：市のエンゼル祝金条例に地元メーカーが協力：4人目の子どもが生まれたら車を無償で貸します：大阪府池田市 (p.26-28)

子ども未来 [322](1998.07)

291. 女性の視座：制度化だけでなく制度を活用できる環境整備が大切 / 水越さくえ (p.3)

292. 男の子育て体験記：自力で苦境を脱した息子：父親は《指針》を提示できたか? / 下村健一 (p.15)

293. 地方からの報告：地域の子育て環境づくりの一環として放課後児童クラブのあり方を考える：児童福祉課と教育委員会の連携がキーポイント：栃木県宇都宮市 (p.26-28)

こども未来 [331](1999.04)

294. 平成11年度厚生省児童家庭局予算の概要 (p.13-15)

295. こんにちは保育園：看護婦の就業を支援するために医師会が設立：今治市医師会保育所エンゼル保育園(愛媛県今治市)(p.18-19)

296. エンゼルプラン西東：利用者の視点を尊重しつつ、民間保育所の増設を一举に図る：岡山県津山市(p.24-25)

297. 地方からの報告：性別による役割分業の意識改革にアイデア広報：ユニークな啓発資料を作成：大分県、鹿児島県 (p.26-28)

思想 [898](1999.04)

特集：ジェンダーの歴史学

298. ジェンダー再考 / Joan Wallach Scott ; 荻野美穂訳 (p.5-34)

299. 女性史の異議申し立て / Gayatri C. Spivak ; 後藤浩子訳 (p.35-44)

300. 労働者のジェンダー化：日独における女性保護規定 / 姫岡とし子 (p.45-74)

301. 「家」のメタ社会学：家族社会学における「日本近代」の構築 / 千田有紀 (p.75-103)

302. 「もっと男らしい男、もっと女らしい女」：ナチ人種憎悪のイコノグラフィー / Claudia Koonz ; 原田一美訳 (p.104-135)

303. 沈黙という問題：占領軍兵士によるドイツ女性の強姦 / Atina Grossman ; 荻野美穂訳 (p.136-159)

304. ドイツにおける女性史とジェンダーの歴史学：発展課程・問題点・将来展望 / Ute Frevert ; 田邊玲子訳 (p.160-172)

305. インタビュー 女性史からジェンダー史へ / Ute Frevert, 荻野美穂, 姫岡とし子 (p.173-181)

306. 歴史と理性のあいだの女 / Genevieve Fraisse ; 松本伊瑳子訳 (p.182-195)

307. 日本女性史の軌跡とジェンダー史の課題：中世研究から現代を見る / 脇田晴子 (p.196-209)

視聴覚教育 [52-6](1998.06)

308. 学習メディア活用研究会 18：心の教育とコンピュータの活用：子どもに自己存在感と自信が生まれる学習 / 真鍋みさ (p.84-87)

児童心理 [52-8](1998.06)

特集：暴力をふるう子

309. 暴力の心理 / 福島章 (p.1-10)

310. 暴力に訴える子：自己表現としての暴力 / 金盛浦子 (p.11-16)

311. 暴力にいたるプロセスとその予防 / 相部和男 (p.17-23)

312. メディアは暴力を助長している! / 久田邦明 (p.24-29)

313. 教師はなぜ体罰をやめないか / 堀井啓幸 (p.41-48)

314. 「内なる暴力」から子どもたちを守るには：臨床心理学の立場から / 竹松志乃 (p.56-61)

315. 解体新語 6：ジェンダー / 菊地栄治 (p.62)

316. 最近のいじめ・校内暴力の実態 / 森嶋昭伸 (p.63-68)

317. 殴られて育った子の心理と行動 / 田中ひな子 (p.96-100)

318. 夫婦間の暴力は子どもに何をもたらすか / 倉本英彦

(p.101-105)
319. 子どもの家庭内暴力にどう対応するか / 会田芳敏 (p.106-111)

320. 教室の中のジェンダー差別 3: 教員養成と研修の課題 / 堀内かおる (p.113-121)

児童心理 [52-9] (1998.06)

特集: 役立つ事例中心: 不登校・登校拒否への対応と援助

321. 最近の不登校・登校拒否のタイプ / 田上不二夫 (p.2-11)

322. 不登校・登校拒否とのつきあいの基本は何か: 安心と自由がキーワード / 横湯園子 (p.12-19)

323. 自立をめざした不登校・登校拒否対応 / 池田豊應 (p.20-27)

324. 発達段階に応じた登校拒否への対応 / 高山和雄 (p.28-35)

325. 子どもの甘えを受入れられない親 / 松本昌治 (p.120-123)

326. 子どもの一言に愕然とする親 / 遠藤康男 (p.124-127)

327. 学校に原因をおしつける親 / 川村道夫 (p.128-131)

328. 子育てに自信をなくした親 / 田中安子 (p.132-135)

329. 登校拒否の子どもをもつ保護者の会を通して / 若月秀夫 (p.146-149)

330. 母親から離れられない少女 / 桑原和子 (p.156-159)

児童心理 [52-10] (1998.07)

特集: 叱れない親・叱り過ぎる親

331. 叱れない親と叱り過ぎる親: いま求められる「父」の役割、「母」の役割 / 斎藤学 (p.1-11)

332. 子どもを叱れない親子関係 / 三川俊樹 (p.19-25)

333. 叱り過ぎる親の問題 / 西順子 (p.27-32)

334. 発達段階に見合う叱り方 / 川合貞子 (p.41-46)

335. 母親が叱るとき、父親が叱るとき: 役割のとり方 / 芳賀久貴 (p.52-57)

336. 叱ることと親子関係の病理: 主として精神分析的な視点から / 本城秀次 (p.59-64)

337. 子育てに自信を失ったとき考えてみたいこと / 甲斐志郎 (p.105-110)

児童心理 [52-11] (1998.08)

特集: 家庭の教育があぶない

338. 家庭の教育力はなぜ低下しているのか / 田村哲夫 (p.9-16)

339. 子どもにとって幸せな家庭 / 鶴飼啓子 (p.17-23)

340. 家庭だからこそ教えられることは何か: ふれあい、感覚、非言語コミュニケーション / 内藤知美 (p.25-30)

341. 親が子どもに推しつけていること: 「あなたのため」は「誰のため」? / 一丸藤太郎 (p.31-36)

342. 感情をレイプされる子どもたち / 岩月謙司 (p.38-44)

343. 韓国の家庭におけるしつけ / 李徳奉 (p.52-55)

344. 家庭教育の日英比較 / 佐藤淑子 (p.55-59)

345. 未開社会(先住民族)の子育て / 正高信男 (p.59-62)

346. 母親のための開発的カウンセリング / 太田仁 (p.106-110)

児童心理 [52-12] (1998.08)

特集: 接し方・かかわり方がわからない「気がかりな子」の理解と指導

347. 「気がかりな子」とは何か: 「よい子」イメージを問う / 鶴飼美昭 (p.2-11)

348. 「気がかりな子」発見のチェックポイント / 小林正幸 (p.12-19)

349. ころから体へ、体からころへ: 非行少年たちの姿勢が語るもの / 菅原圭悟 (p.20-27)

350. 親の立場から: 子どもに心の安全地帯を / 森田明子 (p.35-41)

351. スクールカウンセラーの立場から: 大人の責任を考える / 小村典子 (p.42-48)

352. 自分の居場所がない子 / 齊藤代一 (p.76-81)

児童心理 [53-5] (1999.04)

特集: 甘い親・優しい親

353. 甘い親・厳しい親・優しい親: アドラー心理学の立場から / 野田俊作 (p.1-9)

354. 子どもは親に何を求めているか: データにみる / 戸塚智 (p.17-23)

355. 叱れない親の心理: 叱りに潜む不安と幻想 / 品川博二 (p.24-29)

356. なぜ、わが子に優しくできないのか / 谷向みつえ (p.36-40)

357. 現代社会の生み出す「困った親たち」 / 妙木浩之 (p.41-46)

358. 甘い親に育てられた子どもの短所と長所 / 片倉瑛子 (p.48-52)

359. 親の優しさ・カウンセラーの優しさ / 斎藤慶子 (p.53-57)

360. わが子がいじめに関わっていたら / 藤川章 (p.58-62)

361. わが子が学校へ行かなくなったら / 伊藤明芳 (p.63-68)

362. わが子が非行に走ったら / 浜野昌彦 (p.68-73)

363. 子どもにこんなことを言われたら: 言葉につまる親のアドバイス / 福田健 (p.89-93)

364. 子どもに癒着する親: カウンセリングの現場から / 藤生英行 (p.102-106)

365. 親子の接触コミュニケーション: 民族学の視点から / 野村雅一 (p.107-112)

366. アドラーの心理学に学ぶ: 自分を好きといえる子に育てる20の知恵 4: 勇気を育てる上手なほめ方・励まし方 / 星一郎 (p.120-126)

児童心理 [53-6] (1999.04)

特集: 児童虐待: 子どもいじめの背景と対応

367. 児童虐待とは何か: その要因と実態 / 佐藤紀子 (p.2-14)

368. 子どもいじめの心理と歴史 / 小西聖子 (p.15-22)

369. 虐待された子どもの心理と行動 / 奥山真紀子 (p.23-30)

370. わが子を虐待する親の心理: 虐待を生みやすい家族の背景 / 中島真知子 (p.31-40)

371. 少子化の背後に: 新たな親と子の関係性 / 田中千穂子 (p.41-47)

372. ステイグマからの解放と関係の回復 / 石川憲彦 (p.48-55)

373. 虐待の発見と専門機関への通告のポイント / 山縣文治 (p.56-61)
 374. 虐待を解決するための子どもへの指導 / 生越詔二 (p.62-67)
 375. 癒されない心の傷と暴力 / 崎尾英子 (p.68-74)
 376. 虐待されている子に学校は何ができるか / 大木みわ (p.76-81)

< 指導事例：虐待の発見のきっかけと対応 >

377. 生傷がたえない / 金井雅子 (p.82-93)
 378. 教材費を持ってこない / 山崎洋史 (p.94-101)
 379. 他の子に暴力をふるう / 梶山有二郎 (p.102-104)
 380. いつもふさぎこんでいる / 内野希代子 (p.105-107)
 381. 頻りに盗みをする / 山口容子 (p.108-110)

382. 虐待をやめられない親の悩み：電話相談の窓口より / 子どもの虐待防止センター電話相談員 (p.112-117)
 383. どこまでが適度なしつけか：自己コントロールできる親 / 武田京子 (p.118-123)

< 相談事例：体罰に走る前にどう対応するか >

384. 子育てに喜びを感じられない：しつけを急いでしまう：気分次第でつい手が出てしまう / 今井和子 (p.124-134)
 385. 学業面で子どもが期待に応えてくれない：他の子と比べて劣っているように感じられる / 小沢美代子 (p.135-146)
 386. 子育てについて相談する相手がいない：両親の不和が子どもの発達を妨げている / 丸岡玲子 (p.141-146)

387. 教育者の人権教育感覚を問いなおす / 坂本秀夫 (p.154-159)
 388. 子どもの権利とエンパワーメント：国際社会における虐待防止の歩みから21世紀を展望する / 森田ゆり (p.160-167)
 389. 家庭裁判所における児童虐待事件の諸相 / 中谷正昭 (p.168-173)
 390. データから見る子ども虐待・ネグレクトの実態 / 高橋重宏 (p.183-175)

社会運動 [219] (1998.06)

391. マイクロクレジットとNPO：少額融資の発展の背景の考察から / 秋葉武 (p.14-26)
 392. 第三世界ネットワーク通信：アメリカの見えない子どもたち / エレン・フランク; 池田真理訳 (p.50-53)

社会運動 [228] (1999.03)

393. マルチナショナル・モニター誌が選ぶ1998年の最悪企業10社 / コーポレート・クライム・リポーター; 淵脇耕一訳 (p.37)

< 代理人運動 >

394. 市民ネットワーク北海道：統一自治体選挙、40日後に迫る / 七里とみ子 (p.44)
 395. 東京・生活者ネットワーク：「子育て介護は社会のしごと」 / 古川佳子 (p.46)

396. 神奈川ネットワーク運動：二宮の選挙で見えたこと / 森直美 (p.47)
 397. ふくおかネットワーク：ふくおかネットワークの10年実現したこと、こんなにたくさん / 外井京子 (p.48)
 398. 「既婚女性の生活に関する意識調査」結果報告 2：専業主婦を優遇する仕組みについて / 海野和之 (p.49-59)

社会科学論集 [62] (1997.09)

399. イギリス協同組合運動におけるジェンダー摩擦(2)：女性協同組合ギルドの思想と活動一八八三年～一九二一年 / 水田珠枝 (p.1-32)

社会学評論 [49-1] (1998.06)

400. 自殺論の再構成：フィリップ・ベルーナによる『自殺論』の解釈について / 薬師院仁志 (p.42-59)

社会教育 [53-4] (1998.04.00)

特集：NPO活動と生涯学習

401. 生涯学習関係者のための「NPO入門講座」Q&A / 服部篤子 (p.8-15)
 402. 電子ネットワーク時代のNPO活動 / 小山紳一郎 (p.22-25)
 403. NPOが作る地域情報誌「ベルクソン」 / 戸田安信 (p.32-35)
 404. 生涯学習プログラムの研究 第68回：まちづくり町民大学の研究：山北町(新潟県)の「さんぼく未来塾」のプログラム / 岡本包治 (p.50-53)

社会教育 [53-5] (1998.05)

405. 総合行政で進めた八潮市の生涯学習「この7年」 / 藤波彰 (p.4-7)

特集：総合的視点からの生涯学習

406. 参画の視点から「住民参加・住民主導に向かう生涯学習」 / 瀬沼克彰 (p.12-15)
 407. ホロニック生涯学習論：生涯学習能力の形成をめざして / 高橋輝 (p.16-22)
 408. 教育行政機関と民間教育事業者との連携の促進について(報告)の概要：教育行政機関と民間教育事業者との連携方策に関する調査研究協力者会議 (p.29-39)
 409. 豊田市の生涯学習担当の取り組み：「総合行政」としての可能性 / 太田稔彦 (p.40-43)
 410. 区民が企画・運営するすみだ生涯学習センター / 神戸與夫 (p.44-47)
 411. 福島市における生涯学習アドバイザー制度 / 菅野範吉 (p.48-51)

社会教育 [53-7] (1998.07)

412. コンピュメンターとは / 岡部一明 (p.64-65)

社会心理学研究 [13-3] (1998.03)

413. 暴力映像と攻撃行動：他者依存の効果 / 湯川進太郎, 吉田富二雄 (p.159-169)
 414. 教師の資源と学級文化の関連性 / 西本裕輝 (p.191-202)

415. 雑誌のマニュアル利用行動の実証とその解説 / 多田奈緒子 (p.203-212)

社会心理学研究 [14-2] (1999.02)

416. 自己評価と自己呈示スタイルとの関係 / 久保真人 (p.78-85)

417. 孤独感の低減に及ぼす社会的スキル訓練の効果に関する実験的検討 / 相川充 (p.95-105)

社会心理学研究 [14-3] (1999.03)

特集：ネットワークの社会心理学

418. 人はなぜウェブ日記を書き続けるのか：コンピュータ・ネットワークにおける自己表現 / 川浦康至, 山下清美, 川上善郎 (p.113-122)

419. www掲示板を用いた電子コミュニティ形成過程に関する研究 / 篠原一光, 三浦麻子 (p.144-154)

420. 家族集団における役割関係の構造：ソシオン理論に基づく二相三元非対称データの分析 / 石盛真徳, 開原千景, 藤澤等 (p.155-164)

421. テレビ番組の視聴行動に対人的な要因が与える影響 / 石黒格 (p.165-174)

社会福祉研究 [71] (1998.04)

422. 社会福祉基礎構造改革と社会福祉事業法のカテゴリー / 蟻塚昌克 (p.2-12)

特集：社会福祉への「市民参加」をめぐる論点と課題

423. 21世紀に向けた参加型福祉社会の構築：待ったなし、求められる決断 / 岡澤憲英 (p.14-25)

424. 新たな社会福祉サービス供給組織とボランティア活動：NPO法案をめぐる動きと課題 / 杉岡直人 (p.40-46)

425. 住民参加・利用者参加を支える地域福祉活動：活動の組織化・支援・仲介機能 / 牧里常治 (p.47-53)

426. アメリカにおける児童虐待・放置対策の陥穽：無視された経済的要因 / 上野加代子, Leroy H. Pelton, David G. Gil (p.85-91)

ジュリスト [1133] (1998.05.15)

特集：国家の役割と統治構造改革

427. 市民の政治参画：国家像の変容と「市民主権」・NPOの可能性 / 辻村みよ子 (p.65-70)

ジュリスト [1134] (1998.06.01)

428. 出生後の認知による国籍の生来的取得を認めた事例 / 佐藤やよひ (p.132-134)

ジュリスト [1135] (1998.06.10)

特集：平成九年度重要判例解説

429. 民法：離婚請求を容認するに際し別居後離婚までの間の子の監護費用の支払を命ずることの可否 / 佐藤義彦 (p.85-86)

430. 労働法：保母業務と頸肩腕症候群との間の因果関係と安全配慮義務：横浜市立保育園事件 / 本久洋一 (p.215-217)

ジュリスト [1136] (1998.06.15)

特集：犯罪報道のあり方と報道の自由

431. 犯罪報道における当事者・関係者の名誉・プライバシーと報道の自由 / 角替晃 (p.41-46)

432. イヴ・モンタンとDNA鑑定 / 松川正毅 (p.92-98)

ジュリスト [1137] (1998.07.01)

特集：法律扶助制度のあり方

433. 資料：法律扶助制度研究会報告書 / 法律扶助制度研究会 (p.56-75)

ジュリスト [1138] (1998.07.15)

特集：第一四二回国会主要成立法律

434. 特定非営利活動促進法について / 有馬嘉宏 (p.44-47)

ジュリスト [1153] (1999.04.01)

435. 海外法律情報：スウェーデン：機会均等をめぐる動き / 木下淑恵 (p.6)

特集：労働基準法の改正

436. 労働時間短縮と労基法改正 / 島田陽一 (p.37-48)

437. 職業生活と家庭生活の調和と労基法改正 / 川口美貴 (p.49-56)

ジュリスト [1154] (1999.04.15)

438. 海外法律情報：ドイツ：子育て控除の拡大を求める連邦憲法裁判所判決 / 齊藤純子 (p.4)

ジュリスト [1156] (1999.06.01)

439. 条例コーナー：県民ボランティア活動の促進等に関する条例：兵庫県 / 山下敦 (p.6-7)

440. 判例批評：住民票非嫡出子差別訴訟 / 阿部泰隆 (p.99-103)

441. 民法研究会 第174回：DNA鑑定による父子関係の否定 / 本山敦 (p.141-144)

ジュリスト [1157] (1999.06.10)

特集：平成10年度重要判例解説

442. 内縁夫婦による共有不動産の共同使用と一方死亡後の利用関係 / 吉田克己 (p.86-87)

443. 児童に淫行をさせる行為 / 加藤久雄 (p.164-165)

444. 産後休業及び育児のための時短処置の取得による賞与の不支給：学校法人東朋学園・高宮学園事件 / 笹沼朋子 (p.218-220)

445. 終戦後、平和条約発効前に、内地で日本人を母として婚姻外に出生し、朝鮮人により認知された者は、平和条約の発効によって日本国籍を失うか / 鳥居淳子 (p.291-293)

ジュリスト [1159] (1999.07.01)

446. インターネットをめぐる法律問題：サイバーポルノ判断の米国連邦最高裁判理の問題点：通信品位法違憲判決後も残る「コミュニティ・スタンダード」 / 真嶋理恵子 (p.98-105)

447. 老人福祉法に基づく在宅介護サービスの供給とその法的性格 / 倉田聡 (p.106-108)

448. インターネット上の誹謗中傷、詐欺、その他違法・有害

情報の現状と対策について(上) / 後藤啓二 (p.118-128)

ジュリスト [1160] (1999.07.15)

449. 海外法律情報：スウェーデン：労働生活における差別禁止 / 木下淑恵 (p.4)
450. インターネット上の誹謗中傷、詐欺、その他違法・有害情報の現状と対策について(下) / 後藤啓二 (p.91-98)
451. 司法記者の目：東京地裁、柳美里さんに出版差止め命じる (p.108)
452. 労働判例研究 第九〇九回：昇格差別の不当労働行為の成否判断における人事考課と昇格試験成績：芝信用金庫事件 / 秋田成就 (p.136-138)

ジュリスト [1161] (1999.08.15)

453. 海外法律情報：台湾：女性労働者の権利保護へ / 津田嵩恵 (p.4)
454. 涉外判例研究 第四七一回：形式的成立要件を欠く日本人と外国人の婚姻の有効性 / 織田有基子 (p.207-209)

ジュリスト [1162] (1999.09.01)

455. パブリック・コメント：刑事手続における犯罪被害者の保護に関する意見募集について / 甲斐行夫 (p.6-7)

ジュリスト [1163] (1999.09.15)

- 特集：犯罪被害者の保護と救済
456. 犯罪被害者対策の理念 / 大谷實 (p.7-12)
457. 刑事手続における犯罪被害者の保護に関する従前の法整備等の状況と立法的課題 / 甲斐行夫 (p.13-17)
458. 被害者に対する情報提供の現状と課題 / 太田達也 (p.18-29)
459. 刑事手続への被害者の参加 / 加藤克佳 (p.30-38)
460. 刑事手続における被害者の保護 / 川合敏裕 (p.39-49)
461. 被害者に対する支援：警察の立場から / 太田裕之 (p.50-58)
462. 犯罪被害者の支援について：弁護士会の立場から / 児玉公男 (p.59-71)
463. 被害者の財産的損害の回復 / 高橋則夫 (p.72-79)
464. 被害者の心のケア / 山上皓 (p.80-86)

小児保健研究 [57-3] (1998.05)

465. 幼児肥満と食行動、母親の対応との関連について：肥満の程度と肥満のタイプの違いによる検討 / 長谷川智子 (p.386-394)
466. 子どもの身長が親を越えるとき / 篠田謙一、高井省三、穠吉敏男 (p.410-415)
467. 乳幼児の精神発達指数と母親の示すスキンシップとの関係について / 鈴木五三男[ほか] (p.423-427)
468. 保育園児の病気とそれを支える家族と社会 / 小國龍也[ほか] (p.428-432)
469. 宮城県大和町における0歳児を持つ母親の育児ストレスに関わる要因の検討 / 加藤道代、津田千鶴 (p.433-440)
470. 先天性心疾患児をもつ母親の療育上の心配：第1報：健康管理および教育・育児に関して / 広瀬幸美、福屋靖子 (p.441-450)

471. 先天性心疾患児をもつ母親の療育上の心配：第2報：家庭生活、親の生活、受療に関して / 広瀬幸美、福屋靖子 (p.451-459)

助産婦 [52-2] (1998.05)

- 特集：助産婦が見えない
472. 『ぐるーぶ・きりん』のアンケート調査から / 阿部真理子 (p.6-11)
473. 横浜市立病院に勤務する助産婦の育成への取り組みについて / 鶴田恵子 (p.20-23)

女子教育 [21] (1998.04)

- 特集：子どものこころ
474. 悪逆児・大麻呂：『日本霊異記』防人譚にみる子のこころ / 志水陽子 (p.20-24)
475. 現代の衣服から見る子供の心 / 大枝近子 (p.25-28)
476. ディベートで考える女性の喫煙 / 奈良雅之 (p.33-37)
477. 子どものこころを読み解くもうひとつの「窓」そして、「こころ=からだ」 / 内田富男 (p.46-50)
478. 子どもの心の闇を追って：最近の取材ノートから / 斎藤茂男 (p.74-92)
479. 正義感 / 千石保 (p.93-103)

女子教育研究 [22] (1998.06)

480. 公立学校の教員人事は男女平等か(2)：97年データに基づいて / 池木清 (p.1-27)

女性学研究所年報 [8] (1998.03)

481. 第12回「女性史青山なを賞」受賞記念：「女の霊能」を考え直す：生産と祭祀 / 義江明子 (p.4-5)
482. 総合科目「女性」特別講演から：女が働くとき：均等法改正と労基法的女子保護撤廃をめぐる / 中島通子 (p.6-8)

女性学研究所年報 [9] (1999.03)

483. 第13回「女性史青山なを賞」受賞記念：出産の歴史人類学：その可能性 / 鈴木七美 (p.4-5)
484. 総合科目「女性」特別講演から：労働力の女性化と家族のゆくえ / 鎌田とし子 (p.6-9)
485. アジアの経済危機をジェンダーから考える：人間中心の開発への女性の権利と経済的リテラシー / エンパワメントII / 村松安子 (p.10-11)

特集：「青山なを研究奨励金」助成研究から

486. 子育ての比較社会的検討：日英の子ども観と宗教倫理を中心に / 天童睦子 (p.12-13)
487. 女性遺文の収集とその整理(5)：1800年代編 / 迫田明日香[ほか] (p.14-15)

女性学評論 [12] (1998.03)

- 特集：家族
488. 家族背景と児童虐待特性の関連における性差 / 頼藤和寛 (p.1-20)
489. 中年期の父親、母親と青年期の娘：親子の性役割タイプと相互性について / 丸島令子、渡辺厚子、大石美佳 (p.21-44)

490. 14-15世紀トスカナ地方の家族と貧困：都市と農村の葛藤 / 高橋友子 (p.45-73)
491. ウェストファリア・システムと家父長制の相補性について：「男の国際政治」の遅すぎた脱構築? / 土佐弘之 (p.75-104)
492. イーバン・ポーランド：女性詩人という複雑な状況 / モーリス・ハーモン (p.105-125)
493. 「道成寺」の<女>：変容の美学 / 浜下昌宏 (p.127-148)

女性学評論 [13] (1999.03)

特集：女性と犯罪

494. アメリカ文学のなかの三つの夫殺し / 別府恵子 (p.1-16)
495. ペリー艦隊の来航と女性犯罪：ボード事件をめぐる歴史的背景 / 真栄平房昭 (p.17-32)
496. 14 - 16世紀イタリア諸都市における女性と性犯罪：ヴェネツィアとフィレンツェを中心に / 高橋友子 (p.33-59)
497. 戦時における性暴力の廃絶と<声/沈黙>の政治学：国際人権レジームの再ジェンダー化過程との関連で：土佐弘之 (p.61-94)
498. 夫の暴力 / 渡辺和恵 (p.95-101)
499. 『嬌紅記』の女性：「王嬢」描写考 / 市成直子 (p.103-122)
500. 女性たちの仕事とライフストーリー：聞き取り資料の編集と考察 / 小松英雄, 阿古真理 (p.123-152)
501. ジェンダー・ハイブリッド・モンスター：エイリアン・フェミニズム2 / 内田樹 (p.153-177)
502. 女「性」というリアリティ / 上西妙子 (p.179-208)

女性教養 [548] (1998.06)

特集：介護とジェンダー

503. 介護とジェンダー / 春日キスヨ (p.3-6)
504. 活動情報 1：「家族介護者表彰実態調査」から見えてきたこと / 樋口恵子 (p.8-9)
505. 活動情報 2：自分らしく生きるために：「福祉マンションをつくる会」の試み / 駒尺佐紀 (p.10-11)

女性教養 [549] (1998.07)

506. 写真におけるジェンダー問題 / 笠原美智子 (p.3-6)
507. 活動情報 1：「尾崎翠を探して」映画製作を支援して / 渡辺法子 (p.8-9)
508. このひと：松川淳子さん「国際女性建築家会議」実行委員長 (p.13)

女性空間 [15] (1998.03)

特集：女性と暴力

509. 女性に対する暴力とフランス新刑法典 / 上野芳久 (p.6-19)
510. フランスにおける夫婦間暴力への取り組み / 中嶋公子 (p.19-35)
511. 「ヴォローニュ川幼児殺人事件」にみる女性と暴力 / 佐藤浩子 (p.36-42)
512. 女性と暴力 / 平山知子 (p.48-53)

513. ジェンダー、パリティ、差異主義など：ローラン・プフェッフェルコルンさんにきく：ミシェル・ペローさんを囲んで / 榎沢直子 (p.54-70)
514. イタリアにおける女性労働者の現状：「家族」と「労働」 / 小寺京子 (p.91-96)
515. 戦後ドイツのフェミニズム：統一後に見えてきたもの / 寺崎あき子 (p.97-105)

<シンポジウム 1 <フェミナン・フェミニテ・ファッション>>

516. ファッション・フェミニズム・フェミニテ / 日置久子 (p.106-108)
517. ユニフォーム化のなかで、自分自身を追及する男たち、女たち / 西村愛子 (p.109-110)

<シンポジウム 2 <子育ての現場から：何が子どもをそこない、何が子どもを救うのか?>>

518. 母親たちは、今：乳幼児をもつ母親たちは、悩んでいる(ニュー・マザリングシステムの業務を通してみえてきたもの) / 森田千恵 (p.116-121)
519. 教育が子供をダメにする / 田中喜美子 (p.111-115)
520. 地域ぐるみの子育て：男も女も、老いも若きも / 高橋由紀 (p.122-127)

521. EUの女性政策：第四次男女機会均等推進中期行動計画(1996-2000)(抄訳) / 杉藤雅子 (p.128-137)
522. 北欧の女性研究 / 加藤康子, 牧野さえ子訳 (p.138-144)

女性施設ジャーナル [4] (1998.05)

特集：女性施設がになう相談事業とは?

523. なにが、どこが問題か、相談事業 / 桜井陽子 (p.6-27)
524. 女性のメンタル・ヘルス事業のとらえ方：ドーンセンター / 川喜多好恵 (p.28-38)
525. 10年目の到達点と新たな展開：横浜市女性協会 / 景山ゆみ子, 稲田恵子 (p.39-53)
526. 地域性をいかす女性のための相談事業とは：中野区女性会館 / 中村敏子 (p.54-64)
527. 「0から1」を創る試行錯誤の五年間：兵庫県立女性センター / 川畑真理子 (p.65-74)
528. 駆け込みシェルターがなぜ必要とされるのか：女のスペース・おん / 近藤恵子 (p.75-79)
529. 外国人女性の相談のいま：女性の家サーラー / 福島由利子 (p.80-90)
530. 自治体婦人相談の現場から：自治体婦人相談 / 原田恵理子 (p.91-99)
531. 女性の就業をめぐる相談：21世紀職業財団神奈川県事務所 / 幸田満里子 (p.100-109)
532. 「性」=「生」：からだ性と性の相談をめぐる：ウイメンズセンター大阪 / 阿古安子 (p.110-117)
533. 上野千鶴子のズバリインタビュー：相談事業こそ、女性の問題の「現場」である! / 河野貴代美, 上野千鶴子 (p.118-148)
534. 地域の女性施設から、発信!：県や市を越えた地域ネットワークの試み：九州・沖縄編 (p.149-159)

535. 国立婦人教育会館20周年記念国際シンポジウム：二世紀の女性センターとは / 油原ゆう子 (p.168-172)
 536. 座談会 女性施設の100年史PART4：国際婦人年からの出発：公設公営の女性センター / 大野曜 [ほか] (p.175-195)

女性と年少者 [124] (1998.06)

537. 改正男女雇用機会均等法の指針の解説 / 労働省女性局女性政策課・女性労働課 (p.3-19)
 538. 諸外国におけるグラス・シーリング解消のための対策：「グラス・シーリング解消のための国際交流事業」を振り返って / 女性局女性政策課 (p.26-30)
 539. 企業における母性健康管理体制のあり方 / 森晃爾 (p.34-37)
 540. 明治・変革の時代に：近代をその身の内に生きた長崎の女達 / 葛西よう子 (p.40-41)

女性のひろば [232] (1998.06)

541. インタビュー：21世紀へ平和のバトンを：私が女性史を語る理由 / 宝井琴桜 (p.111-113)

女性のひろば [233] (1998.07)

特集：子どもと映像文化

542. テレビの暴力に魅せられた子どもたち：フランスの場合 / 美帆シボ (p.24-29)
 543. テレビと暴力：海外でのとりくみ：NHK放送文化研究所の調査から (p.30-35)
 544. 私の生きてきた道 そして、いま伝えたいこと / 近藤とし子 (p.52-57)
 545. インタビュー：宇宙を研究することは人間を知ること / 加藤万里子 (p.114-117)

女性のひろば [234] (1998.08)

546. 平塚らいてう記念碑建立によせて：女性解放と世界平和めざしひたむきに生きた / 小林登美枝 (p.108-111)

女性ライフサイクル研究 [6] (1996.11)

特集：セルフヘルプ・グループ：もうひとつのエンパワーメント

547. 「たったひとり」から「もう一度ひとり」へ：女性解放運動の中での私の自己解放 / 中野冬美 (p.24-29)
 548. 女性とセルフヘルプ / 平川和子 (p.30-35)
 549. 安全な世界を作るには：性的虐待のサバイバーによる自作グループ作り / 原美奈子 (p.36-41)
 550. 親たちの自分さがし / 河地敬子 (p.42-50)
 551. ケアーズの活動を通してエイズの問題を考える / 太田裕治 (p.51-53)
 552. 私とセルフヘルプ・グループ：自分の疾病体験を通して / 小俣智子 (p.54-58)
 553. もう一人のエスキモー / DADA (p.59-61)
 554. 殺人事件遺族のセルフヘルプ・グループ / 小西聖子, 穴田富美子 (p.62-65)
 555. 福岡SA(セクシャル・アビュース)研究会の誕生と展開：研究会をサポートする経験から / 高松里 (p.66-71)
 556. CAPプロジェクト：子どもの虐待防止と癒しへのサポート / 田上時子 (p.72-79)

557. 震災後の地域でのネットワークづくり：フェニックス・ステーション活動を通して / 火置晏子 (p.80-83)
 558. 「喪失の悲しみ」を語り合う『場』の果たすもの：震災で身内を亡くした人達のサポートグループの試みから / 川畑真理子 (p.84-87)
 559. 臨床家にとって自助グループとは / 奥田由子 (p.88-93)
 560. セルフ・ヘルプ・グループと治療グループ / 阿津川令子 (p.94-97)
 561. アディクション・ACの問題を抱えたママネット / 赤澤まゆみ (p.99-100)
 562. CAP青い空：人と人を結ぶエネルギー / 高柳葉子 (p.101-102)
 563. 「CR+川柳」の試み：安住洋子 (p.103-104)
 564. 夫婦だけの家族を考える会 / 宮村佳子 (p.105-106)
 565. グループCAP：私と自助グループ / 安藤由紀 (p.107-108)
 566. JACA(日本アダルトチルドレン協会) / 熊谷順子 (p.109-110)
 567. 神戸YWCA救援センター / 寺内真子 (p.111-112)
 568. 子育て相談「リヴ」 / 佐藤まどか (p.113-114)
 569. MCG(母と子の関係を考える会) / 熊谷順子 (p.115-116)
 570. あらいず：私にとっての自助グループ (p.117-119)
 571. 人がいる風景：育ちゆく「森」 / 穂積純 (p.120-122)
 572. 日本フェミニストカウンセリング研究連絡会：「摂食障害」自主研究グループ / 北山れいこ (p.123-124)
 573. ポリオ女性の会 / 柴田多恵 (p.125-126)
 574. SIDS家族の会：ご存知ですか？ 乳幼児突然死症候群 SIDS：赤ちゃんを亡くされた方のためのサポートグループ / 東海林郁子 (p.127-129)
 575. ヴィク・ファン・クラブ大阪：本を読む女たちの集まり / 杉谷久美子 (p.130-131)
 576. 「被災地の乳幼児のお母さんの集い」報告 / 三谷真希子 (p.132)
 577. 暴力を受けている女性のためのシェルターを：震災後の電話相談から / 正井礼子 (p.133-134)
 578. いま、一人っ子を問う：ひとりっくらぶを訪ねて / 吉村薫 (p.162-168)

女性ライフサイクル研究 [7] (1997.11)

特集：中年期の女性の課題

579. プレ中年期女性の中年期イメージ / 窪田容子 (p.30-34)
 580. 助産婦から見た女性の中年期 / 木戸口光子 (p.56-64)
 581. 体の不調と夫との関係：中年期を正直に生きる / いのきえみ (p.65-71)
 582. 美の基準と中年期 / 吉村薫 (p.72-81)
 583. 子育てから介護へ / 西順子 (p.83-97)
 584. 高齢者介護をめぐる女性の不安 / 長谷川七重 (p.100-106)
 585. シングルライフを選択した女性たち / 前村よう子 (p.109-120)
 586. 海外駐在員の妻の課題 / 小林まり子 (p.121-128)
 587. 震災後の女性達：インタビューから / 中島暢美 (p.130-140)
 588. 中年期の女性：相談5年間、「悩み」から見えるもの / 川畑真理子 (p.153-156)

589. 中年期の女性を巡る暴力と親密性 / 平川和子 (p.157-162)
 590. 地域でのおとなの女性の女性学学習 / 内藤和美 (p.172-177)

女性労働研究 [34] (1998.07)

591. 女性労働問題における資本制と家父長制 : 山川菊枝のイギリス研究によせて / 今井けい (p.4-9)

特集 : 規制緩和下のパート労働問題

592. 家族単位社会が生み出すパート労働問題 / 伊田広行 (p.10-15)
 593. パートタイム労働法の欠陥 : 国際労働基準に比較して / 今野久子 (p.16-25)
 594. パート労働差別の今日的状況 / 澤田幸子 (p.22-27)
 595. パートタイマーの仕事と賃金 : 三職場の事例から / 塚野光子, 佐伯芳子, 上田育子 (p.28-34)
 596. 持続可能な開発と市民社会の自律性 : 女性労働者の視点から / 有泉はるひ (p.35-40)
 597. WID、GADから「ジェンダー・環境・開発」へ : WED、GEDへの道程 / 松葉口玲子 (p.41-46)
 598. 開発途上国の女性のウェル・ビーイング : アマルティア・センの示唆 / 中野恭子 (p.47-52)
 599. フィリピンの農村開発とジェンダー / 大下富佐江 (p.53-58)
 600. 性別職務分離の形成 : 総合職システムエンジニアの事例から / 大槻奈巳 (p.59-65)
 601. 自治体における非正規労働者のジェンダー問題 : 横浜市の区役所の場合 / 大谷葛代, 本間重子 (p.66-72)
 602. ILO編『労働組合と児童労働』Trade unions and child labour : A guide to action / 高橋明子 (p.73-75)
 603. 日本農業の自立性と環境・女性 / 根岸久子 (p.76-78)
 604. 『男女賃金差別と四五歳による年齢差別』で提訴 / 村上真知子 (p.79-81)

人権教育 [4] (1998.08)

特集 : 市民がもの申す

605. 同性愛者として / やまぐちまさゆき (p.42-50)
 606. 学習活動を創る - 参加型学習の深まりのために : 気づきで終わる、気づきで始まる / 藤原孝章 (p.51-59)
 607. 人権教育ネットサーフィン : 人権教育の視点に立ったインターネットの楽しみ方 4 : ホームページ / 丸山まり子 (p.81-92)
 608. 人権教育データベース・世界/日本 : 未来のためのアジェンダ(つづき) / 熊本理沙, 三宅隆史訳 (p.119-129)

人口問題研究 [53-2] (1997.06)

609. ドイツにおける出生率および家族政策 : 一つから二つ、二つから一つのドイツの体験 / シャルロツテ・ヒョーン (p.1-17)
 610. 世帯形成の生命表分析 / 鈴木透 (p.18-30)
 611. 旧東ドイツの人口問題に関する研究動向 : 女性の就業および人口移動について / 中川聡史 (p.31-42)

612. 主要国女子の年齢別出生率および合計特殊出生率 : 最新資料 (p.84-89)

人口問題研究 [53-3] (1997.09)

613. わが国における近年の人口移動の実態 : 「4回人口移動調査 (1996年実施)」の結果から / 西岡八郎[ほか] (p.1-30)
 614. 少子化と子育て支援政策の支持 : 第2回人口問題意識調査のモデル分析 / 岩間暁子 (p.31-35)
 615. 日本の出生動向 : 1995年 / 小島克久, 山本千鶴子 (p.36-44)
 616. 日本の婚姻・離婚の動向 : 1995年 / 山本千鶴子, 小島克久 (p.45-66)
 617. 都道府県別女子の年齢 (5歳階級) 別出生率および合計特殊出生率 : 1996年 (p.82-87)

青少年問題 [45-5] (1998.05)

618. 低い日本の若者の「思いやり意識」 / 中里至正 (p.22-26)
 619. ふれあいを通じたこころの教育を : 父親・母親の役割 / 新谷和代 (p.34-38)

青少年問題 [45-6] (1998.05)

620. 高卒就職の現状と学校進路指導の問題 / 小杉礼子 (p.10-15)
 621. 「就職協定」廃止、罪深く功なし / 杉浦一義 (p.16-21)
 622. 若者の就職意識から読むフリーター事情 / 斎藤幸江 (p.22-26)
 623. 電話勧誘による「資格講座」商法 : 消費者トラブルの実態 / 伊東麻 (p.27-33)
 624. 新卒者の就職状況と対策 / 労働省職業安定局業務調整課 (p.34-41)

青少年問題 [45-7] (1998.05)

625. 第四八回『社会を明るくする運動』に寄せて : 非行少年の社会復帰と更生保護制度 / 千條武 (p.4-10)
 626. 「シンナー遊び」に誘われるということ / 和田清 (p.16-22)
 627. 青少年の日常生活・心理傾向と薬物認識 : テレビ接触・出入りする場所と飲酒・薬物への関心 / 橋元良明 (p.28-33)
 628. ニュージーランドの青少年の自殺 / 黒川慧 (p.46-49)
 629. 犯罪被害者へ支援の輪を / 麦島文夫 (p.50-51)

性と生の教育 [17] (1998.07)

特集 : 第二の誕生 : 少女と月経

630. 聖と不浄の狭間で : 月経の文化史抄 / 高柳美知子 (p.20-23)
 631. ナプキンなるほどエトセトラ : 賢く選んではつらつ人生 / 小田洋美 (p.45-42)
 632. 初潮のとき、うれしかったですか? : 性教協・中学生への性意識調査レポート / 金子由美子, 鈴木正弘 (p.53-52)
 633. 性の文化・教育 : ほかの国では 16 アメリカ : 魅力的なピアエドゥケーター / 安日泰子 (p.106-107)

世界と人口 [289] (1998.04)

634. ジョイセフがまいた種をJICAが咲かせる：ベトナム
リプロヘルス・プロジェクト / 勝部まゆみ (p.6-11)
635. ネパールの新しい虹 / 高橋英行 (p.14-19)
636. 国際協力の現場から：助産婦の観た女性性器切除：リ
ベリア、エジプトでの体験 / 丹野かほる (p.20-23)
637. 中国人口・家族計画モデルプロジェクトの進展 / 簡野
芳樹 (p.24-29)
638. 過渡期のグアテマラプロジェクト / 本間真理子 (p.30-
32)
639. 世界の国々：国際人口移動 4 / 大友篤 (p.38-43)
640. 海外の文献から：なぜ人口が問題か：すべての個人の
問題として (p.44-51)
641. 人口統計あらかると 11：一九九五年国勢調査：町村
の人口ピラミッド / 川崎茂 (p.52-56)

世界と人口 [290] (1998.05)

642. 母子の健康を促進する国際協力：ベトナムで政府と
NGOが連携 / 西内正彦 (p.12-17)
643. 日米コモン・アジェンダ・オープン・フォーラム：二
十一世紀に向け一層の協力を / 北谷勝秀 (p.18-22)
644. セミナーレポート / ストラスプール：NGOの法的地位
に関する国際セミナー / 池上清子 (p.28-34)
645. ワールド・トピック：マーガレット・サンガー米週刊
誌「タイム」の“今世紀の100人”の1人に (p.38)

世界と人口 [291] (1998.06)

646. カイロ会議と21世紀の人口問題：崩壊しつつあるバラ
ンス回復の処方箋 / 黒田俊夫 (p.6-13)
647. 「少子化」時代、女性意識に変化が / 佐藤正伸 (p.22-
26)
648. ネパール山村に夢のセンターが建設された！ / 飯島愛
子 (p.28-31)
649. 避妊鎖国日本のリプロダクティブ・ヘルス・ライツを
考える：国際社会の一員として / 早乙女智子 (p.34-38)
650. 人口統計あらかると 12：一九九五年国勢調査：我が
国の職業構造の変化 / 西文彦 (p.52-55)

世界の労働 [48-5] (1998.05)

651. 海外婦人労働ニュース 132：ICFTU女性委員会の概
要 / 熊崎清子 (p.41-45)
652. CI・JAC：初の国際女性シンポジウム：グローバル化
と融合に対する女性の挑戦 / 藤井紀代子 (p.46-49)

世界の労働 [48-6] (1998.06)

653. ILO：児童労働に関するアジア女性ジャーナリストセ
ミナーに参加して：働く子供たちに未来を / 石野伸子
(p.30-33)
654. 海外女性労働ニュース 133：パキスタンの女性労働運
動の近況から：国際労働財団現地プロジェクト事業に
参加して / 多田とよ子 (p.42-46)

総合女性史研究 [15] (1998.03)

655. 女院の成立：その要因と地位をめぐって / 高松百香
(p.1-14)
656. 近代日本の産児調節と国家政策 / 石崎昇子 (p.15-32)
657. 戦争体験と女性宗教者 / 中村恭子 (p.33-48)

658. 百姓女房ちかの敵討 / 辻まゆみ (p.49-56)

千葉大学経済研究 [12-4] (1998.03)

659. 墓と百合と薔薇 / 山科高康 (p.511-538)

賃金と社会保障 [1223] (1998.04.10)

特集：黄昏の能力主義人事制度

660. 職能資格制度の元祖 楠田丘氏の敗北宣言 / 正司博一
(p.4-9)
661. 銀行の非情の沙汰を告発する！：垂直的賃金ダウン：
「給料が半分になりました」：銀行の先（専）任行員
制度なるもの / 甲賀邦夫 (p.10-18)

662. 改正均等法等の施行に関する指針 / 労働省 (p.44-55)

663. 改正均等法等の施行に伴う関係省令の整備に関する省
令要綱 / 労働省 (p.56-58)

664. 短時間労働対策の在り方について：大蔵・厚生・労
働・自治大臣への建議 / 女性少年問題審議会 (p.59-
65)

賃金と社会保障 [1224] (1998.04.25)

特集：「賃金制度の転換」と賃金の考え方

665. 問答・「賃金制度の転換」なるものと賃金の考え方
(上) / 木下武男 (p.4-19)

666. 一九九八年春 どう考えるべきか家計を圧迫する高学
費 / 後藤實 (p.32-40)

667. 資料・教育費負担の現状：文部省・私大教連の調査か
ら：私立大学新入生の費用を見る：東京私大教連「私
立大学新入生の家計負担調査」(一九九七年度)から
(p.41-52)

668. 大学以前の教育費はどうなっているか：文部省「子
どもの学習費調査(平成八年度)」から (p.53-60)

賃金と社会保障 [1226] (1998.05.25)

669. 問答・「賃金制度の転換」なるものと賃金の考え方
(中)：「人事制度改革攻撃」に負けない開放的で明
解な賃金論を持つために / 木下武男 (p.14-28)

670. 『日本の経営システムの再考』：経済企画庁・企業行
動に関するアンケート調査 / 経済企画庁調査局 (p.29-
47)

賃金と社会保障 [1227] (1998.06.10)

671. 改正男女雇用機会均等法はどこまで事業主を縛れる
か：労働省新指針の内容と問題点 / 中野麻美 (p.33-40)

672. 介護保険と社会福祉 1：介護保険から社会福祉を考え
る：論点整理と問題提起 / 伊藤周平 (p.41-48)

673. どうつくる医療と福祉のいい関係：保健・医療・福祉
の連携をめぐって・第3回(完) / 筋昭三、横山寿一
(p.49-59)

674. ホームヘルパーという仕事・上：国民生活センター
「ホームヘルプ活動実態調査」から (p.60-82)

賃金と社会保障 [1228] (1998.06.25)

特集：「年金改革・有識者調査」をどう読むか

675. 厚生省による「年金改革に関する有識者調査」(p.16-39)

676. 国際高齢者年と日本の課題 その1：一九九九年・国際

高齢者年の意義と内容(一) / 井上英夫 (p.54-60)

賃金と社会保障 [1229] (1998.07.10)

特集：賃金論の課題

677. 米国三菱セクハラ訴訟の前面決着：連邦雇用機会均等委員会と米国三菱の和解について / 柏木宏 (p.4-7)

678. 問答・「賃金制度の転換」なるものと賃金の考え方(下)-(1)：“人事制度改革攻撃”に負けない開放的で明解な賃金論を持つために / 木下武男 (p.8-25)

679. 介護保険と社会福祉 2：介護保険と要介護認定：新たな選別システムとしての要介護認定 / 伊藤周平 (p.47-58)

680. ホームヘルパーという仕事・下：国民生活センター「ホームヘルプ活動実態調査」から (p.59-73)

統計 [49-7] (1998.07)

特集：平成10年住宅・土地統計調査

681. 親子同居の新しいかたちと住まい / 熊野勲 (p.13-18)

682. 高齢社会と住宅 / 園田真理子 (p.19-24)

683. 雇用統計に求められるもの[6-5] / 樋口美雄 (p.72-75)

統計情報 [47-6] (1998.07)

684. いじめ・登校拒否・校内暴力問題に関するアンケート調査の結果概要 / 堀田聡 (p.14-19)

685. 平成9年度通信利用動向調査の結果から / 郵政大臣官房財務部企画課統計企画室 (p.20-27)

内外教育 [4915] (1998.05.01)

686. 中学校三年では4割超が長期型：教師の介入で65%が改善：いじめの生成メカニズム・対応に関する総合調査(上) / 伊豆倉哲 (p.2-3)

687. パソコン経験者半数以上に：テレビの比重依然大きく：NHK放送文化研究所の「小学生の生活とテレビ調査」 / 徳武靖 (p.8-10)

内外教育 [4916] (1998.05.12)

688. 「傍観」の中学生半数超える：教師や親の啓発・指導状況と相関：総務庁の「いじめ・登校拒否等に関するアンケート調査」 / 徳武靖 (p.4-7)

内外教育 [4917] (1998.05.15)

689. 行政主導型から市民主導型へ：生涯学習として根づく市民大学：日本余暇文化振興会が成人教育等調査(上) / 兼倉卓 (p.2-3)

690. 創造性豊かで行動的な人材を期待：経団連が企業の採用・人事などで事例集 / 須川清 (p.6-7)

691. 教師による発見は低率：知った場合の即座の指導はほぼ浸透：いじめの生成メカニズム・対応に関する総合調査(中) / 伊豆倉哲 (p.8-9)

内外教育 [4918] (1998.05.19)

692. 保護者の加害事実認知は7.3%：友達助ける子供は親子関係良好：いじめの生成メカニズム・対応に関する総合調査(下) / 伊豆倉哲 (p.4-5)

693. 「学校の授業分りにくい」が理由：中3生の45%が

「疲れる」：日Pの「学習塾に関するアンケート調査」 / 伊豆倉哲 (p.6-8)

内外教育 [4920] (1998.05.26)

694. 「日本は学歴社会」と9割が認識：ベネッセが高校生の社会意識調査 / 伊豆倉哲 (p.6-7)

日米女性ジャーナル [25] (1999.02)

695. 教室授業の教授法と新しい女性学 / Frances Maher ; 和智綾子訳 (p.3-24)

696. 小グループ教育：保守的な時代におけるコンシャスネス・レイジング / Estelle B. Freedman ; 武田貴子訳 (p.25-41)

697. 必修知識：ジェンダー学のコア・カリキュラムへの統合 / Susan Christopher ; 飯田深雪訳 (p.42-62)

698. 日系ブラジル人女性の日本逆流出稼ぎ現象：世帯ストラテジーと「故国」追求 / 山中啓子 (p.63-88)

699. トルコ社会における女性の地位 / Reside Kadadayi , Huseyin Can Erkin (p.89-98)

700. 身体の境界：日本における梅毒と娼女と国家、1860-1890 / Susan Burns ; 土田宏訳 (p.99-120)

日本家政学会誌 [50-1] (1999.01)

701. 住まい手の安全意識の現状と住宅に対する要求水準に関する研究 / 久木章江, 石川孝重 (p.51-61)

702. 与謝野晶子の服飾観 / 大久保春乃 (p.79-86)

日本家政学会誌 [50-3] (1999.03)

703. バングラディッシュ主流文化地域における女性の所得発生・家庭経営役割：非政府組織プログラムの有無をふまえて / Rebeqa Sulataana Khan, 長嶋俊介, Rezaul K. Talukder (p.1-12)

704. 生活時間からみる女性農業者とその夫とのパートナーシップ：1997～1998年、日本の農業者夫妻の生活時間調査から / 天野寛子, 粕谷美砂子 (p.13-20)

日本労働研究雑誌 [464] (1999.03)

特集：改正労働基準法

705. 働き方の多様化と法的規制の再編成：1998年労働基準法改正への視点 / 安枝英紳 (p.48-55)

706. 改正労働基準法：規制緩和の帰結と体系的整合性 / 盛誠吾 (p.56-68)

特集：先進諸国の労働法の研究動向

707. 世紀末の雇用関係とその規律：1990年以降のアメリカ合衆国における動向についての考察 / Thomas Carl Kohler ; 早川智津子訳 (p.70-81)

708. 90年代におけるフランス労働法の動向 / Alain Supiot (p.82-93)

709. ドイツにおける労使関係と法の新展開 / Rolf Wank ; 橋本陽子訳 (p.94-107)

710. 20世紀末期のオランダ労働法：雇用関係における「フレキシキュリティ」化の傾向 / Jan Heinsius ; 川田琢之訳 (p.108-119)

711. オーストラリアにおける労働法研究の動向 / Anthony Forsyth, Richard Mitchell ; 長峰登記夫訳 (p.120-131)

712. 大企業ホワイトカラーの最終キャリア：A社における最終選抜 / 西山昭彦 (p.147-159)

判例時報 [1660](1999.02.21)

713. 生後7カ月のえい児を殺害した母親に対して、犯行当時抑うつ状態にあったとして心神耗弱を認めて、執行猶予付きの懲役刑を言い渡した事例 (p.159-162)

判例時報 [1663](1999.03.21)

714. 児童福祉法三四条一項六号にいう「児童に淫行をさせる行為」に当たるとされた事例 (p.149-150)

判例時報 [1666](1999.04.21)

715. 海外刑法だより(167)：イタリアの性犯罪に関する二法律 / 森下忠 (p.30-31)

婦人新報 [1182](1999.03)

特集：婦人保護の現状とこれから

716. 婦人保護事業の現状とこれから：社会福祉事業法改正をめぐって / 林千代 (p.2-5)

717. 社会福祉事業法改正と新宿区での婦人相談の現状：婦人相談員としての立場から / 川村幸子 (p.6-8)

718. 慈愛寮から見える「婦人保護事業」の課題 / 河田貞子 (p.9-11)

婦人通信 [484](1999.03)

719. 国際女性デーの生命力：21世紀の女性運動を展望して / 伊藤セツ (p.16-19)

720. 新しい住まいの選択肢：グループハウスさくらの住民 / 小川志津子 (p.20-22)

721. 体験レポート：デンマークのゴミ政策(5)：食べ方・生き方・暮し方 / 藤永のぶよ (p.28-29)

婦人通信 [486](1999.05)

722. 世界に発信：日本の女性差別：国際女性の権利監視協会が発言：住友の男女賃金格差：西村かつみ(p.14-15)

723. 世界に発信：日本の女性差別：国連規約人権委員会傍聴 / 島岡弘子 (p.16-18)

婦人通信 [488](1999.07)

724. フィンランド女性事情 / グスタフソン・美砂子 (p.29-31)

婦人通信 [489](1999.08)

725. 二〇世紀を生きた女たち(二)：九布白落實：廃娼をめざして(1882 1972年) / 高橋喜久江 (p.26-29)

婦人通信 [490](1999.09)

726. 二〇世紀を生きた女たち(三)：勝目テル：未来にかけた日々(1894 1984年) / 守屋武子 (p.24-27)

婦人之友 [93-4](1999.04)

特集：今日の女性の課題

727. 「派遣」という働き方：その現状と問題点 (p.26-31)

728. 企業にとって都合のいい派遣労働者：関根秀一郎氏に聞く (p.32-35)

729. いきいきと働くために：男女雇用機会均等法の改正 / 中島通子 (p.36-39)

<生活にリズムをつけて>

730. 子どもがいるからできる仕事 上田淳子さん (p.47-49)

731. いまは子育てに重心を置いて 家亀加奈子さん (p.50-51)

732. 花の市場で働く 相壁正広さん・朝子さん夫妻 (p.52-54)

733. <記憶の扉をひらく>個人美術館の旅 4：時を超える旅人：天竜市秋野不矩美術館 / 中村輝子 (p.80-86)

放送研究と調査 [49-3](1999.03)

734. テレビ・ラジオ視聴の現況：平成10年11月全国個人視聴率調査から / 居駒千穂、齋藤善彦、遠藤尚子 (p.30-41)

法律のひろば [52-3](1999.03)

特集：派遣労働の自由化をめぐる最近の問題

735. 労働者派遣法改正法案の意義と検討課題 / 鎌田耕一 (p.4-10)

736. 労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律等の一部を改正する法律案について / 労働省職業安定局民間需給調整事業室 (p.11-13)

737. 派遣対象業務のネガティブリスト化をめぐる諸問題 / 中野麻美 (p.14-20)

738. 派遣法改正と派遣先・派遣元企業の雇用責任 / 島田陽一 (p.21-26)

739. 派遣労働者の個人情報保護をめぐる課題 / 竹地潔 (p.27-33)

740. 派遣労働者の労働・社会保険をめぐる課題 / 水島郁子 (p.34-39)

741. 英米法研究(第12回) セクシュアル・ハラスメントと使用者の責任 / 田中豊 (p.56-62)

立法と調査 [210](1999.03)

特集：平成11年度予算・税制

742. 社会保障：景気に配慮した予算と不透明な社会保障構造改革の行方 / 天野英二郎 (p.32-35)

りぶる [204](1999.03)

743. 野田聖子郵政大臣を中傷した不当な記事に抗議：労政法曹団女性弁護士がすみやかに解決! (p.54)

労政時報 [3388](1999.03.15)

744. 自己申告制度：多様化する最新事例：成果主義の強化で、能力・キャリア開発を重視へ (p.2-36)

労政時報 [3389](1999.03.12)

745. 98年度新年間賞金と賞与の実態：組合員平均513万円で横ばい、賞与は3.3%の減少 (p.2-30)

労政時報 [3390](1999.03.19)

746. 深夜業の就業環境・健康管理等の現状：労働省研究会による深夜業勤務に関する中間報告と提言 (p.32-45)

747. 97年度労働者派遣事業の運営状況：派遣労働者数は86万人、はじめて80万人を超える (p.46-48)

748. 98年度モデル賃金 主要8都市(各商工会議所):大学卒男子(事務・販売)のモデル賃金は35歳で32万5000~35万5000円(p.49-53)

労政時報 [3391](1999.03.26)

749. 98年度ビルメンテナンス業実態調査:一般清掃(女性)の中途採用者の募集時賃金は平均14万2257円(p.44-47)

労働経済旬報 [1627](1999.03.05)

特集:単産調査による労働者家計・生活

750. 生活揺さぶられる準団塊の世代:98年生活実態調査、家計調査の結果から/坂幸夫(p.4-8)

751. 電機連合:電機労働者の家計(p.9-36)

752. 日建協:建設業職員労働者の家計(p.19-36)

753. 情報労連:NTT・情報労連労働者の家計(p.37-52)

754. 公務員連絡会:公務員労働者の家計(p.58-68)

労働時報 [52-3](1999.03)

特集:働き方の新たなルール作りを目指して

755. 新しいワーキング・スタイルに対応する労働法制:労基法改正は出発点/花見忠(p.10-11)

756. ホワイトカラーの生産性と働き方の新たなルールづくり/清家篤(p.12-13)

757. 働き方の新たなルールづくりをめざして/福岡道生(p.14-15)

758. 改正労働基準法等の施行を前にして/野澤雄三(p.16-17)

759. 改正労働基準法の概要/労働基準局監督課(p.18-25)

760. 平成10年版 働く女性の実情/女性局女性労働課(p.41-48)

わいふ [277](1999.05)

761. 不妊治療・私の場合:不妊を振り返って:奇跡をわが手に:最後のおくりもの/中村美智代,鈴木美奈(p.10-21)

AGING [16-3](1998.12)

特集:介護保険実施への動静

762. 介護保険制度は何を変えようか/唐澤剛(p.2-7)

763. 地域社会の動向:介護保険:自治体に求めること/池田省三(p.8-14)

764. 地域社会の動向:介護保険と高齢者施設の運営/寺門運雄(p.14-19)

765. 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果の概要:高齢社会対策室より(p.32-36)

766. 「高齢者NGO連絡協議会」が設立(p.39)

767. スウェーデン少子化事情:短期的視野、長期的視野からの報告/多田葉子(p.56-59)

AGING [16-4](1999.03)

768. 国の施策:国際高齢者年と日本の取り組み/浜田淳(p.16-21)

<生涯学習実践者からの寄稿論文>

769. 「中高年と就労」/大山孝(p.34-37)

EDA [347](1999.03)

770. シリーズ・父親2:父性の子育て:林道義先生へのインタビュー(p.14-19)

771. 子育てって素晴らしい!!!/武田京子(p.36-40)

772. 母親の子育て意識実態調査報告 第3弾!:母親の子育て意識への影響要因(p.43-42)

ESP [323](1999.03)

773. 国民生活研究会中間とりまとめのポイント/経済企画庁総合計画局経済構造調整推進室(p.61-63)

fct GAZETTE [18-67](1999.03)

774. FCT/ANWIC国際セミナー・ワークショップ:ジェンダーとメディア・リテラシー/西村寿子(p.1-7)

775. 台湾・韓国・日本におけるワークショップ報告:テレビCMを手がかりに/増田幸子(p.8-11)

776. FCT20周年記念国際フォーラム報告『メディアと市民・日本とカナダの対話』VS郵政省「青少年と放送に関する調査研究会」報告/中野恵美子(p.12-13)

777. CMの業種・登場人物のジェンダーは番組とどうかかわっているか:第3回テモプロジェクト「CMを読み解く」報告その1/新開清子(p.14-15)

Int'lcowk [885](1998.10)

778. 視野が広がる異業種交流会:個人で働く女性を支援するネットワーク「WANA」:夢に正直な女性たちよ集まれ/中川万里,藤木美奈子(p.30-31)

Int'lcowk [886](1999.01)

779. 視野が広がる異業種交流会:インターネットから始まったSOHOネットワーク:企業の枠組みにとらわれない自由人たち/中川万里,塩見政春(p.28-29)

Int'lcowk [888](1999.03)

780. 市場経済化の中で模索する草原の民たち:第3回東アジア女性会議に参加して/玄場洵子(p.4-5)

JILリサーチ [35](1998.10)

特集:女性の職業・キャリア意識と就業行動

781. 女性の就業意識と就業選択:結婚・出産・育児に直面して/富田安信(p.4-9)

782. 女性正社員の就業意識/野間敦子(p.10-15)

783. 高学歴専業主婦は何をしているのか?/脇坂明(p.16-19)

784. 均等法の改正と男女共働社会の実現に向けて/奥山明良(p.20-25)

テーマ展示図書案内

婦人教育情報センターでは、「エンパワーメントは21世紀への合言葉 - 新たなる共生をめざして - 」を平成11年度の総合テーマとして、会館が所蔵している資料の紹介と、女性問題に対する課題解決に資するためにテーマ展示を実施しています。今回は1999年10月～2000年3月の資料リストをご紹介します。

10～12月

● テーマ

「女性に対する暴力」

● ねらい

最近様々な調査等が行われ明らかになってきた夫や恋人からの女性への暴力（ドメスティック・バイオレンス＝DV）を中心に、「女性に対する暴力」をテーマとし、女性の人権を確立し、問題解決を図る視点から、女性に対する暴力について考えました。

2000年1～3月

● テーマ

「男女共同参画社会の実現へ 2000年女性会議にむけて」

● ねらい

女性と男性が社会のあらゆる分野において共同参画することは、人権の確立という点からも優先されるべき課題です。女性2000年会議に向けて、女性はどういう力をつけてきたのか、男女共同参画社会の実現に向けての現状及び具体的な事例を探る資料を取り上げました。

なお、平成12年度は「男女共同参画社会の形成をめざした「学び」と「活動」」を総合テーマに年4回の展示を行います。

4～6月 ● テーマ「子どもへの虐待のない社会に」

7～9月 ● テーマ「21世紀に向けての男女平等・開発・平和」を予定しています。

凡 例

No. 書名：副書名 / 編著者

出版社（出版年）請求記号

「女性に対する暴力」
(平成11年10月～12月)

1. あなたは女性や子どもへの暴力がたくさんあることを知っていますか / 「あなたは女性や子供への暴力がたくさんあることを知っていますか」受講生編
東京都調布市生活文化部女性課 (1998) 367.2/36
2. 「夫からの暴力110番」報告：1995年11月23日、24日実施 / 性暴力にNO!なごや女たちの会
性暴力にNO!なごや女たちの会 (1996) 367.2/O89
3. 「夫(恋人)からの暴力」についての調査研究報告書 / 「夫(恋人)からの暴力」調査研究会
「夫(恋人)からの暴力」調査研究会 (1995) 367.2/O89
4. 夫・恋人からの暴力の撤廃：国際的背景と国際人権法上の義務 / 米田眞澄[著]
女性のためのアジア平和国民基金 (1999) 367.2/O89
5. 夫・恋人の暴力から自由になるために / ジニー・ニッキャーシー、スー・ディヴィッドソン著；むらさき工房訳、バンドラ (1995) 367.2/O89
6. 夫やパートナーからの暴力対応マニュアル：<ドメスティックバイオレンス>から身を守るために / 女性のためのアジア平和国民基金[編]
女性のためのアジア平和国民基金 ([199-]) 367.3/O89
7. 女たちの生と死 / アンドレア・ドウォーキン著；寺沢みづほ訳
青土社 (1998) 367.2/O66
8. 女を殴る男たち：DV (ドメスティック・バイオレンス) は犯罪である / 梶山寿子[著]
文芸春秋 (1999) 367.3/O66
9. 家族でも見過ごせないこと：家庭生活における人権と暴力に関する実態調査 / ふくおかCAP
福岡市女性センターアミカス (1999) 367.3/91-Fu
10. 家族・暴力・虐待の構図 / 日本弁護士連合会子どもの権利委員会、日本弁護士連合会両性の平等に関する委員会編
読売新聞社 (1998) 367.3/Ka99
11. シェルター：女が暴力から逃れるために / 波田あい、平川和子編
青木書店 (1998) 367.2/Sh14
12. 自分らしく生きるためにIII：女性に対する暴力 / 東京ウィメンズプラザ相談室
東京女性財団 (1999) 367.2/36
13. 女性に対する暴力：その原因と結果：報告書 / ラディカ・クマラスワミ著
女性のためのアジア平和国民基金 (1998) 367.2/J76
14. 「女性に対する暴力」調査報告書 / 東京都生活文化局女性青少年部女性計画課
東京都生活文化局女性青少年部女性計画課 (1998) 367.2/36
15. 「女性に対する暴力」調査報告書 / 東京都府中市生活文化部女性青少年課女性センター
東京都府中市生活文化部女性青少年課女性センター (1998) 367.2/36
16. 女性に対する暴力：フェミニズムからの告発 / 森田ゆり、福原啓子、渡辺和子著
ウィメンズブックストア松香堂書店 (1998) 367.2/J76
17. 女性への暴力：アメリカの文化人類学者がみた日本の家庭内暴力と人身売買 / シャーマン・L・パビオー著；大島静子[ほか]訳
明石書店 (1996) 367.21/J76
18. 「女性への暴力」に関する調査研究報告書：ドメスティック・バイオレンスとかながわ女性センターの一時保護 / 神奈川県立かながわ女性センター
神奈川県立かながわ女性センター (1999) 367.2/37
19. 女性への暴力防止：援助のあり方をつなぐものとして～政策・医療・福祉・警察 / ウィメンズセンター大阪
ウィメンズセンター大阪 (1998)
20. 性・暴力・ネーション (フェミニズムの主張 4) / 江原由美子編
勁草書房 (1998) 367.2/F18
21. 世界の女性と暴力 / ミランダ・デービス編；鈴木研一訳、明石書店 (1998) 367.2/Se22
22. 誰にも言えない夫の暴力：ドメスティック・バイオレンス / 鈴木隆文、石川結貴、東京弁護士会、両性の平等に関する委員会著
本の時遊社 (1999) 367.3/D41
23. DV解決支援マニュアル：法律編 / 長谷川京子、川畑真理子執筆責任
日本DV防止・情報センター (1998) 367.3/D79
24. 当事者の立場にたったサポートとは：女性に対する暴力・性的虐待 3日間の電話窓口開設 / 女性のためのアジア平和国民基金
女性のためのアジア平和国民基金 (1999) 367.2/To27
25. 当事者の立場にたったサポートとは：女性に対する暴力・性的虐待 カナダでの実践と日本の現状 女性に対する暴力・性的虐待に関するメンタルケア・セミナー / 女性のためのアジア平和国民基金
女性のためのアジア平和国民基金 (1999) 367.2/To27
26. ドメスティック・バイオレンス(新装版) / 「夫(恋人)からの暴力」調査研究会著
有斐閣 (1998) 367.2/D85

27. ドメスティックバイオレンス：トレーニングマニュアル / Asian Americans for Community Involvement[編]；礼拝会ミカエラ寮和文仮訳
礼拝会ミカエラ寮（[199-]）367.3/D85
28. ドメスティック・バイオレンス：在米日本人女性のたまたかの記録 / 日本DV防止・情報センター編
かもがわ出版（1999）367.2/D85
29. ドメスティック・バイオレンス：実態把握のためのアメリカにおける調査研究の概要 / 吉浜美恵子
神奈川県立かながわ女性センター（1995）367.2/37
30. ドメスティック・バイオレンスへの視点：夫・恋人からの暴力根絶のために / 日本DV防止・情報センター編
朱鷺書房（1999）367.3/D85
31. なぐられる女たち：世界女性人権白書 / 米国国務省編著；有澤知子，小寺初世子，鈴木清美，米田眞澄訳
東信堂（1999）367.2/N27
32. 殴る夫逃げられない妻 / 吉廣紀代子著
青木書店（1997）367.4/N27
33. バタードウーマン：虐待される妻たち / レノア・E・ウォーカー著；穂積由利子訳
金剛出版（1997）367.2/B27
34. バタードワイフと生き残り(ヘルスワーク協会連続講演会記録. いじめ・いじめられ関係) / 斎藤学[述]
ヘルスワーク協会（1998）367.3/B27
35. 被暴力女性問題解決ワークショップ：シェルター等、被暴力女性支援機関の抱える問題と、関連社会資源および支援制度の整備：報告書 / 横浜市女性協会/フォーラムよこはま
横浜市女性協会/フォーラムよこはま（1997）367.2/37-Yo
36. 法律ガイド：女性に対する家庭内暴力：ソロプチミスト17カ国についての報告 / Soroptimist International of the Americas
Soroptimist International of the Americas（c1998）367.3/H89
37. 暴力から逃れるための15章 / ギャヴィン・ディー=ベッカー；武者圭子訳
新潮社（1999）368.6/B65
38. 暴力被害女性の相談：女性センター相談員向けレクチャーより（ヘルスワーク協会西尾和美講演会記録:3） / 西尾和美[述]
ヘルスワーク協会（1997）146.8/B67
39. 暴力や性被害に悩む女性のための公共機関相談窓口ガイド / 女性のためのアジア平和国民基金
女性のためのアジア平和国民基金（1999）367.2/B67
40. 民間女性シェルター調査報告書I,II / 横浜市女性協会
横浜市女性協会（1995）367.2/37-Yo
41. ラディカ・クマラスワミ(国連女性に対する暴力とその原因および結果に関する特別報告書)によるドメスティック・バイオレンス特別報告書 / 北京JAC仮訳
北京JAC（1996）367.2/R11
42. Working With Women：性暴力被害者支援のためのガイドブック / フェミニストセラピー研究会編
フェミックス（1999）368.6/W33
43. Domestic violence (The NCRFW-WFS primer series) / produced under the NCRFW Institutional Strengthening Project
NCRFW（[199-]）367.2/D85
44. Domestic violence：the criminal justice response / Eve S. Buzawa, Carl G. Buzawa
Sage Publications（c1996）367.3/D85
45. Domestic violence for beginners (Writers and Readers documentary comic book) / by Alisa Del Tufo；illustrated by Barbara Henry
Writers and Readers（c1995）367.3/D85
46. Family violence across the lifespan：an introduction / Ola W. Barnett, Cindy L. Miller-Perrin, Robin D. Perrin
Sage Publications（c1997）367.3/F13
47. Family violence from a communication perspective / edited by Dudley D. Cahn and Sally A. Lloyd
Sage Publications（c1996）367.3/F13
48. Understanding violence against women / Nancy A. Crowell and Ann W. Burgess, editors
National Academy Press（1996）368.6/U75
49. Violence against women in South Africa：the state response to domestic violence and rape / Human Rights Watch/Africa, Human Rights Watch Women's Rights Project
Human Rights Watch（c1995）367.245/V79
50. What trouble I have seen：a history of violence against wives / David Peterson del Mar
Harvard University Press（1996）367.3/W65
51. Wife rape：understanding the response of survivors and service providers / Raquel Kennedy Bergen
Sage Publications（c1996）367.3/W72
52. Women at risk：domestic violence and women's health / Evan Stark, Anne Flitcraft
Sage Publications（c1996）367.3/W85
53. Women in a violent world：feminist analyses and resistance across 'Europe' / edited by Chris Corrin
Edinburgh University Press（c1996）367.3/W85

「男女共同参画社会の実現へ -2000年女性会議に向けて-」
(平成12年1月～3月)

1. エンパワーメントの女性学 / 村松安子, 村松泰子編
有斐閣 (1995) 367.2/O66
2. 女と男の21世紀: 北京から日本へ / 小宮山洋子著
大月書店 (1996) 367.2/O66
3. 企業経営における女性の能力活用と経営戦略の変化の
可能性: 労働問題リサーチセンター助成調査報告 / 21
世紀男女共同参画労働者像共同研究グループ
21世紀男女共同参画労働者像共同研究グループ (1998)
366/Ki16
4. '99女のゼネスト: 第3回「女のゼネスト」記録・資料
集 / 99「女のゼネスト」実行委員会編
'99「女のゼネスト」実行委員会 (1999) 367.2/O66
5. 国際連合と女性の地位向上 1945-1996 / 国際女性の地
位協会, 国際女性の地位協会 ([1998]) 367.1/Ko51
6. ここが知りたい!そこが聞きたい!男女共同参画社会
基本法 / 船橋邦子
ウイメンズブックストア松香堂 (1999) 367.1/D37
7. ジェンダー・女性学セミナー: -青年男女の共同参画を
めざすために-報告書 / ジェンダー・女性学セミナー事
務局編
愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所 (1997)
367.2/J36
8. ジェンダーで社会政策をひらく: 「男女共同参画」時
代の社会政策 / 佛教大学総合研究所編
ミネルヴァ書房 (1999) 364/J36
9. 自治体の女性施策を調べてみました / 全国フェミニス
ト議員連盟
全国フェミニスト議員連盟 (1998) 367.2/J47
10. 女性がつくる21世紀: 私たちの北京「行動綱領」 / 清
水澄子, 北沢洋子共著
女性政策研究所 (1996) 367.1/J76
11. 女性国会報告書: 女性の視点から見た21世紀の日本:
男女共同参画社会を目指して: 参議院50周年記念 / 参
議院事務局編
参友会 (1998) 367.2/O66
12. 女性のエンパワーメント: 男女共同参画社会の確立を
めざして / 大学婦人協会[編]
大学婦人協会 (1999) 367.2/J76
13. 女性の権利: ハンドブック女性差別撤廃条約 / 国際女
性の地位協会編
岩波書店 (1999) 367.2/J76
14. 女性の社会参画する力をつける学習: 参加から参画
へ / 女性の学習情報をつなぐ会編
女性の学習情報をつなぐ会 (1996) 367.2/J76
15. 政党の女性政策アンケート調査報告 / 梶本玲子アンケ
ート担当, 中嶋里美G-Hコーカス担当
北京JAC事務局 (1998) 315/Se19
16. 1999-2000連合女性活動ハンドブック: 労働組合、職
場、家庭、社会における男女平等参画を進めよう! / 連
合総合女性局編
日本労働組合総連合会(連合) (1999) 366.6/R29
17. 大学生の男女共同参画社会に関する意識調査報告書
「男女共同参画社会づくりと学校教育」実行委員会
(1997) 367.2/D16
18. 第4回世界女性会議及び関連事業等報告書
総理府男女共同参画室 (1996) 367.1/D28
19. 男女共同参画社会基本法について: 男女共同参画社会
を形成するための基礎的条件づくり: 答申 / 男女共同
参画審議会
男女共同参画審議会 (1998) 367.1/D37
20. 男女共同参画社会基本法(仮称)の論点整理: 男女共同
参画社会を形成するための基礎的条件づくり / 男女共同
参画審議会基本問題部会
男女共同参画審議会基本問題部会 (1998) 367.1/D37
21. 男女共同参画推進体制の整備について / 内閣総理大臣
官房男女共同参画室
内閣総理大臣官房男女共同参画室 (1994) 367.1/D37
22. 男女共同参画社会づくりと学校教育: 望ましいパート
ナーシップの形成をめざして
男女共同参画社会づくりと学校教育実行委員会 (1997)
367.2/D37
23. 男女共同参画社会に関する有識者アンケート調査 / 総
理府内閣総理大臣官房広報室[編]
総理府内閣総理大臣官房広報室 (1998) 367.1/D37
24. 男女共同参画社会に向けた学習ガイド: 社会教育指導
者にジェンダーの視点を / 日本女子社会教育会編
日本女子社会教育会 (1999) 379/D37
25. 男女共同参画審議会部会における論点整理
[男女共同参画審議会] (1995) 367.1/D37
26. 「男女共同参画審議会部会における論点整理」に対す
る意見・要望 / 内閣総理大臣官房男女共同参画室
内閣総理大臣官房男女共同参画室 (1996) 367.1/D37
27. 男女共同参画社会に関する世論調査(平成9年9月調
査) / 内閣総理大臣官房広報室
内閣総理大臣官房広報室 (1998) 367.1/D37

28. 男女共同参画に関する諸外国の基本法制等に関する調査研究：公務部門
財政経済協会（1998）317/D37
29. 男女共同参画2000年プラン：男女共同参画社会の形成の促進に関する平成12年(西暦2000年)度までの国内行動計画
男女共同参画推進本部（1996）367.1/D37
30. 男女共同参画の視点に立った家庭教育推進方策に関する調査研究アンケート調査報告書 / 国立婦人教育会館
国立婦人教育会館（1999）379.9/D37
31. 男女共同参画白書（平成11年度版） / 総理府編
大蔵省印刷局（1998）367.1/D37
32. 男女共同参画ビジョン：21世紀の新たな価値の創造
男女共同参画審議会（1996）367.1/D37
33. 東京都女性問題協議会報告書：男女平等参画の推進に関する条例の基本的考え方について / 東京都生活文化局女性青少年部女性計画課編
東京都生活文化局（1999）367.1/36
34. 都道府県及び指定都市における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況（平成11年10月）
総理府男女共同参画室（1999）367.1/To18
35. ナイロビから北京へ：10年の歩み(昭和61年度～平成7年度) / 総理府編
総理府（1996）367.1/N28
36. 日本NGOレポート：女性2000年会議に向けて / 日本NGOレポートをつくる会
日本NGOレポートをつくる会（1999）367.1/N71
37. 広島女子大学における「男女共同参画社会論」の開講
広島女子大学（1997）377.2/H73
38. 北京から日本へ：女性たちのエンパワーメント / 北京JAC[編]
北京JAC（1996）367.2/P36
39. 北京発、日本の女たちへ：世界女性会議をどう生かすか / アジア女性資料センター
アジア女性資料センター（1997）367.2/P36
40. 北京JACからの提言：第4回国連世界女性会議で採択された「北京行動綱領」の実現に向けて / 北京JACワーキンググループ1[編]
北京JACワーキンググループ1（1995）367.21/P36
41. ワーキング・ウーマンの仕事と生活：男女共同参画社会をめざして / 山岡照子[ほか]著
マネジメント社（1995）366.3/W33
42. わかりやすい男女共同参画政策と女性のエンパワーメント / 川橋幸子著
アプレコミュニケーションズ（1998）367.1/W25
43. ESCAPハイレベル政府間会議(1999.10 Bangkok)資料一式, Economic and Social Commission for Asia and the Pacific(ESCAP)（1999）367.1/E19
44. A national monitoring strategy (1996-2000) : institutionalizing congressional oversight on the government's implementation of the Beijing platform for action and laws on women
Philippine NGO Beijing Score Board(PBSB)（1999）
45. Beijing plus five country report / Singh Durbar
Ministry of Women and Social Welfare（1999）
46. East Asian NGO Repot for the UN Special Session Women 2000 : Gender Equality, Development and Peace for the twenty-first Century
East Asian preparatory Meeting for Beijing+5 Review（1999）
47. Mexico follow-up of Beijing's platform of action
Mexico City（1999）
48. Highlights of the Philippine implementation of the Beijing platform for action 1995-1999 / National Commission on the Role of Filipino Women(National Machinery for the Advancement of Women)
Vibal Publishing House（1999）
49. Philippine post-Beijing score board / Jeanne Frances
Philippine NGO Beijing Score Board(PBSB)（1999）
50. Planning and budgeting for gender equality : The Philippine Experience / National Commission on the Role of Filipino Women(National Machinery for the Advancement of Women)
Vibal Publishing House（1999）
51. Towards gender equality in the world of work in Asia and the Pacific
International Labour Office(ILO) Regional Office for Asia and the Pacific（1999）
- < 雑誌 >
- ・月刊自治研 vol.41 no.473
[特集] 男女共同参画社会へ！
自治権中央推進委員会事務局発行 1999.2
 - ・Newsletter (2000年会議 - 21世紀に向けての男女平等・開発・平和 - に向けて)
女性2000年会議日本国内委員会 有識者部会編集・発行 1999.8～

新着図書案内

当会館婦人教育情報センターで平成11年9月～平成12年3月までに受贈した資料の中から、最近刊行されたもので一般には入手しにくく、女性問題学習に参考になると思われる資料をご紹介します。

1. 「大阪市地域婦人団体協議会50年のあゆみ」大阪市地域婦人団体協議会(2000.2)
2. 「改正均等法施行に関する調査報告書(概要版)」連合総合男女平等局(2000.3)
3. 「会話相手の「夫の呼び方・妻の呼び方」作品集」財団法人やまぐち女性財団(1999.11)
4. 「学校教育とジェンダー形成に関する研究(平成10年度教育研究学内特別経費報告書)」お茶の水女子大学附属学校連携教育研究学校教育研究学校教育とジェンダー形成研究会(1999.3)
5. 「キング女史(さん)と鹿児島：日米の出会い五十年の果実」南日本新聞社(1999.11)
6. 「くらしをつくる：コープこうべの女性たちの歩み」神戸新聞総合出版センター(1999.11)
7. 「兼業農林漁家女性の経済的自立とまちづくりへの参画(平成10年度調査研究報告書)」福岡県女性財団(1999.3)
8. 「高校生にとっての「時間」(モノグラフ・高校生Vol.58)」ベネッセ教育研究所(2000.2)
9. 「厚生科学研究(子ども家庭総合研究事業)報告書」[厚生省](1999)
10. 「高度情報化社会における新しい子育てネットワーク形成に関する実証的調査研究」中野洋恵研究代表(1999.3)
11. 「高齢社会を支える健康・福祉サービス等に関する研究会報告書」経済企画庁物価局(1999.6)
12. 「20代～50代既婚女性の結婚意識調査(ことばき科学情報'99/Vol.22)」株式会社オーエムエムジー(1999.7)
13. 「20代～50代既婚男性の結婚意識(ことばき科学情報'99/Vol.23)」株式会社オーエムエムジー(1999.9)
14. 「子供いる30代・40代既婚女性の子育て意識調査(ことばき科学情報'99/Vol.24)」株式会社オーエムエムジー(1999.11)
15. 「西暦2000年新成人の恋愛・結婚意識調査(ことばき科学情報'99/Vol.25)」株式会社オーエムエムジー(2000.1)
16. 「子どもと未来をきりひらこう：子ども権調査のまとめ」東京・生活者ネットワーク(2000.2)
17. 「こどもの「お風呂」に関するアンケートを実施：低学年は「お母さん」と、高学年は「一人」で入るのが好き!!(千代田生命ニュース)」千代田生命(1999.12)
18. 「子どもは変わったか(モノグラフ・小学生ナウVol.19-3)」ベネッセ教育研究所(2000.2)
19. 「「子ども部屋」調査の結果報告」(株)穴吹工務店研究開発室商品開発課(2000.2)
20. 「埼玉県女性センター(仮称)基本計画」埼玉県環境生活部女性政策課(1999)
21. 「ジェンダー：エンパワーメントを考える」国際開発高等教育機構(1999.3)
22. 「集落運営への女性の参加」農村生活総合研究センター(1999.3)
23. 「障害児との共生のための教育・福祉活動に関する調査研究：家庭・学校・地域の連携をめざして」財団法人伊藤忠記念財団(1999.11)
24. 「小学生まるごとデータ：10年前と比べて見ると...」(学研版小学生白書'99年)」学研学習編集部・子ども研究グループ(2000.3)
25. 「女性起業の拡大とネットワーク化に関する研究(平成10年度調査研究報告書)」福岡県女性総合センターあすばる(1999.3)
26. 「女性情報とライブラリー活動」(財)大阪府男女協働社会づくり財団(1999.11)
27. 「女性のエンパワーメント：男女共同参画社会の確立をめざして その2」大学婦人協会(2000.3)
28. 「女性の就労と資格の効果」東京都立労働研究所(1999)
29. 「女性のためのハンドブック」生涯学習を進める甘木朝倉女性会議男女共同参画社会づくりセミナー実行委員会(2000.1)
30. 「自立した女と男のいい関係：ジェンダー・フリーへの挑戦(平成11年度文部省委嘱事業青年男女の共同参画セミナーの足あと)」わかものジェンダー塾実行委員会(2000.2)

31. 「進化するインターネット親子：第1回「親子週末探偵団」報告書（からざレポート'99 Vol.3）」くもん子ども研究所(2000.3)
32. 「シンガポール共和国の青少年」国立オリンピック記念青少年総合センター(2000.1)
33. 「青年の「男女共同参画」に関する意識：調査研究報告書」平成11年度文部省委嘱事業「青年男女の共同参画セミナー」実行委員会、国立江田島青年の家(2000.3)
34. 「1999年版くもん子どもファックス調査（からざレポート'99 Vol.3）」くもん子ども研究所(2000.2)
35. 「全国教育女性連盟35周年」全国教育女性連盟(1999.11)
36. 「全国教育女性連盟35周年」全国教育女性連盟(1999.11)
37. 「第11回国際女性技術者・科学者会議『地球環境のための科学と技術』報告書」ICWES-11事務局(2000.3)
38. 「第11回国際女性技術者・科学者会議：公開シンポジウム地球環境に果たす女性の役割」第11回国際女性技術者・科学者会議公開シンポジウム実行委員会(2000.1)
39. 「第11回国際女性技術者・科学者会議医療部門分科会医学論文集付随筆集：医学を志す若き女性（ひと）へのメッセージ」第11回国際女性技術者・科学者会議医療部門分科会実行委員(1999.7)
40. 「多世代農家の家族関係と女性の自立」農村生活総合研究センター編(1999.3)
41. 「たのしいな：わたしたちの愛する子どもたちへ」はちのへウィメンズアクション(2000.2)
42. 多文化を生きる：境界のとらえかた（自由学校「遊」ブックレット5）さっぽろ自由学校「遊」(2000.3)
43. 「男女共同参画社会に関する意識調査報告書」栃木県(2000.1)
44. 「男女協働社会の実現をめざす府民意識調査報告書」大阪府生活文化部男女協働社会づくり課(1999.12)
45. 「男女平等に関する新宿区職員意識調査報告」新宿区女性関係行政推進連絡会議小委員会(1999.5)
46. 「貯蓄に関する意識調査」東海銀行(2000.3)
47. 「翔べ！女性職員：自治体の明日を拓く元気なメッセージ」財団法人自治研修協会、地方自治研究資料センター(2000.1)
48. 「ネパールにおける女性の教育と女性教員の現状：実態調査と政策提案」ネパール女性の教育を考える会（研究代表 山下泰子）(2000.2)
49. 「農村女性の法的支援に関する国際比較調査」農山漁村女性・生活活動支援協会(1999.3)
50. 「パートタイマーのためのガイドブック」日本婦人会議埼玉県本部(2000.2)
51. 「「避妊」および「ピル」に関する調査 平成11年」ヤンセン協和株式会社
52. 「ベトナムの女性（アジア女性シリーズNo.7）」（財）アジア女性交流・研究フォーラム(2000.2)
53. 「三重県女性センター相談事業から見る女性の抱える社会的問題」三重県女性センター(1999.3)
54. 「みのり：創立50周年記念誌」財団法人埼玉県母子寡婦福祉連合会(2000.1)
55. 「メリーランドの女性と語るシンポジウム報告書：国際高齢者年記念」かながわ女性会議(1999.11)
56. 「やってみようよ。君も参加すると「ジェンダー」がわかる!?実施報告書」青森県青年男女共同参画セミナー実行委員会(2000.3)
57. 「幼児をめぐる子育て環境」くもん子ども研究所(1999.1)
58. 「ラバンがきた日」はちのへウィメンズアクション(2000.2)



編集後記

会館から見える都幾川の桜もほころびはじめ、日に日に春が近づいていることを感じさせてくれます。新たな年度を迎え、「WINET情報」も今まで以上に充実した内容としていきたいと思っております。

今号の巻頭言は、『「国連特別総会：女性2000年会議」にむけて』という表題にて目黒依子氏に執筆していただきました。又エックも平成12年度は『男女共同参画社会の形成をめざした「学習」と「活動」』を総合テーマとして国連女性2000年会議への取り組みとその成果を踏まえ、21世紀の地球的規模での男女平等・女性の地位向上につながる事業を行っていきますのでご期待ください。

今号で簡単にご紹介していますが、3月24日に又エック女性情報ニューシステム「WinetCASS（ウィネットキャス）」という女性情報に関するホームページ、データベースを横断検索する新しいシステムをホームページで公開いたしました。WINETデータベースの情報の更新も進めておりますので、どうぞご活用ください。

会館情報として掲載した「全国ボランティア情報提供・相談窓口事業」については、開設後、多くの問い合わせがあり、ボランティア活動に対する関心の広がりを感じました。まだまだ、よちよち歩きの事業ですが更なる充実を図りボランティアの輪が大きく広まることを願っています。

(A.S)

WINET情報 No.5

発行日 平成12年3月31日

編集・発行 国立婦人教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地

電話 0493(62)6711(大代表)

ホームページ URL <http://www.nwec.go.jp>

E-mail webmaster@nwec.go.jp

印刷 株式会社青松社

電話 03(3479)7111(大代表)

